

1	ライフデザイン通論	LD-F-101,LS-F-101,LM-E-101	必修 2単位 1 年前期
	Introduction of Life Design		
	授業形態	該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
1 年全組 小祝 慶紀 阿部 寛史 伊藤 美由紀 大沼 正寛 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 岸本 誠司 大場 真田中 望 亀井 あかね			
授業の達成目標			
1. 3学科のそれぞれの学びを理解できる 2. ライフデザイン学部での学びの広がりを理解できる 3. 副専攻への入口を理解し、自主的な学びを選択できる			
ミニマムリクワイアメント			
ライフデザイン学部の各学科の学びを理解し、3学科間の学びの広がりを考える知見を得ることができる。			
授業の概要			
生活デザイン学科、産業デザイン学科、経営デザイン学科の教育目標・体系を学ぶ。その上で、各学科に関連する話題提供を行うことによってライフデザイン学部の学術領域及び各学科の基盤、関心事項や専門技術などを紹介する。それらによりライフデザイン学部全体の学びを理解した上で、副専攻の学びへの入り口と位置付ける。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義中に適宜示す			
参考書等			
講義中に適宜示す			
成績評価方法・基準			
レポートを元に総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各回の授業及び学科ごとに適宜フィードバックを行う。			
備考			

1	ライフデザイン通論	LD-F-101,LS-F-101,LM-E-101	必修 2単位 1 年前期
	Introduction of Life Design		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：ライフデザイン学部について	学部で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
第2回	生活デザイン学科編01	講義をもとに、学部の学びについて考えておく。	2
第3回	生活デザイン学科編02	生活デザイン学科における「生活福祉」の領域について、これまでの学びをまとめる	2
第4回	生活デザイン学科編03	生活福祉について、学んだことを復習する	2
第5回	生活デザイン学科編04	生活デザイン学科における「生活環境」の領域について、これまでの学びをまとめる	2
第6回	生活デザイン学科編05	生活環境について、学んだことを復習する	2
第7回	生活デザイン学科編06	生活デザイン学科における「生活文化」の領域について、これまでの学びをまとめる	2
第8回	生活デザイン学科編07	生活文化について、学んだことを復習する	2
第9回	生活デザイン学科編08	第2回から第4回までの講義内容の振り返りを行う	2
第10回	生活デザイン学科編09	講義中の発言や議論について不明点を調べ、今後の学びに備える	2
第11回	産業デザイン学科編01	モノのデザインに関する暮らしを良くするデザインについて、これまでの学びをまとめる	2
第12回	産業デザイン学科編02	暮らしを良くするデザインについて、学んだことを復習する	2
第13回	産業デザイン学科編03	モノのデザインに関する情報を伝達するデザインについて、これまでの学びをまとめる	2
第14回	産業デザイン学科編04	モノのデザインに関する情報を伝達するデザインについて、学んだことを復習する	2
第15回	産業デザイン学科編05	モノのデザインに関する地域や社会、経済活動のデザインについて、これまでの学びをまとめる	2
第16回	産業デザイン学科編06	地域や社会、経済活動のデザインについて、学んだことを復習する	2
第17回	産業デザイン学科編07	コトのデザインに関する複合的・総合的なデザインについて、これまでの学びをまとめる	2
第18回	産業デザイン学科編08	複合的・総合的なデザインについて、学んだことを復習する	2
第19回	経営デザイン学科編01	経営デザインについて、これまでの学びをまとめる	2
第20回	経営デザイン学科編02	講義中学んだことを復習する	2
第21回	経営デザイン学科編03	第10回からの内容の振り返りを行う	2
第22回	経営デザイン学科編04	講義中学んだことを復習する	2
第23回	経営デザイン学科編05	第10回からの内容の振り返りを行う	2
第24回	経営デザイン学科編06	講義中学んだことを復習する	2
第25回	経営デザイン学科編07	第10回からの内容の振り返りを行う	2
第26回	経営デザイン学科編08	講義中学んだことを復習する	2
第27回	まとめと副専攻について	3学科の学びの広がりと副専攻のつながりについて確認しておく	2
第28回		3学科の学びの広がりと副専攻のつながりについて理解する	2

2	コミュニティネットワーク論		LD-F-201,LS-F-201,LM-E-201	選択 2単位 2 年前期
	Theory of Human Community and Network			
	授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	 	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
	○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目		
		実務経験のある教員担当		
		アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
2 年全組 阿部 寛史 長崎 智宏 大沼 正寛 谷本 裕香子 岸本 誠司 亀井 あかね				
授業の達成目標				
社会におけるコミュニティやネットワークの重要性を認識し、その基礎知識を身につけるとともに、事業企画・ものづくり・まちづくりの具体的な課題において、これを参照・活用できるようになる。現実社会の課題を多角的に捉えるための知識を身につけるとともに、事業企画、ものづくり、都市開発など、具体的な課題において、多様な視点から創造的に問題解決に取り組めるようになる。				
ミニマムリクワイアメント				
コミュニティやネットワークの基礎知識を理解し、事業企画・ものづくり・まちづくりの課題解決に応用できる知見を最低限身につける。				
授業の概要				
コミュニティやネットワークの重要性を学び、多角的な視点で社会課題を分析し解決する力を養い、事業企画やものづくり、まちづくりといった具体的な課題を通じて、創造的な問題解決力を身につけます。また、ゲストスピーカーの実務経験や学部教員の専門知識を学ぶことで、ライフデザイン学部ならではの学びを軸に現実社会で役立つスキルと知見を深めていきます。				
実務経験を活かした教育について				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
なし				
参考書等				
成績評価方法・基準				
レポートを元に総合的に評価する。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
適宜コメントシートなどを活用しフィードバックを行う。				
備考				

2

コミュニティネットワーク論

LD-F-201,LS-F-201,LM-E-201

選択 2単位 2 年前期

Theory of Human Community and Network

授業計画 (各回の学習内容等)

	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	大学・学部・学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		講義をもとに、学部の学びについて考えておく。	2
第2回	産業デザイン編 (分野の特徴的な事例研究)	産業デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第3回	産業デザイン編 (分野の応用的な事例研究)	産業デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第4回	産業デザイン編 (ゲストスピーカーによる講演)	産業デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第5回	クロストーク (学科教員によるセッション)	前3回の講義内容を振り返り、総合的に考察しておく。	2
		領域・分野を超えた学びについて、当該編の側面から再考する。	2
第6回	生活デザイン編 (分野の特徴的な事例研究)	生活デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第7回	生活デザイン編 (分野の応用的な事例紹介)	生活デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第8回	生活デザイン編 (ゲストスピーカーによる講演)	生活デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第9回	クロストーク (学科教員によるセッション)	前3回の講義内容を振り返り、総合的に考察しておく。	2
		領域・分野を超えた学びについて、当該編の側面から再考する。	2
第10回	経営デザイン編 (分野の特徴的な事例研究)	経営デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第11回	経営デザイン編 (分野の応用的な事例研究)	経営デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第12回	経営デザイン編 (ゲストスピーカーによる講演)	経営デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第13回	クロストーク (学科教員によるセッション)	前3回の講義内容を振り返り、総合的に考察しておく。	2
		領域・分野を超えた学びについて、当該編の側面から再考する。	2
第14回	最終討論・ライフデザイン学部の学びの可能性と課題	各回コメントシートを振り返り、講師、内容を整理しておく。	2
		授業の達成目標と理解度を各自がチェックする。	2

3	プロジェクトデザイン	LD-F-202,LS-F-209,LM-E-203	必修 (SD学科) 選択 (CD学科・MD学科) 2単位 2年後期
	Project Design		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 畠山 雄豪 阿部 寛史 岸本 誠司 大場 真 佐藤 飛鳥 亀井 あかね			
授業の達成目標			
プロジェクトのデザインとマネジメントについての基礎的な知識を身につける。プロジェクトの実施に伴う各種の評価方法について理解する。実践例を通して、実行的なプランニングの手法の理解を深める。			
ミニマムリクワイアメント			
プロジェクトをデザインする上で必要な基礎知識を理解し、プロジェクト発案を検討することができる。			
授業の概要			
主に宮城を含む東北地方を始めとする地域で実践されている各種プロジェクト事例を題材に、プロジェクトの計画、準備、実施、評価の各フェーズにおいて必要なデザイン手法や知識を身につける。さらに、プロジェクトを進めるうえで必要な、運営の仕組みや住民参加などのプロジェクト管理や関係者の参加のすめかたについても学んでいく。また、デザインにおいてどのように発想し相手に伝える表現をするのか学んでいく。これらを受けて、プロジェクトをどのように経営的視点で進めていくのか理解する。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
地域社会の課題を市民協働で取り組む活動や自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動に従事しており、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義中に適宜示す			
参考書等			
講義中に適宜示す			
成績評価方法・基準			
各回におけるレポート、試験による			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各回またはまとまりの内容ごとに回答を提示する			
備考			

3	プロジェクトデザイン		LD-F-202,LS-F-209,LM-E-203	必修 (SD学科) 選択 (CD学科・MD学科)	2単位 2年後期
	Project Design				
授業計画 (各回の学習内容等)					
	学習内容 (授業方法)		学習課題 (上段予習・下段復習)		目安時間(時)
第1回	プロジェクトデザインとは		プロジェクトと計画との違いを予習する。		2
第2回	プロジェクトデザイン (生活デザイン学科編) _都市編		プロジェクト実施するにあたり、各段階の基本的な作業や内容を理解し、復習する。		2
第3回	プロジェクトデザイン (生活デザイン学科編) _地域編		都市部におけるプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。		2
第4回	プロジェクトデザイン (生活デザイン学科編) _運営編		参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。		2
第5回	プロジェクトデザイン (生活デザイン学科編) _地域デザイナー・空間設計編		地域におけるプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。		2
第6回	プロジェクトデザイン (生活デザイン学科編) _施設編		参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。		2
第7回	プロジェクトデザイン (生活デザイン学科編) _まちづくり編その1		都市部におけるまちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。		2
第8回	プロジェクトデザイン (生活デザイン学科編) _まちづくり編その2		目的設定とプロセスのデザインを実践例を通して学び、復習する。		2
第9回	プロジェクトデザイン (産業デザイン学科編) _ケーススタディ編		地域デザイナーや空間設計者がかかわるプロジェクトについて予習する。		2
第10回	プロジェクトデザイン (産業デザイン学科編) _アイデア発想編		地域とのかわり、具現化する実践例を通して学び、復習する。		2
第11回	プロジェクトデザイン (産業デザイン学科編) _デザイン表現技法編		公共施設等にかかわる主体について予習する。		2
第12回	PBLにむけて1 (経営デザイン学科編) _予算とリスク・制約を考慮した計画とその修正		地域とのかわり、具現化する実践例を通して学び、復習する。		2
第13回	PBLにむけて2 (経営デザイン学科編) _バックキャストによる目標・戦略策定		まちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。		2
第14回	まとめ		参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。		2
			まちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。		2
			参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。		2
			まちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。		2
			まちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。		2
			デザイン活動におけるプロジェクト、またはプロジェクト活動におけるデザインの役割について調べておく		2
			授業で提示された事例・活動・状況等について、まとめておく		2
			アイデア発想に用いられる手法を調べておく		2
			授業で提示された事例・活動・状況等について、まとめておく		2
			アイデアを伝えるためにどのような表現が用いられるか、調べておく		2
			アイデア、企画、プロジェクト状況などを伝達するための表現方法について理解を深めておく		2
			経営とマネジメントの違い(目的)について、マネジャーの役割について調べてまとめておく。キーワード: 品質管理、コスト管理、スケジュール管理、スコープ管理(プロジェクトの範囲)、リスク管理		2
			経営上に起こり得る内部環境・外部環境の変化によるリスクや制約から生じる計画修正の必要性に対応できる策をまとめる。		2
			プロジェクトマネジメントの方法について調べてまとめておく。キーワード: ガンチャート、PERT、CCPM、WBS		2
			アジャイル、ウォーターフォールなどを用いた計画立案方法をまとめ直す。スケジュール管理、進捗モニタリングおよびコントロール方法をまとめ直す。		2
			生活デザイン学科編、産業デザイン学科編、経営デザイン学科編それぞれのプロジェクトの向き合い方について整理しておく。		2
			総合的なプロジェクトデザインの進め方、展開の仕方について理解を深めておく		2

4	P B L I	LD-F-301,LS-F-302,LM-E-301	選択 2単位 3 年前期
	Problem/Project-Based Learning		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 佐藤 飛鳥			
授業の達成目標			
地域や組織の課題やニーズ(例えば企業の売上低下や消費者の変化への対応策不足など)を発見し、解決策を導くまでのプロセスを理論的に学び理解する。(連続受講推奨科目PBLⅡにて)「企業や地域の課題を解決する提案」を行うために必要となる基礎理論を身につける。マーケティング論で学んだ分析手法も使いながら、本科目で商品7つ道具などの新たな手法を学びつつ、社会で求められる「チーム作業で力を発揮できる」力をつける。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 地域や組織の課題やニーズを発見することができる (2) マーケティングで利用する分析手法を適用できる (3) 商品企画7つ道具を理解する (4) 商品企画7つ道具を活用できる (5) チームで調査企画・実践までのロードマップを作成できる			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは(1)～(3)とする。			
授業の概要			
課題設定方法や論理構成の方法を学びながら、資料やデータを用いて分析のワークも行う。ロジカルシンキング・クリティカルシンキングを実践し、リサーチ・リテラシー(調査結果の批判的読解能力)を身につけ、自ら課題を設定し研究テーマを探索することを通じて、これまでに得た知識や経験を総合的に活用する。また、調査企画や実践までのロードマップ作成を通じて、企画・立案能力を高める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
成績評価方法・基準			
講義中のワークや発言(20%) 講義中に指示するホームワーク(20%) 期末に提出するチームでの調査企画や実践までのロードマップ(60%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
ワークやホームワークを実施した次の回の講義の冒頭に、提出された内容を紹介しながらコメントする。			
備考			

4		PBL I	LD-F-301,LS-F-302,LM-E-301	選択 2単位 3 年前期
Problem/Project-Based Learning				
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	PBLとは何か 社会に必要な能力とPBLで伸びる力：オリエンテーション	PBLをキーワードに調べ、まとめる	2	
第2回	地域や組織の課題・ニーズを考える：宮城県、または出身地の課題とニーズ、または身近な組織の課題とニーズ	PBLで身につく基礎的・汎用的能力（ジェネリック・スキル）とエンプロイアビリティ（雇用されうる能力）の関係をまとめる 宮城県、または出身地の課題とニーズ、または身近な組織の課題とニーズを考える	2	
第3回	課題・ニーズを取り巻く外部環境を検討する①PEST/3C：マーケティングの分析手法であるPEST分析と3C分析を行う	宮城県、または出身地の課題とニーズ、または身近な組織の課題とニーズをまとめ直す PEST分析と3C分析を調べ、まとめる	2	
第4回	課題・ニーズを取り巻く外部環境を検討する②SWOT：マーケティングの分析手法であるSWOT分析を行う	第2回で設定したテーマでPEST分析と3C分析を行う SWOT分析を調べ、まとめる	2	
第5回	商品企画による課題解決①商品企画7つ道具前半：インタビュー調査、アンケート調査、ポジショニング分析、アイデア発想法、アイデア選択法、コンジョイント分析、品質表を理解する	第2回で設定したテーマでSWOT分析を行う 商品企画7つ道具を調べ、まとめる	2	
第6回	商品企画による課題解決②商品企画7つ道具後半：仮説発掘法、フォト日記調査法、仮説発掘アンケート調査法、競合対象商品調査法を調べ、まとめる	1つの手法を選択して第2回で設定したテーマで分析する	2	
第7回	チームづくり：チームで解決したい課題とニーズを決定する	仮説発掘法、フォト日記調査法、仮説発掘アンケート調査法、競合対象商品調査法を調べ、まとめる 1つの手法を選択して第2回で設定したテーマで分析する	2	
第8回	チームで課題分析を行う：課題の所在を洗い出す	解決したい課題とニーズを2つまとめておく チーム全員が解決したい課題とニーズを統一する	2	
第9回	チームで課題解決策を考える	マーケティングの分析手法や商品企画7つ道具を用いて課題を分析する チームの見解をまとめる	2	
第10回	行動計画の立案：ステークホルダー、特に提案後の実現可能性を高める主体を定め、課題解決に向けた行動計画	第8回の内容と復習内容をもとに課題解決策を1つ考えておく チームの見解をまとめる	2	
第11回	企画書（プレゼンテーション）の準備①：チームごとに資料作成	ステークホルダー、特に提案後の実現可能性を高める主体を洗い出す 課題解決に向けた行動計画の素案を策定する	2	
第12回	企画書（プレゼンテーション）の準備②：チームごとに資料作成	企画書の構成を決め、担当者を決める 企画書に取りかかり、完成までのスケジュール感をチームで共有する	2	
第13回	企画書プレゼンテーション：企画書の講義内プレゼンテーション実施	企画書の作成を進める 企画書を完成し、プレゼンの担当部分を決める	2	
第14回	振り返り：実効性のある企画案に修正する	効果的なプレゼンテーションになるように準備する 他のチームの良かった点を参考にして企画書をまとめ直す プレゼンテーション後の修正点をまとめる	2	
		後続科目「PBLⅡ」に向けての計画立案を行う	2	

5

P B L II

LD-F-302,LS-F-307,LM-E-304

選択 2単位 3 年後期

Problem/Project-Based Learning

授業形態	該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当) 複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当) オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) クラス分け (クラス分けて担当する)	教職科目 (工業) 教職科目 (情報) 教職科目 (商業) 地域志向科目 実務経験のある教員担当 アクティブラーニング メディア授業	8 持続可能な消費 9 産業・イノベーション 11 持続可能な都市とコミュニティ 12 持続可能な消費

クラス・担当教員

3 年全組
佐藤 飛鳥

授業の達成目標

企業や地域 (行政機関) 等の課題にチームで解決策をまとめ、成果報告会で解決策を提案する。学外でのフィールドワークを行うことがある。学びと実践を積み重ねる中で、社会人基礎力、自在に人と関わる力、問題解決力、ブランド戦略立案力、提案力を養う。

ミニマムリクワイアメント

(1) 地域や企業の課題をまとめることができる

(2) PBL I で学んだ手法をチームで活用できる

(3) PBL II で学ぶ手法をチームで活用できる

(4) 地域や企業の強み・コアコンピタンスを理解したうえで新商品企画・開発などの提案ができる

(5) 提案を受けた者が納得し、採用されるプレゼンテーションができる

本科目におけるミニマムリクワイアメントは (1) ~ (4) とする。

授業の概要

企業や地域と可能な限りコラボし、明確な答えがない社会課題に挑む。チームで提案をまとめ、企業や地域の方から評価を受ける。コラボ可能な企業または地域を募集するが、毎年準備できるとは約束できず、不可能な場合には受講者の興味に合わせて取り組むテーマを決定する。

大枠で 2 つのテーマで進める。
【ブランドプロデュース：地域・自治体との連携】
地域産品をもとに名産品、地元グルメなどの新商品を企画・開発し、提案する。
【新商品プロデュース：企業との連携】
既存企業のブランドを維持または発展させる新商品を企画・開発し、提案する。

* PBL II は PBL I で基礎理論を学んだ受講者が理論を元に実践的に提案を行う科目であり、企業や地域との連携には責任を伴うため、PBL I の単位を取得済みであることを履修条件とする。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

参考書等

成績評価方法・基準

講義中のワークや発言 (20%)
講義中に指示するホームワーク (20%)
期末に提出するチームでの企画提案書 (60%)

課題や試験等に対するフィードバック方法

ワークやホームワークを実施した次の回の講義の冒頭に、提出された内容を紹介しながらコメントする。

備考

5	PBL II		LD-F-302,LS-F-307,LM-E-304	選択 2単位 3年後期
	Problem/Project-Based Learning			
授業計画 (各回の学習内容等)				
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第1回	オリエンテーション：PBL I で学んだことの振り返り	PBL I のノートを読み返す	2	
第2回	プロジェクト活動の実践①ブランドプロデュース：地域・自治体との連携、または新商品プロデュース：企業との連携のいずれで進めるかを決定する(参加学生のプレゼンによる)	PBL II で行うことをまとめ直す	2	
第3回	プロジェクト活動の実践②依頼元を訪問する際のマナー、ヒアリングシートの作成	ブランドプロデュース、または新商品プロデュースのどちらを希望するかを決めておく 決まった方で取り組みたい地域や企業などを想定する	2	
第4回	プロジェクト活動の実践③コラボを打診する準備(企画書、依頼文書、電話、アポイントの取り方など)	ビジネスマナーを調べ、身につける	2	
第5回	プロジェクト活動の実践④コラボを打診する(正式依頼)	ヒアリングシートを完成させる	2	
第6回	プロジェクト活動の実践⑤新商品企画案を検討する：強み、コアコンピタンスを活かす	コラボしたい地域・自治体・企業等の担当者(連絡先)を洗い出す	2	
第7回	プロジェクト活動の実践⑥新商品企画案を検討する：差別化を図る	コラボ依頼の準備を終わらせる	2	
第8回	プロジェクト活動の実践⑦新商品企画案を検討する：ニーズとのリンクを確認する	コラボ依頼に不備がないかも一度確認する	2	
第9回	プロジェクト活動の実践⑧新商品企画案の中間報告：講義内、またはコラボ先で方向性を確認するために新商品	コラボの内容を再確認する	2	
第10回	プロジェクト活動の実践⑨新商品企画案をブラッシュアップする	マーケティングの分析手法、商品企画7つ道具などを駆使して新商品企画案に着手する チーム内で企画案を共有しておく	2	
第11回	プロジェクト活動の実践⑩実現までのロードマップを策定する	マーケティングの分析手法、商品企画7つ道具などを駆使して新商品企画案に着手する チーム内で企画案を共有しておく	2	
第12回	プロジェクト活動の実践⑪採用されるプレゼンテーションづくり	マーケティングの分析手法、商品企画7つ道具などを駆使して新商品企画案に着手する チーム内で企画案を共有しておく	2	
第13回	プロジェクト活動の実践⑫新商品企画案の提案：講義内、またはコラボ先でのプレゼンテーション	講義内、またはコラボ先で方向性を確認するための新商品企画案をプレゼンする資料を作成する フィードバックを企画案に反映させる	2	
第14回	振り返り	類似商品との差別化を確認する 実現のための予算を立ててみる	2	
		コラボ先がどのように新商品企画を進め、実売し、利益を得ることができるか、現実的なロードマップを描く 講義内でのフィードバックを元にロードマップを修正する	2	
		コラボ先に採用されるプレゼンテーションの素案を作る 講義内でのフィードバックを元にプレゼンテーションを修正する	2	
		プレゼンテーションを完成させておく	2	
		講義内、またはコラボ先でのフィードバックを元に最終修正を行い、教員またはコラボ先に提出する	2	
		チームで提案の良かった点、修正が必要な点を話し合う	2	
		提案を最終修正する	2	

6	経済学入門	LM-A-101	必修 2単位 1 年前期
Introduction to Economics			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 金井 辰郎			
授業の達成目標			
ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎部分の学習を通じて、経済の基礎を理解する。			
ミニマムリクワイアメント			
1 条件付き最大化の計算方法が理解でき、またその方法を用いて、予算制約式と効用関数の式から効用最大化点を求めることができること。 2 45度線分析について、消費関数、総需要関数、45度線の意味が理解できること。			
授業の概要			
ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎部分を扱う。上級学年で開講される「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」が本科目の続編となっており、本科目に加えて両科目を履修することにより、学部レベルのミクロ・マクロ経済学の標準的内容が網羅される。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 講義ノートを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テスト (40%) + 試験 (60%) で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストおよび試験については、webclassにてフィードバックを行う。			
備考			

6	経済学入門	LM-A-101	必修 2単位 1 年前期
Introduction to Economics			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	経済学とはどのような学問か	経済学という学問分野の性格について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 2 回	ミクロ経済学を学ぶための準備	ミクロ経済学において使用される簡単な数学について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 3 回	効用関数	効用関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 4 回	予算制約式	予算制約式について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 5 回	価格・所得の変化と効用最大化点	価格・所得の変化と効用最大化点について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行うことを復習とする。	2
第 6 回	効用最大化 (計算による説明)	効用最大化 (計算による説明) について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 7 回	中間のまとめと試験	それまでに学習した内容について理解し、復習する。 内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 8 回	マクロ経済学とは・GDP の三面等価性	マクロ経済学という学問および GDP の三面等価性について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 9 回	消費・貯蓄・投資	消費・貯蓄・投資について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 10 回	消費関数	消費関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 11 回	総需要関数	総需要関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 12 回	45 度線図：45 度線の意味	45 度線の意味について調査・研究を行う。 ことを予習とし、講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 13 回	45 度線図：均衡と調整過程	45 度線図について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2
第 14 回	まとめと試験	これまでに学んだことを整理する。 授業中に解いた試験問題を復習する。	2

7	経営学入門	LM-B-101	必修 2単位 1年前期
	Introduction to Management		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		○ 教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 阿部 敏哉			
授業の達成目標			
企業の形態と組織、働きを理解し、企業が直面する問題について自分なりに考えられるようになること。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 自分たちの生活が経営学と関連していることを具体定期に理解する。 (2) 企業の基本的な形態を理解する。 (3) 企業の環境適応行動を理解する。 上記 (1) から (3) について理解すること。			
授業の概要			
本講義では主として企業という組織に焦点を当てる。現代の社会に与える企業の影響力が非常に大きいことはもちろん、我々は様々な形で企業と関係を持っており、企業の仕組みと働きを学ぶことは重要な意味を持つと思われるからである。具体的には、企業の形態、組織や働きに加えて、企業と環境の関わりや、企業の社会的責任 (CSR) の問題など、企業の抱える現代的課題にも着目し、企業の全体像を幅広い視点から把握できる能力の獲得を目指す。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員はメガバンクでの勤務経験を活用し、企業を捉える場合のポイントや組織のマネジメントについて、学生が自分たちの生活に応用できるような知識を教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。			
参考書等			
適宜指示する。			
成績評価方法・基準			
期末試験の結果により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は課さない。			
備考			

7	経営学入門		LM-B-101	必修 2単位 1年前期
	Introduction to Management			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	なぜ経営学を学ぶのか	経営学を学ぶ意味を考える。	2	
		経営学を学ぶ意味についてノートを整理する。	2	
第2回	企業とは何か	企業とは何かを考える。	2	
		様々な企業形態とその特徴についてノートを整理する。	2	
第3回	企業と環境の関わり	企業を取り巻く環境について考える。	2	
		環境のとらえ方と企業との関わりについてノートを整理する。	2	
第4回	経営戦略の基本的考え方	経営戦略の意味について考える。	2	
		経営戦略の必要性和その種類についてノートを整理する。	2	
第5回	成長戦略	企業の成長の方法について考える。	2	
		企業の成長戦略とその事例についてノートを整理する。	2	
第6回	競争戦略	企業が競争優位を得るための方法について考える。	2	
		企業の競争戦略とその事例についてノートを整理する。	2	
第7回	経営管理とは何か	管理の意味を考える。	2	
		経営管理の基本的考え方についてノートを整理する。	2	
第8回	組織と経営管理	経営者の役割を考える。	2	
		それぞれの管理活動についてノートを整理する。	2	
第9回	様々な組織	様々な組織について考える。	2	
		基本的な組織形態とその特徴についてノートを整理する。	2	
第10回	組織と人員配置	人員配置について考える。	2	
		人員配置の方法と留意点についてノートを整理する。	2	
第11回	企業と環境	企業と環境について考える。	2	
		事例を元に企業と環境の関係を整理する。	2	
第12回	企業と戦略	企業と戦略について考える。	2	
		事例を元に企業と戦略について整理する。	2	
第13回	企業の社会的責任	企業の社会的責任について考える。	2	
		企業の社会的責任の考え方についてノートを整理する。	2	
第14回	まとめと試験	講義についてノートを整理し直す。	2	
		理解が不十分だった点を見直す。	2	

8	会計学入門	LM-C-101	必修 2単位 1 年前期
	Introduction to Accounting		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 川島 和浩			
授業の達成目標			
貸借対照表や損益計算書などの財務諸表は、ビジネスに関わる会計情報利用者が適切な判断と意思決定をするために必要な書類であり、社会人にとって必須の知識となっています。本授業では、会計情報の良き利用者になるため、会計学とはどのようなものであるか、経済社会でどのように役立ち、また、どのような限界があるかを理解することを目指しています。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 会計の歴史や複式簿記の技法から株式会社の発展の経緯を理解する。 (2) 外部報告会計である財務会計のルールと会計監査のしくみを理解する。 (3) 内部報告会計である管理会計の役割と経営者の意思決定を理解する。 (4) 非財務情報の内容と非営利組織の会計のしくみを理解する 本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) と (2) とする。			
授業の概要			
会計学は、複式簿記を基礎として、財務会計、原価計算、会計監査、管理会計、経営分析などの会計分野が発展してきました。このような状況のもとで、会計理論が構築され、会計基準が確立して、企業のビジネス活動における経済的基盤が支えられています。本授業では、会計学の体系を学びながら、会計情報の読み方の理解に重点を置いています。また、実際の企業行動が、会計情報にどのように反映されているかを学びます。 なお、授業時間中に、学生の理解度を確認するために、学生のスマートフォンあるいはパソコンを利用して、Formsによる回答をしてもらいます。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
吉見宏編著 (2022) 『ビギナーズ会計学』中央経済社。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎回の授業レポート (40%)、課題レポート (20%)、期末試験 (40%) で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示したレポート・課題については、WebClass および次の授業のなかでフィードバックする。			
備考			

8 会計学入門		LM-C-101	必修 2単位 1 年前期
Introduction to Accounting			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	会計学の世界	会計学の隣接分野である経営学、経済学、法学、数学についての関連性について調べてみる。 一般的な会計学の学び方について確認をしてみる。	2
第 2 回	会計史	複式簿記の歴史について調べると同時に、損益計算方式に変化についても調べてみる。	2
第 3 回	簿記	会計技術や会計制度の進歩とともに株式会社がどのようにして発展してきたか、その特徴を確認してみる。 複式簿記の勘定記入法について調べてみる。	2
第 4 回	会計制度	簿記の役割が経営成績を明らかにする損益計算書の作成と、財政状態を明らかにする貸借対照表の作成にあることを確認してみる。 日本の会計制度が、会社法、金融商品取引法、法人税法の3つの法律によって体系化されていることを調べてみる。	2
第 5 回	財務会計	関心のある企業のHPから、有価証券報告書を手がかりとして、貸借対照表と損益計算書の開示情報を確認してみる。 企業の経営者と企業を取り巻く利害関係者(ステークホルダー)とが、どのような利害関係にあるかを調べてみる。	2
第 6 回	原価計算	外部報告会計である財務会計のもとで、貸借対照表における流動・固定の区分や損益計算書における利益計算区分について確認してみる。 株式会社の発展になかで原価計算がどうして必要になったかについて調べてみる。 原価計算基準で規定されている原価計算の目的について確認してみる。	2
第 7 回	会計監査	会計監査の意義と役割について調べるとともに、日本の会計監査制度について調べてみる。 公認会計士が行う会計監査の領域が拡張するなかで、監査の保証業務がどのように行われているかを確認してみる。	2
第 8 回	管理会計	内部報告会計である管理会計は、会計法規を遵守する財務会計とは異なり、会計情報の目的適合性が重要であることと、経営計画と予算の関係について調べてみる。 原価低減と利益管理の関係とともに、新たな管理会計手法の導入事例について確認してみる。	2
第 9 回	経営分析	経営分析の方法として時系列比較や同業他社比較のもとで、売上高利益率や資本利益率など、どのような経営指標があるかについて調べてみる。	2
第 10 回	公会計	関心のある企業のHPから有価証券報告書をダウンロードして経営分析を行い、経営指標の数値を確認してみる。 政府や自治体などの公的部門やNPO法人、学校法人などが公表する財務諸表について調べてみる。 関心のある自治体やNPO法人、学校法人のHPから計算書類や財務諸表をダウンロードして財産管理がどのようになされているかを確認してみる。	2
第 11 回	環境・CSR会計と統合報告	関心のある企業のHPから、情報開示されている環境会計やCSR会計、サステナブル会計を調べてみる。 関心のある企業のHPから、財務情報と非財務情報を統合した統合報告書をダウンロードして経営者のメッセージが目指す企業の存在価値について確認してみる。	2
第 12 回	会計理論	一般的な理論の構造である、帰納法と演繹法について調べてみる。	2
第 13 回	会計実務	会計学における帰納法と演繹法を確認し、実証理論と規範理論について確認してみる。 企業経営のもとで体系化されている組織構造とそこでの会計の役割について調べてみる。 経理部における会計の機能と役割について確認してみる。	2
第 14 回	会計学入門の振り返りの授業を行い、理解を確認するために期末試験を実施する	授業ノート等により授業内容の理解を深めて期末試験に備える。 期末試験に出題した問題について再確認をしてみる。	2

ICTビジネススキルⅠ		LM-D-101	必修 1単位 1 年前期
ICT Business SkillsⅠ			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全クラス － 未定			
授業の達成目標			
1. Microsoft Excel 365 のワークシート・ブックの管理ができる 2. Microsoft Excel 365 のセル・セル範囲のデータ管理ができる 3. Microsoft Excel 365 のテーブル・テーブル範囲のデータ管理ができる 4. 数式や関数を用いた演算を実行できる 5. グラフを管理できる 6. SORT関数・UNIQUE関数を利用できる 7. クイックアクセスツールバー管理できる 8. 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解し関連する技術(書類作成、等)を身に付ける			
ミニマムリクワイアメント			
1. Microsoft Excel 365 のワークシート・ブックの管理ができる 2. Microsoft Excel 365 のセル・セル範囲のデータ管理ができる 3. Microsoft Excel 365 のテーブル・テーブル範囲のデータ管理ができる 4. 数式や関数を用いた演算を実行できる 5. グラフを管理できる 6. SORT関数・UNIQUE関数を利用できる 7. クイックアクセスツールバー管理できる 8. 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解し関連する技術(書類作成、等)を身に付ける			
上記のうち「1・2・3・4・5・8」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
「Microsoft Office Specialist Excel 365 (Associate)」に準拠した項目について解説する。 本講義を通じて、企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
【電子教科書】MOS Excel 365 対策テキスト&問題集(よくわかるマスター)、富士通ラーニングメディア、2023/8/2.			
参考書等			
成績評価方法・基準			
1. 小テスト 2. 中間試験 3. 期末試験			
上記「1・2・3」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
質問等には、WebClassで回答する。			
備考			

9	ICTビジネススキルⅠ		LM-D-101	必修 1単位 1 年前期
	ICT Business SkillsⅠ			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	ガイダンス・電子教科書設定および使用方法	1. 電子教科書クーポンコードを事前に準備し授業に持参する。 2. 高校までに学んだ、Microsoft Excel の基本操作について復習する。	0.5	
		1. 教科書の使用方法について、配布資料を確認し復習する。 2. 教科書の目次、索引の項目を確認し、実際にキーワード検索をしている。	0.5	
第2回	ワークシートとブックの管理	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	
第3回	セルとセル範囲のデータ管理	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	
第4回	テーブルとテーブル範囲のデータ管理	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	
第5回	数式や関数を利用した演算の実行：参照の追加	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	
第6回	数式や関数を利用した演算の実行：データの計算	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	
第7回	前半のまとめと中間試験	教科書の該当箇所を精読し、試験範囲を確認する。	0.5	
		教科書の該当箇所を精読し、試験に出題された項目を確認する。	0.5	
第8回	数式や関数を利用した演算の実行：データの加工	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	
第9回	数式や関数を利用した演算の実行：文字列の整形・変更	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	
第10回	グラフの管理：グラフ作成	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	
第11回	グラフの管理：データ範囲の追加・行データと列データの切替・要素の追加と変更	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	
第12回	グラフの管理：レイアウト・スタイル・代替テキストの追加	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	
第13回	後半のまとめと期末試験	教科書の該当箇所を精読し、試験範囲を確認する。	0.5	
		教科書の該当箇所を精読し、試験に出題された項目を確認する。	0.5	
第14回	重要項目のフィードバック	教科書の該当箇所を精読し、項目を確認する。	0.5	
		講義の内容を整理し、内容を理解する。	0.5	

10	セミナーⅠ	LM-E-102	必修 1単位 1 年前期
Seminar I			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
○	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 二瀬 由理 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 小祝 慶紀 川島 和浩 黎 敏利			
授業の達成目標			
1. 本学科での学習に必要なアカデミックスキルを身につける 2. 就職活動に関する基礎力を身につける 3. 本学科が推奨する資格 (MOS : Word 365 Associate) 取得に向けた学習を通じてビジネススキルを身につける 4. 本学科が推奨する資格 (MOS : PowerPoint 365 Associate) 取得に向けた学習を通じてビジネススキルを身につける			
ミニマムリクワイアメント			
1. 本学のLMSシステムを使い講義資料閲覧・課題提出・メッセージ送受信ができる 2. 本学図書館の資料検索システムをはじめとした資料検索方法について理解する 3. SPIの基本項目を理解し正答できる 4. Microsoft 365 アプリケーション「Microsoft Word 365 Associateレベル」の基本操作ができる。 5. Microsoft 365 アプリケーション「Microsoft PowerPoint 365 Associateレベル」の基本操作ができる。			
上記のうち「1・2」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
大学での学習、生活一般についての概説と指導から始まり、さまざまな課題を通して、これから4年間経営デザイン学科で学ぶために必要な学習スキル・知識・態度を獲得する。その中で、これからの社会において重要となる人工知能の基礎についても学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
別途掲示する。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
1. 各回の受講レポート 2. 小テスト			
「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
個別指導もしくはWebClassからフィードバックする。			
備考			

10	セミナーⅠ	LM-E-102	必修 1単位 1 年前期
Seminar I			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	図書館利用講座	統合認証システムID /PWのメモを持参する。 図書館利用講座の課題に取り組み、LMS (WebClass) から期日までに課題を提出する。	0.5 0.5
第2回	セミナー毎 個別面談	START (学修成果可視化システム) 入力 生涯の目標、大学4年間の目標、1年生前期の目標 (具体的に何を、何のために、期限や数値で示しながらどのように実施するか) を記入できるようにまとめておくことを予習とする。 面談で指摘された部分を修正して目標設定を明確にすることを復習とする。	0.5 0.5
第3回	電子教科書の利用者設定・資格取得支援講座A-1	「資格取得支援講座」の電子教科書コードを購入し、利用者登録をする。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第4回	格取得支援講座A-2	教科書の「MOS (Word 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第5回	資格取得支援講座A-3	教科書の「MOS (Word 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第6回	資格取得支援講座A-4	教科書の「MOS (Word 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第7回	職務適性テスト	就きたい職業について候補を挙げることを予習とし、それらの職業について WEB で調べることを復習とする。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第8回	SPI 講座 1	テキストの範囲を読んでおくことを予習とする。 授業で学習した問題を再度解いてみることを復習とする。	0.5 0.5
第9回	SPI 講座 2	テキストの範囲を読んでおくことを予習とする。 授業で学習した問題を再度解いてみることを復習とする。	0.5 0.5
第10回	資格取得支援講座B-1	教科書の「MOS (PowerPoint 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第11回	資格取得支援講座B-2	教科書のMOS (PowerPoint 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第12回	資格取得支援講座B-3	教科書のMOS (PowerPoint 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第13回	資格取得支援講座B-4	教科書のMOS (PowerPoint 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第14回	自己発見レポートフォローアップ・セミナー毎 期末面談	就きたい職業に必要な勉強や資格、資質を調べることを予習とする。 当該セメスターの学習ならびに大学生活を振り返り、START (学修成果可視化システム) に入力する。 個別面談により指摘された事項をもとに、START (学修成果可視化システム) に修正を行い、次セメスターにおける目標などを設定する。	0.5 0.5

11	心理学入門	LM-X-101	選択 2単位 1 年前期
Introduction to Psychology			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	    
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 二瀬 由理			
授業の達成目標			
(1) 人間が外界情報を取り入れる仕組みを理解する (2) 心理学の知見を用いて、自己理解ができるようになる。 (3) 他人を理解し、良い関係を保つことができるようになる。 (4) 多くの人々の行動や嗜好を調べるため方法を理解する			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標は(1)～(4)とする。			
授業の概要			
本講義では、心理学のさまざまな分野の研究を概説する。特に、“人間の情報処理的側面の理解”、“自己理解”、“他者理解と対人認知”、“心理測定”という 4 つの項目に焦点を当て、講義を進める。 授業の理解度を調べるために、各回の授業の中で LMS を用いて小テストや課題を実施する。また、時折授業の最中に Microsoft Forms を用いてクイズやアンケートを実施し、リアルタイムにフィードバックする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
「図説心理学入門」齊藤勇著 誠信書房			
参考書等			
成績評価方法・基準			
予習の有無を書くための確認テストおよび授業中に提示する課題 (50%) と学期末テスト (50%) の成績に基づいて評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
確認テストや授業中に提示する課題はすべて LMS を用いて実施し、レポートのフィードバックも LMS を通じて行う。			
備考			

11	心理学入門	LM-X-101	選択 2単位 1 年前期
Introduction to Psychology			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	心理学とは何か	教科書の序章 (p1-12) を熟読し心理学の研究対象や心理学の分野について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 2 回	心理学の歴史	LMS に掲示している資料を熟読し心理学の歴史について予習する。資料を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 3 回	感覚・知覚	教科書の第 1 章 § 1～§ 5 (p13-28) を熟読し、人間の感覚と知覚について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 4 回	認知	教科書の第 1 章 § 6～§ 8 (p28-39) を熟読し、知覚より高次な過程を含む認知について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 5 回	欲求と動機付け	教科書の第 2 章 § 1～§ 4 (p40-54) を熟読し、行動の源となる欲求や動機付けについて予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 6 回	感情	教科書の第 2 章 § 5～§ 4 (p54-65) を熟読し、感情について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 7 回	学習・思考	教科書の第 3 章 § 1～§ 2 (p65-94) を熟読し、人間を含む生物の学習過程について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 8 回	社会的学習・記憶	教科書の第 3 章 § 3～§ 4 (p94-111) を熟読し、記憶について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 9 回	発達	教科書の第 4 章 § 1～§ 2 (p112-131) を熟読し、人間の発達過程について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 10 回	発達と教育	教科書の第 4 章 § 3～§ 4 (p131-141) を熟読し、発達と教育の関わりについて予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 11 回	心のやまいとパーソナリティ	教科書の第 5 章 (p142-167) を熟読し、心のやまいとパーソナリティについて予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 12 回	対人認知・対人関係	教科書の第 6 章 (p168-182) を熟読し、対人認知と対人関係について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 13 回	社会心理	教科書の第 6 章 (p182-195) を熟読し、社会の中で人間の行動について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出ししておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2
第 14 回	まとめと試験	予め 14 回までの講義内容をまとめ、質問項目等を洗い出ししておく。試験を受けた上で理解が足らなかった点に関しては教科書を読みもう一度復習する。	2

12	文書コミュニケーション	LM-X-102	選択 2単位 1 年前期
	Document Communication		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 宮曾根 美香 佐藤 夏子 二瀬 由理			
授業の達成目標			
効果的なレトリックコミュニケーションを行う上での文章の特徴と表現方法について理解を深め、ビジネス現場で活用できる技術を身につける。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 論理的でわかりやすい文章について理解し、作成することができる。 (2) 効果的なプレゼンテーションについて理解し、資料を作成することができる。 (3) ビジネスマナーを意識した表現を理解する。 (4) ビジネス場面で使うメールやレターを適切に作成できる。			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)と(2)である。			
授業の概要			
ビジネスの場で求められるレトリックコミュニケーション能力を身につけるために、日本語および英語による文書の作成方法を学ぶ。まず、ロジカルな表現方法の基礎を修得し、続いてビジネス現場で日常的に作成する文書の表現トレーニングを協調学習により実践する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書等は授業において指示する。必要な講義資料はWebClassに載せる。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
各回の授業での課題を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中に提示する課題等はすべて LMS を用いて実施し、フィードバックも LMS を通じて行う。			
備考			

12	文書コミュニケーション	LM-X-102	選択 2単位 1 年前期
	Document Communication		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス 科目の達成目標、概要、進め方、評価方法、テキスト等について説明。	シラバスに事前に目を通し、授業で扱う内容を把握する。	2
第 2 回	ロジカルシンキングのトレーニング 1	ビジネス場面における書くコミュニケーションの目標を明確にする。	2
第 3 回	ロジカルライティングのトレーニング 2	論理的でわかりやすい文の条件を調べる。	2
第 4 回	ロジカルライティングのトレーニング 3	授業で習ったことを踏まえて、論理的でわかりやすい文の条件についてまとめる。	2
第 5 回	手紙の書き方 基礎と実習	授業で習ったことを踏まえて、論理的でわかりやすい文書を作成するプロセスを調べる。	2
第 6 回	Eメールの書き方の基礎と実習	授業で習ったことを踏まえて、論理的でわかりやすい文書を作成するプロセスについてまとめる。	2
第 7 回	簡単な英文レター	授業資料を熟読し、ロジカルライティングに必要な注意事項を理解する。資料を見て理解できない点、疑問点を洗い出しておく。	2
第 8 回	ビジネス文書の基本知識	授業を受講し、新たに分かったこと、小テストで回答できなかったところや自信のなかったところについて資料を見直す。	2
第 9 回	ビジネスで役立つ敬語とお礼の表現	様々な相手に手紙を書くことを想定し、書く内容や書き方を予めイメージし書き出しておく。	2
第 10 回	ビジネス文章に必要な文法と謝罪の表現	授業で学んだ内容を整理し、ノートにまとめてながら復習する。	2
第 11 回	伝わるビジネス文書の基本と構成	社会に出てどのような文書を書くことになるのかイメージし、どう書けばよいか予め考えておく。	2
第 12 回	効果的なプレゼン資料の作り方(前編)	講義で学んだ内容を整理し、ノートにまとめてながら復習する。	2
第 13 回	効果的なプレゼン資料の作り方(後編)	ビジネス場면을想定し、どのようなルールやマナーが存在するか予めイメージし書き出しておく。	2
第 14 回	まとめと振り返り	講義で学んだ内容を整理し、ノートにまとめてながら復習する。	2

13	対人コミュニケーション		LM-X-103	選択 2単位 1 年前期
	Interpersonal Communication			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)		
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目		
		○ 実務経験のある教員担当		
		アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
1 年全組 宮曾根 美香				
授業の達成目標				
コミュニケーションの基本的知識を学び、対人コミュニケーション場面で汎用能力も身につける。				
ミニマムリクワイアメント				
(1) コミュニケーションの定義や特徴を理解する。 (2) 対人コミュニケーションのモデルや構成要素について理解する。 (3) 異文化間コミュニケーションの困難点や留意すべき点について理解する。 (4) 共生のためのアサーティブコミュニケーションの内容と留意すべき点を理解する。 (5) 組織におけるコミュニケーションの流れと内容を理解する。 本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1) (2) (4) である。				
授業の概要				
コミュニケーションについての基本的理論の他、自他を尊重するコミュニケーションの方法(アサーティブ・コミュニケーション)についての理論的学習と演習を行なう。アサーティブ・コミュニケーションに関連して、聴き方、話し方について学ぶ。さらに、会社で働くこと、組織におけるコミュニケーションについても学ぶ。				
実務経験を活かした教育について				
担当教員は、外資系企業における実務経験と、コミュニケーションの分野で活躍した実績と経験を活かし、授業において、対人およびビジネスで必要とされるコミュニケーション能力の養成を目指す。				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
教科書 『コミュニケーション学 その展望と視点 増補版』 末田清子／福田浩子 松柏社 2,000 円＋税 その他ハンドアウトを配付する。				
参考書等				
『人間関係を学ぶための 11 章』 中西雅之 くろしお出版 1,400 円＋税				
成績評価方法・基準				
中間試験 50%および期末試験 50%で評価する。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
提出された課題にはコメントをして返す。必要に応じて授業で全体的コメントをする。				
備考				

13	対人コミュニケーション		LM-X-103	選択 2単位 1 年前期
	Interpersonal Communication			
授業計画 (各回の学習内容等)				
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第1回	ガイダンス、コミュニケーションの定義・特徴・レベル等について学ぶ。	授業シラバスをWebClassで確認してくる。	2	
		授業で学んだことをまとめる。	2	
第2回	言語コミュニケーションについて	テキストで言語コミュニケーションの箇所を読んでくる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第3回	非言語コミュニケーションについて	テキストで非言語コミュニケーションの箇所を読んでくる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第4回	自己概念とコミュニケーションについて	テキストでアイデンティティとシンボルの箇所を読んでくる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第5回	異文化間コミュニケーションについて	テキストで異文化間コミュニケーションの箇所を読んでくる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第6回	まとめと試験	試験範囲を学習する。	2	
		試験の設問の解答を確認する。できなかったところは復習しなおす。	2	
第7回	アサーティブコミュニケーション1	アサーティブコミュニケーションについて調べてみる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第8回	アサーティブコミュニケーション2 演習、聴くこと1	アサーティブコミュニケーションの実例を調べてみる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第9回	聴くこと2 演習	コミュニケーションにおける「聴く」について調べてみる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第10回	感情	コミュニケーションにおける感情の影響について調べてみる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第11回	話すこと、演習	コミュニケーションにおける「話す」について調べてみる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第12回	会社で働くこと、組織におけるコミュニケーション	職場におけるコミュニケーションはどのようなものが調べてみる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第13回	ウェルビーイング (Well-being) について	ウェルビーイングとは何か調べてみる。	2	
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2	
第14回	まとめと試験	試験範囲を学習する。	2	
		試験の設問の解答を確認する。できなかったところは復習しなおす。	2	

14	イメージメディア論	LM-X-104	選択 2単位 1 年前期
	Theory of Media Representation		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
○ 複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
経営デザイン学科1年全組 猿渡 学			
授業の達成目標			
表象としてのメディアを理解し、特に映像（視覚情報）とサウンド（聴覚情報）によって構成される“映像表現”が私たちにもたらす功罪のさまざまな局面をワーク形式で修得してほしい。さらに、求められる情報への最適解としてのイメージのアウトプットの方法論を実践を通して表現できることを到達目標とする。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 所与の課題を解決するための方法（調査やアンケートなど）を理解する。 (2) 所与の課題の本質を理解するためのさまざまなアプローチ（分析）を理解する。 (3) 所与の課題に対しての最適解を導くことができる。 (4) 映像や音響に関する知識を実践に活用することができる。 (5) アイデアなどをグループワークを通して表象することができる。 上記の中で(1)(2)(3)を基礎として、(4)あるいは(5)を達成することをミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
メディア発展の歴史の経緯（メディア史）を概観する。その上で、19世紀に誕生した写真・映画の発展史の中から、特に視覚メディア・聴覚メディアのイノベーションがもたらす芸術性・普遍性を紹介する。これらを前提として、映像・音響の二つの領域での実践を試みる。所与の課題に対してグループワークを繰り返して、作品としての最適解を導く。			
実務経験を活かした教育について			
脚本家・演出家の芝修一（本学特任教授）による実践的なレクチャーを実施する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
成績評価方法・基準			
各回の課題（レポート提出やアンケートなどへの回答）をそれぞれ5段階で評価する（5点満点：全40点）。最終課題は講義で示す「ルーブリック」に従って採点をおこなう（60点満点）。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
LMSを用いてフィードバックを行うとともに、講義中に提出物についてのコメントリーを実施する。			
備考			

14 イメージメディア論		LM-X-104	選択 2単位 1 年前期
Theory of Media Representation			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	メディアとは何かについて概観する。	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 講義で指定された書籍や映像を閲覧したのち、レポートとしてまとめる。	2
第2回	メディアと表象について、特に写真と映像の技術史を中心に現代までを俯瞰する。	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 映像表象について、講義で指定された課題を調査研究し、レポートとして提出する。	2
第3回	デザインの志向とアートの志向の違いについて、特に映像プロモーションを素材に分析をおこなう。	指定の映像を視聴し、事前学習のレポートを提出する。	2
第4回	映像制作の現場からプロフェッショナルを招聘し、映像制作のワークショップを実施する。	映像プロモーションについて、自らの分析をおこなったものをまとめ、レポートとしてまとめる。 WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。	2
第5回	ワークショップ（1）：ドラマを作るための技法を学習する。	ワークショップのレスポンスをレポートとしてまとめる。	2
第6回	ワークショップ（2）：ドラマを作るための役割やワークフローを学習する。	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 ワークショップ（1）の成果をレポートとしてまとめる。	2
第7回	ワークショップ（3）：ドラマを作るための企画書などを作成する。	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 ワークショップ（2）で指定された課題をグループワークによって行い、レポートとしてまとめる。	2
第8回	ドラマの台本を作成する。	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 台本を作成する。また作成した台本に基づいた企画書になっているかの検討をおこなう。	2
第9回	ドラマを映像化あるいはサウンドドラマ化する（1）：プリプロダクション	企画書と台本に基づいて、プリプロダクション（事前準備）をおこなう。 制作過程における問題点の解決方法を検討する。	2
第10回	ドラマを映像化あるいはサウンドドラマ化する（2）：プロダクション（撮影・収録）	録画や収録に必要な準備が整っているかどうかを確認する。 撮影や収録における問題点を解決する。	2
第11回	アプリケーションを用いた編集作業についてレクチャーをおこなう。	撮影並びに収録されたサウンドをデータ化して編集作業に入る準備をおこなう。 アプリケーションをもちいて編集作業をおこない、素材などの過不足を確認し、対応する。	2
第12回	編集作業：効果的編集とは何か？－ポストプロダクション（1）	事前に編集についてのレクチャー映像を視聴し、効果的な編集について学習する。 編集中の映像やサウンドについて、修正や演出などを加える。	2
第13回	編集作業：作品としてまとめる－ポストプロダクション（2）	所与の課題に対して、最適解となっているかどうかを確認する。	2
第14回	作品発表：プレゼンテーション	作品としてまとまっているかどうか、表象としての映像あるいはサウンドとなっているかを確認する。 事前に作品を視聴し、見解をまとめる。 プレゼンテーションに対して、主体的・積極的な意見をレポートとしてまとめる。	2

15	地域創生論	LM-X-105	選択 2単位 1 年前期
	Regional revitalization		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目		
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 佐藤 勝幸			
授業の達成目標			
地域創生の現状を知り、地域社会を積極的に改善するための基礎知識を得る。そのために、地域創生と社会動向の関わりを学ぶとともに、仙台・宮城・東北地方の地域や社会における課題に直接関わっている実践者の取り組み内容や役割から、地域創生の重要性、経営知識の活用方法等を学ぶ。			
ミニマムリクワイアメント			
達成目標 (1) 地域社会が置かれている諸問題を理解することができる。 (2) 地域社会が抱えている共通の課題を抽出できる。 (3) 実践されている取組を学び、課題解決に向けた手法・進め方等を理解できる。 (4) 課題解決に向けた地域創生の事業手法を理解し、取組み手法を説明できる。 ミニマムリクワイアメント 本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) ～ (3) とする。			
授業の概要			
地域創生の現状を知り、地域社会を積極的に改善するための基礎知識や経営学で学ぶ様々な知識や手法の活用方法を学ぶ。そのために、地方社会が置かれている社会動向を学ぶとともに、実践者として地域社会で地域創生の事業に取り組む企業人を招き、地域創生に対する想いや具体的な手法、実践過程等から地域創生の理解を深める。 さらに、様々な関係人口が関わる地域創生について、価値の共有等の観点から事業の推進方法について学び、地域創生の理解を深める。			
実務経験を活かした教育について			
経営コンサルタント (中小企業診断士) 及びまちづくりコンサルタント (技術士) として地方自治体や民間企業が実際に取り組むまちづくり事業の支援経験を活かして、様々な主体が関わる地域創生の実践的な知識習得を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使用しない。必要に応じて適宜ハンドアウトを配付する。			
参考書等			
なし			
成績評価方法・基準			
数回実施するレポート 65%、課題レポート 35%、評価合計 60 点以上で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。			
備考			

15	地域創生論	LM-X-105	選択 2単位 1 年前期
	Regional revitalization		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	地域創生とは何か	該当シラバスを読み、「創生」の意味を予習。 地域創生についての復習。	2
第2回	人口減少社会における地域創生	人口減少、一極集中等の地域創生が必要となってきた、地域社会の課題について理解する。 人口減少による社会的課題について、日常生活の中から課題を見出す。	2
第3回	地域創生と地方自治体	地方公共団体等の公表資料等から、人口減少により起きている地方公共団体の課題について理解を深める。 身近な公共問題をニュース等から再確認する。	2
第4回	地域創生と地域経済	国の公表資料等から、人口減により起きている商業や農業などの産業の課題について理解を深める。 周辺の店舗やアルバイト先等、様々な産業における問題点を見出してみる。	2
第5回	地域創生の事業特性	地域創生を特徴づける事業上の構造について学習する。 地域創生の事業構造上の特性について、身近な環境から設定して理解を深める。	2
第6回	地域創生について事例で学ぶ①	地域創生を特徴づける事業上の構造について学習する。 事例のHP等を閲覧しながら、地域創生の事業構造の理解を深める。	2
第7回	地域創生について事例で学ぶ②	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する。 事例のHP等を閲覧しながら、地域創生の事業構造の理解を深める。	2
第8回	地域創生について事例で学ぶ③	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する。 事例のHP等を閲覧しながら、地域創生の事業構造の理解を深める。	2
第9回	地域創生について事例で学ぶ④	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する。 事例のHP等を閲覧しながら、地域創生の事業構造の理解を深める。	2
第10回	地域創生について事例で学ぶ⑤	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する。 事例のHP等を閲覧しながら、地域創生の事業構造の理解を深める。	2
第11回	地域創生の事業を考える①	地域の活性化を支援するための具体的な取り組みを考えていくための仕組みについて学習する。 地域創生に必要な自己の興味等を振り返ってみる。 さらに、地域創生につながるビジネスモデルの事例を集めてみる。	2
第12回	地域創生の事業を考える②	地域創生の取り組みを発想するための具体的な手法、社会データ等の地域特性の把握方法について学習する。 具体的な手法について復習する。	2
第13回	地域創生の事業を考える③	様々な主体が連携して地域創生に取り組むため事業の要素となる価値の組み立て方について学習する。 価値連関の仕組みを自分の生活に当てはめて復習する。	2
第14回	地域創生と事業構想（事業を計画する）	事業を構想する演習を行い、地域創生の仕組みを学ぶ。 価値連関の仕組みをおさらいする。 自分で作成した価値連関のモデル図を見直し、よりよい仕組みを考える。	2

16	統計学	LM-X-106	必修 2単位 1 年後期
Statistics			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	  
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 二瀬 由理			
授業の達成目標			
現代社会は、さまざまな情報であふれている。将来、ビジネスに携わる者として科学的根拠をもとに情報処理を行う能力は必須となる。そして、多くの情報の中から有用な見解を得るためには、統計的な知識や技術が必要とされる。本講義では、統計学の基礎を習得し、基本的な概念と方法について理解することを全般的な目標とする。さらに、その能力を身に付けた上で様々なデータから、自分の身の回りの問題点や地域社会の問題点を見出し、解決する糸口を考案する能力を身につけることを期待する。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目のミニマムリクワイアメントは以下の2点である。 (1) 記述統計値の意味を理解し、実際のデータを用いて算出できる (2) 算出した記述統計値を用いて表やグラフを作成 (3) 標準正規分布表を基に、ある一定条件の割合を算出できる			
授業の概要			
本講義では、統計的資料の見方、記述統計値の意味と算出方法、確率の基礎概念、データのビジュアル化 (表・グラフの作成) の方法、データ収集の手法、統計的仮説検定の考え方など統計調査および分析の基盤となる考え方を学ぶ。			
授業の理解度を調べるために、各回の授業の中でLMSを用いて小テストや課題を実施する。また、時折授業の最中にMicroso ft Formsを用いてクイズやアンケートを実施し、リアルタイムにフィードバックする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
授業中に必要な資料をLMSにて配布する			
参考書等			
成績評価方法・基準			
成績評価は、随時授業中に行う確認テストおよび授業中に提示する課題 (30%) および中間テスト (30%)、学期末のテスト (40%) にもとじて行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
確認テストや中間テストはすべて LMS を用いて実施し、レポートのフィードバックも LMS を通じて行う。			
備考			

16	統計学	LM-X-106	必修 2単位 1 年後期
Statistics			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス：身の回りにあるさまざまなデータ	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 講義で学んだことを整理し、統計学に対するイメージを持つ。	2
第 2 回	データの視覚化：度数分布表およびヒストグラム	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 度数というデータの意味、度数分布表の味方、データを度数分布表にまとめる方法、ヒストグラムの作成方法を復習する。	2
第 3 回	データとは何か	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 講義で学んだデータの定義、種類、データの尺度水準を復習する。	2
第 4 回	記述統計 (1) 代表値の種類、特性、算出方法	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 平均値、中央値、最頻値の特性、算出方法を復習する。	2
第 5 回	記述統計 (2) 散布度の種類、特性、算出方法	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 偏差平方和、分散、標準偏差、範囲のそれぞれの意味と算出方法を復習する。	2
第 6 回	記述統計 (3) 度数分布表から代表値、散布度の求め方	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 度数分布表にまとめられた結果から代表値 (平均値、中央値、最頻値) の求め方、散布度 (標準偏差) の求め方を復習する。	2
第 7 回	記述統計 (4) 2 変数の関係性	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 2 変数の関係性を図示する「散布図 (相関図)」の書き方、2 変数の関係を示す記述統計量である共分散や相関係数の算出方法を復習する。	2
第 8 回	順列・組み合わせ	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 順列と組み合わせの違いを理解し、それぞれが算出できるようになるよう復習する。	2
第 9 回	確率の基礎	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 確率の概念を理解し、さまざまな事象の確率計算ができるようになるよう復習する。	2
第 10 回	データ分布の理解	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 統計学で使用する様々な分布 (2 項分布、t 分布、カイ 2 乗分布など) の意味と使用方法を復習する。	2
第 11 回	標準正規分布と正規分布	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 標準正規分布と正規分布を利用して、ある一定の条件での確率を求める方法を復習する。	2
第 12 回	調査とサンプリング、データの推定	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 全数調査と一部調査の違いを理解したうえで、サンプリングの際に注意すべきこと、さらにサンプリングしたデータから母数を推定する上での基礎知識について復習する。	2
第 13 回	統計的仮説検定の基礎	LMSに掲示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 統計的仮説検定の考え方、帰無仮説と対立仮説、統計的仮説検定で生じる誤り、有意確率などさまざまな検定を行う上で必要となる基礎知識をまとめ、復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	これまでの講義を見直し、疑問点を予め明らかにしておく。 総まとめの試験問題の中で、分からなかった箇所や間違って答えた箇所を復習し、理解を深める。	2

17	簿記論	LM-C-102	必修 2単位 1年後期
	Bookkeeping		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○	教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 - 未定			
授業の達成目標			
企業のビジネス活動を貨幣金額によって、体系的・継続的に記録・計算・整理する技法である複式簿記（Double-entry Bookkeeping）のしくみを理解できるようになります。本講義では、主に企業の商品売買業を取り上げて、簿記一巡の手続きを正確に理解し、財務諸表できるようになることを主目標とします。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 複式簿記のしくみを理解し、企業の財務諸表（貸借対照表および損益計算書）の作成過程を説明することができる。 (2) 企業取引に関する基本的な仕訳を理解し、企業会計の基礎を習得する。 (3) 日本商工会議所簿記検定試験3級合格レベルの知識を習得する。 (4) 企業の実務や確定申告において学んだ知識を活用することができる。 本講義におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)と(2)とする。			
授業の概要			
本講義では、「ビジネス言語」(language of business)の基礎知識として、簿記の基礎を学びます。簿記は、企業、官公庁、家庭などの各経済主体の経済活動にともなう財産の増減・変化を体系的・継続的に記録・集計・整理し、その原理と結果を明らかにする会計的技企業における複式簿記（Double-entry Bookkeeping）を取り上げ、企業がどのようにして財産の増減・変化を把握し、損益計算を行い、その結果とどのようにして財務諸表（貸借対照表および損益計算書）を作成するかという一連のプロセスを学びます。授業終了時に諸表の作成過程を理解し、企業会計の基礎を習得することを目標としています。目標を達成すれば、日本商工会議所検定試験3級合格ししたことになります。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
成川正晃編著（2022）『ビジネスセンスが身につく簿記（第2版）』中央経済社。			
参考書等			
渡部裕亘・片山寛・北村敬子編（2024）『検定簿記ワークブック/3級商業簿記』中央経済社。			
成績評価方法・基準			
中間試験（30%）、期末試験（30%）、小テスト・レポート（40%）で総合的に評価する。なお、授業の到達目標である複式簿記のしくみ等を理解するという到達度を、講義中に実施する小テストで測り、評価基準に従って評価します。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に小テスト解説等のフィードバックを行う。 質問等のフィードバックは、内容に応じて、講義内もしくはは直接に行う。			
備考			
簿記は講義を聞くだけでは身につけません。簿記は問題演習を繰り返し行うことで身につくため、講義時間以外での学習が必要不可欠です。講義中に問題演習を行うことがあるので、電卓を用意すること。			

17	簿記論	LM-C-102	必修 2単位 1年後期
	Bookkeeping		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション、簿記の意義と歴史 本講義の概要、授業の進め方および成績評価の方法を説明	シラバスに目を通すとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。教科書第1章の部分を読み、簿記の意義や歴史について考察しておく。 教科書等を確認する。簿記の目的、必要性、種類、歴史等について、講義内容を整理する。	2
第2回	簿記の要素① 資産、負債、純資産の意義、純資産等式と貸借対照表等式、貸借対照表（Balance Sheet）からどのような会計情報を知り得るかについて解説する。	教科書第2章3～6の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第3回	簿記の要素② 収益、費用の意義、どのような収益と費用から損益計算書（Profit and Loss Statement）は作成されるのか、純損益計算の意義を解説する。貸借対照表と損益計算書の関係についても考察する。	教科書第2章6～10の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第4回	簿記上の取引 勘定の意義と種類、勘定の記入法、取引の結合関係について	教科書第2章11～13の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第5回	仕訳と転記 仕訳と転記の意義、仕訳帳と総勘定元帳の記入方法を取引	教科書第2章14～17の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第6回	試算表の意義と種類 仕訳帳から総勘定元帳への転記の正確さをどのように確かめるのかについて解説する。6桁精算表の作成方法を解説する。	教科書第2章18～21の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第7回	決算手続の概要 一定の会計期間の経営成績と一定時点の財政状態を明らかにするため、期末の帳簿を締め切り整理する一連の手続きについて解説する。	教科書第2章22～26の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第8回	決算報告の意義、中間試験 決算報告の意義、貸借対照表と損益計算書の作成方法につ	教科書第2章27～28の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 中間試験の内容について再整理しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行	2
第9回	資金調達と会社の設立、純利益の計上と配当・処分 株式会社のしくみ、純資産の部の構造、剰余金の配当と処	教科書第3章29～30の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行	2
第10回	商品売買業と製造業における仕訳 商業・製造業における営業活動とそのプロセス、掛取引に	教科書第3章31～35の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行	2
第11回	貸倒れの会計処理 得意先が倒産した場合どのような会計処理を行うのかにつ	教科書第3章36～38の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行	2
第12回	減価償却 減価償却の意義と計算方法について解説する。	教科書第3章39～40の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行	2
第13回	財務諸表の種類、講義の論点整理 財務諸表の種類について解説する。各講義の主要な論点に	教科書第3章41の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行	2
第14回	期末試験	第1回～13回までの講義の論点をまとめ、練習問題を反復練習し、期末試験に備えておく。 期末試験の内容を再検討して整理する。 簿記検定試験にチャレンジする。	2

18	論理的思考法	LM-B-102	必修 2単位 1年後期
Logical Thinking			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		○ 教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 亀井 あかね			
授業の達成目標			
ビジネスで活躍し広く社会の問題解決を行うために必要となる、実践的な思考法を学び、活用することができるようになる。また、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
ミニマムリクワイアメント			
1. ビジネスの課題を整理し構造化する 2. 課題をトウールミンモデルで図示する 3. MECE・ロジックツリーを用いて課題を整理する 4. 帰納法と演繹法を用いて解を導く 5. TOC理論を説明できる 6. フェルミ推計を活用する 7. 水平理論を説明できる			
上記のうち「1・2・3・4」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
ビジネス上の課題を整理する方法について講義し、課題の解決法にいたる思考を身につけ、応用できるように、事例を用いて解説する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
別途掲示する。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
1. 小テスト 2. 試験 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題・試験に関するフィードバックはWebClassで情報開示する。			
備考			

18	論理的思考法	LM-B-102	必修 2単位 1年後期
Logical Thinking			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・結論と根拠の関係	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第2回	トウールミンモデル	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第3回	論理的であるとは何か	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第4回	MECE	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第5回	ロジックツリー	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第6回	ピラミッドストラクチャー	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第7回	帰納法と演繹法	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第8回	TOC理論	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第9回	フェルミ推計	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第10回	水平思考	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第11回	ロジカルシンキングの実践：データドリブン	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第12回	ロジカルシンキングの実践：トウールミンモデル	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第13回	ロジカルシンキングの実践：TOCの改善プロセス	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第14回	まとめと試験	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
		教科書の該当箇所を精読し、試験に出題された項目を確認する。	2

19	セミナーⅡ	LM-E-103	必修 1単位 1年後期
	Seminar II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	  
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	○ クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 二瀬 由理 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 小祝 慶紀 川島 和浩 黎 敏利			
授業の達成目標			
1. 将来のキャリアを意識し、自己の目標を設定できるようになる 2. 能動的に学習を進める方法、態度を身につける 3. 本学科が推奨する資格 (MOS : Word 365 Associate) 取得に向けた学習を通じてビジネススキルを身につける 4. 本学科が推奨する資格 (MOS : Excel 365 Associate) 取得に向けた学習を通じてビジネススキルを身につける			
ミニマムリクワイアメント			
1. 本学のLMSシステムを使い講義資料閲覧、課題提出、メッセージ送信ができる。 2. SPIの基本項目を理解し解答できる。 3. Microsoft 365 アプリケーション「Microsoft Word 365 Associateレベル」の応用操作ができる。 4. Microsoft 365 アプリケーション「Microsoft Excel 365 Associateレベル」の応用操作ができる。			
上記のうち「1・2」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
セミナーⅠに引き続き、大学での学習、生活一般についての概説を行い、さまざまな課題を通して、経営デザイン学科で学ぶために必要な学習スキル・知識・能力・態度を身につける。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
別途掲示する。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
1. 各回の受講レポート 2. 小テスト 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
個別指導もしくはWebClassからフィードバックする。			
備考			

19	セミナーⅡ	LM-E-103	必修 1単位 1年後期
	Seminar II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ISO講座	LMS (WebClass) から配布資料を確認し、通読する。 講座内容に関する課題に取り組み、期日までにWebClassから課題を提出する。	0.5 0.5
第2回	セミナー毎 個別面談	START (学修成果可視化システム) に以下の項目を入力する。 当該セメスターの目標 (具体的に何を、何のために、期限や数値で示しながらどのように実施するか) をSTART (学修成果可視化システム) に記入しておくことを予習とする。 面談で指摘された事項を、START (学修成果可視化システム) で修正する。	0.5 0.5
第3回	資格支援講座A-5	教科書の「MOS (Word 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第4回	資格支援講座A-6	教科書の「MOS (Word 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第5回	資格支援講座A-7	教科書の「MOS (Word 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第6回	資格支援講座A-8	教科書の「MOS (Word 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第7回	SPI 講座 3	SPI テキストを学科の割り当てられた範囲を学ぶことを予習課題とする。 不明な点を整理し、SPIの学習計画を立案し、実行することを復習課題とする。	0.5 0.5
第8回	SPI 講座 4	SPI テキストを学科の割り当てられた範囲を学ぶことを予習課題とする。 不明な点を整理し、SPIの学習計画を立案し、実行することを復習課題とする。	0.5 0.5
第9回	資格支援講座C-1	教科書の「MOS (Excel 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第10回	資格支援講座C-2	教科書の「MOS (Excel 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第11回	資格支援講座C-3	教科書の「MOS (Excel 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第12回	資格支援講座C-4	教科書の「MOS (Excel 365 Associate) 」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5 0.5
第13回	外部講師講座	LMS (WebClass) から配布資料を確認し、通読する。 講座内容に関する課題に取り組み、期日までにWebClassから課題を提出する。	0.5 0.5
第14回	セミナー毎 期末面談	当該セメスターの目標を達成できたかどうかを自己評価し、START (学修成果可視化システム) に入力する。 面談で指摘された事項を、START (学修成果可視化システム) において修正し、2年次以降の目標を立て、実現するための計画を立案することを復習課題とする。	0.5 0.5

20	組織心理学	LM-B-103	選択 2単位 1 年後期
	Organization Psychology		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
☐ 単独 (1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	 	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	☐ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
1 年全組 阿部 敏哉			
授業の達成目標			
様々な組織に関わる個人の心理を理解し、それを日常生活や組織経営に役立てられるようになること。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 組織における人間の行動の特徴を理解する。 (2) 個人の意思決定のプロセスを理解する。 (3) 組織の問題を心理学的に考察できる。 上記 (1) から (3) を理解すること。			
授業の概要			
本講義では、我々が様々な組織の一員としてよりよく生きるために必要な心理学的知識について解説を行う。具体的には、個人のモチベーション、リーダーシップ、集団力学等を取り上げ、多くの実例を交えながらそれらの概念について学ぶこととする。これによって、自分が所属する組織内での様々な問題に対し、心理学的見地から自分の言葉で考えられるようになることを目指す。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員はメガバンクでの勤務経験を活用し、組織における個人の行動や心理について、学生が自分たちの生活に応用できるような知識を教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。			
参考書等			
適宜指示する。			
成績評価方法・基準			
期末試験の結果により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は課さない。			
備考			

20	組織心理学		LM-B-103	選択 2単位 1 年後期
	Organization Psychology			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第 1 回	組織心理学とは何か	組織心理学を学ぶ意味について考える。	2	
		組織心理学の学問的特徴についてノートを整理する。	2	
第 2 回	人間の行動と知覚	知覚とは何かを考える。	2	
		人間の知覚の特性についてノートを整理する。	2	
第 3 回	態度と組織	態度について考える。	2	
		態度変容の理論についてノートを整理する。	2	
第 4 回	モチベーションの内容理論	モチベーションについて考える。	2	
		内容理論の特徴と問題点についてノートを整理する。	2	
第 5 回	モチベーションの過程理論	モチベーションについて考える。	2	
		過程理論の特徴と問題点についてノートを整理する。	2	
第 6 回	個人の意思決定	個人の意思決定について考える。	2	
		個人の意思決定プロセスについてノートを整理する。	2	
第 7 回	集団力学	集団力学について考える。	2	
		集団力学が組織に及ぼす影響についてノートを整理する。	2	
第 8 回	コミュニケーション	コミュニケーションのプロセスについて考える。	2	
		コミュニケーションの促進・阻害要因についてノートを整理する。	2	
第 9 回	役割と規範	組織における役割の意味について考える。	2	
		役割や規範が個人に及ぼす影響についてノートを整理する。	2	
第 10 回	権力と政治	権力の源泉について考える。	2	
		組織における権力と政治の概念についてノートを整理する。	2	
第 11 回	リーダーシップ	リーダーシップについて考える。	2	
		リーダーシップの代表的な理論についてノートを整理する。	2	
第 12 回	集団的意思決定	集団での意思決定について考える。	2	
		リーダーシップの代表的な理論についてノートを整理する。	2	
第 13 回	組織変革	組織の変革について考える。	2	
		組織変革の重要性和そのプロセスについてノートを整理する。	2	
第 14 回	まとめと試験	講義内容についてノートを見直す。	2	
		理解が不十分だった点を見直す。	2	

21	ミクロ経済学 Microeconomics	LM-A-102	選択 2単位 1年後期
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 金井 辰郎			
授業の達成目標			
初級のミクロ経済学の概要を理解する。前年度に学んだ「経済学入門」の内容と合わせて、ミクロ経済学の全体像を捉える。			
ミニマムリクワイアメント			
1 生産関数と費用関数の関係が理解でき、供給関数を導出できること。 2 代替効果、所得効果の意味を理解し、マースシャル需要関数とヒックス需要関数の違いが説明できること。 3 市場に関連して、安定性、余剰、独占、ナッシュ均衡の概念を理解すること。			
授業の概要			
「経済学入門」の続編として、ミクロ経済学の初級部分の概説を行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義ノートを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テスト(40%)＋試験(60%)で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストおよび試験については、webclassにてフィードバックを行う。			
備考			

21	ミクロ経済学 Microeconomics	LM-A-102	選択 2単位 1年後期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	生産関数	生産関数について、調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第2回	費用関数	費用関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第3回	利潤極大化	利潤極大化について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第4回	供給関数	供給関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第5回	損益分岐点・操業停止点	損益分岐点・操業停止点について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第6回	代替効果・所得効果	代替効果・所得効果について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第7回	中間のまとめと試験	これまでの学習内容を復習する。 講義内容についてノートに整理する。	2
第8回	マースシャル需要関数・ヒックス需要関数	マースシャル需要関数・ヒックス需要関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第9回	需要・供給曲線の弾力性	需要・供給曲線の弾力性について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第10回	市場均衡・安定性	市場均衡・安定性について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第11回	消費者・生産者余剰	消費者・生産者余剰について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第12回	独占	独占について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第13回	ゲーム理論	ゲーム理論について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第14回	まとめと試験	これまでに学習した内容を復習する。 試験内容についてノートなどに整理する。	2

22	ICTビジネススキルⅡ		LM-D-102	選択 2単位 1年後期
	ICT Business Skills II			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 	
複数(1回の授業を2人以上と一緒に担当)		教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)			
クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目			
	実務経験のある教員担当			
	○ アクティブラーニング			
		メディア授業		
クラス・担当教員				
1 年全組 亀井 あかね				
授業の達成目標				
1. 社会調査の歴史・意義・目的について説明できる 2. 社会調査の方法論(定性調査・定量調査)について説明できる 3. 調査票調査における「概念の操作的定義」の重要性について説明できる 4. 「調査の目的」および「調査分析の目的」の別について説明できる 5. 調査票調査の調査計画書(含む、理論仮説・実証仮説)を作成できる 6. 地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力である「課題を発見・解決する力」の向上をし、社会・経済活動に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。				
ミニマムリクワイアメント				
1. 社会調査の歴史・意義・目的について説明できる 2. 社会調査の方法論(定性調査・定量調査)について説明できる 3. 調査票調査における「概念の操作的定義」の重要性について説明できる 4. 「調査の目的」および「調査分析の目的」の別について説明できる 5. 調査票調査の調査計画書(含む、理論仮説・実証仮説)を作成できる 6. 地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力である「課題を発見・解決する力」の向上をし、社会・経済活動に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける				
上記のうち「1・2・3・4・6」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。				
授業の概要				
社会調査の歴史・意義・目的・方法論について講義する。また、調査票調査のプロセスについて、演習(Microsoft Forms)を実施し、客観的なデータや科学的な根拠を活用する方法論について実践する。				
実務経験を活かした教育について				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
別途掲示する。				
参考書等				
適宜紹介する。				
成績評価方法・基準				
1. 小テスト 2. 期末課題 「1・2」を総合的に評価する。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
課題・試験に関するフィードバックはWebClassで情報開示する。				
備考				

22	I C TビジネススキルⅡ	LM-D-102	選択 2単位 1年後期
ICT Business Skills II			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	人類史における調査の役割	教科書の該当箇所を通読して、要点をまとめる。	2
第2回	調査の類型	講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。 教科書を通読して、要点をまとめる。	2
第3回	定量調査の計画書	講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。 教科書を通読して、要点をまとめる。	2
第4回	リサーチクエスションの設定	教科書を通読して、要点をまとめる。	2
第5回	仮説構成：理論仮説	講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。 教科書を通読して、要点をまとめる。	2
第6回	仮説構成：実証仮説	講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。 教科書を通読して、要点をまとめる。	2
第7回	調査票調査	講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。 教科書を通読して、要点をまとめる。	2
第8回	調査票作成：ワーディング	講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。 教科書を通読して、要点をまとめる。	2
第9回	調査票作成：回答選択肢	講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。 教科書を通読して、要点をまとめる。	2
第10回	定量データの集計・分析	講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。 教科書を通読して、要点をまとめる。	2
第11回	報告書の作成	講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。 教科書を通読して、要点をまとめる。	2
第12回	期末演習 1：調査計画書の作成	第1～11回の講義内容を復習する。 講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。	2
第13回	期末演習 2：仮説(理論仮説・実証仮説)	第1～11回の講義内容を復習する。 講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。	2
第14回	期末演習 3：調査票の作成	第1～11回の講義内容を復習する。 講義資料と教科書を用いて、専門用語および重要項目の確認をする。	2

23	中小企業論	LM-B-104	選択 2単位 1 年後期
	Small and Medium-sized Enterprises		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年～4 年全組 黎 敏利			
授業の達成目標			
中小企業の定義・現状を理解し、成長戦略や地域課題への対応を学ぶ。 また、中小企業政策の変遷を把握し、持続的発展に向けた企業の可能性と課題を考察する力を養う。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 中小企業の定義や特徴、規模の基準 (中小企業基本法など) を理解している。 (2) 中小企業と大企業の違い、強みと弱みを説明できる。 (3) 日本国内および国際的な中小企業の動向や役割について知識を持っている。 (4) 中小企業が直面する経営上の課題 (例: 資金調達、後継者問題、労働力不足、技術革新の遅れなど) を把握している。			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、(1)～(3)とする。			
授業の概要			
中小企業の基礎、動向、成長戦略、地域課題への対応、中小企業政策の変遷を学び、企業の成長や社会的役割を考察する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
『中小企業診断士 2024 年度版 最速合格のための スピードテキスト 1 中小企業経営・中小企業政策』TAC 出版、2024 年。 『中小企業診断士 2024 年度版 最速合格のための スピードテキスト 1 企業経営理論』TAC 出版、2024 年。 他の文献についても授業の中で適宜情報提供を行う。			
成績評価方法・基準			
授業参加態度 (30%)、ワークショップ (30%)、期末試験 (40%) で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示した課題やレポートについては、WebClass および次の授業のなかでフィードバックする。			
備考			

23	中小企業論	LM-B-104	選択 2単位 1 年後期
	Small and Medium-sized Enterprises		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	中小企業の定義や特徴について考える 授業ノートを基に中小企業の定義と特徴についてまとめる	2 2
第2回	中小企業経営	スライドを基に中小企業経営について考える 授業ノートを基に中小企業経営についてまとめる	2 2
第3回	中小企業政策	スライドを基に中小企業政策について考える 授業ノートを基に中小企業政策についてまとめる	2 2
第4回	企業経営理論 - 経営戦略	スライドを基に経営戦略論について考える 授業ノートを基に経営戦略論についてまとめる	2 2
第5回	企業経営理論 - 組織論	スライドを基に組織論について考える 授業ノートを基に組織論についてまとめる	2 2
第6回	企業経営理論 - マーケティング	スライドを基にマーケティングについて考える 授業ノートを基にマーケティングについてまとめる	2 2
第7回	中小企業の事業承継	スライドを基に事業承継の分類について考える 授業ノートを基に事業承継の分類についてまとめる	2 2
第8回	中小企業の起業	スライドを基に中小企業の起業について考える 授業ノートを基に中小企業の起業についてまとめる	2 2
第9回	グループワーク - 事業アイデアの発想と選定	日常生活で「改善したい」と思う課題をリストアップし、それを解決する方法を簡単に考える。 グループで選定した事業案について、なぜその案を選んだのかを論理的に説明できるように準備する	2 2
第10回	ワークショップ - 事業計画書の作成（1）	似たような業種や市場の既存企業について調査し、そのビジネスモデルをまとめる 自身のグループで議論した内容を整理し、次回までに市場分析の項目を詳細化する	2 2
第11回	ワークショップ - 事業計画書の作成（2）	事業案に関連するデータや資料を集め、グループで共有する 収益モデルや顧客ターゲットについて具体的な内容をスライドに反映させる	2 2
第12回	ワークショップ - スライド作成とリハーサル	プレゼンテーション用の資料（グラフや画像）を事前に準備しておく 受けたフィードバックを基にスライドを修正し、最終的な発表準備を整える	2 2
第13回	ワークショップ：発表と評価	プレゼンテーションの練習を十分に行い、発表の流れを確認する フィードバックを基に、発表した事業案を最終的な形でドキュメントにまとめ、提出する	2 2
第14回	期末テスト	これまでの授業ノートを基に復習して試験に備える。 試験問題について解けなかった問題はしっかり確認しておくこと。	2 2

24	ベンチャービジネス論		LM-B-105	選択 2単位 1 年後期
	Startup			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)		
○ 複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)		
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)		
○ クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目		
		○ 実務経験のある教員担当		
		○ アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
1 年全組 佐々木 大 佐々木 大				
授業の達成目標				
本授業は必ずしも起業希望者を対象にしたものではない。起業家が持つマインドや行動を学ぶことで、就職希望者にも役立つ「実社会を生き抜く資質」(アントレプレナーシップ)を身につけてもらうことを目標としている。				
ミニマムリクワイアメント				
(1) スタートアップに必要な要素を理解する 長きに渡りビジネスを持続させている起業家は何かポイントなのかを自身に照らし合わせるワークを通じ理解を深める。				
(2) ビジネス構築に必要なプロセスを理解する デザイン思考のアプローチを活用し、課題定義、アイデア創出、プロトタイプ作成を実践することで理解を深める。				
(3) ビジネスのクオリティアップ・成長につなげるための客観評価を理解する 実際に構築したビジネス案に対し、お互いにフィードバック(ビジネス評価)を行なうことで第三者からの客観評価の重要性を理解する。				
授業の概要				
ベンチャービジネスを取り巻く環境および起業家(アントレプレナー)に求められるエッセンスを学び、アイデア創出や課題解決に役立つデザイン思考のアプローチを活用しつつ模擬的な事業のプランニングを行う。				
実務経験を活かした教育について				
担当教員は自らの起業経験、長年に渡る起業家育成・支援への取り組み、小・中・高・大学生ら若年層に対するの起業家教育指導の経験も豊富。「独立行政法人中小企業基盤整備機構 中小企業アドバイザー」「JBIA認定シニアインキュベーションマネージャー」の役割も担っている。その実績を活かし、本授業では大学生に対して実社会で役立つ知識、マインド、チャレンジ精神の醸成を目指している。				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
本授業はテキストは使用しない。授業内で使用するワークシートを適宜配布する。				
参考書等				
本授業では参考書は特に必要とはしない。				
成績評価方法・基準				
授業内で指示する課題(20%)、プレゼンテーション発表(40%)、期末試験(40%)で評価する。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
基本として授業内でフィードバックを行う。				
備考				

24		ベンチャービジネス論	LM-B-105	選択 2単位 1 年後期
		Startup		
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	ベンチャービジネス（スタートアップ）とは？	日本の起業率は低いと言われているがそれはなぜかを調べてみる。 授業で学んだことを復習	1	
第2回	起業家（アントレプレナー）に求められる要素	世間で活躍していると言われている起業家の成功要因は何かを調べてみる。 授業で学んだことを復習	1	
第3回	自身のWhyを掘り下げてみる	前回の授業で配布されるワークシートを埋めてみる。 授業で学んだことを復習	1	
第4回	ソーシャルアントレプレナー（社会起業家）と起業家事例	社会起業家とは何か？なぜ注目されているかを調べてみる。 授業で学んだことを復習	1	
第5回	起業家講演	前の回で提示する起業家について調べてみる。 スタディクエスションシートの完成	1	
第6回	デザイン思考について（対象者への共感）	前の回で配布されるワークシートを埋めてみる。 授業で学んだことを復習	1	
第7回	何を解決するビジネスなのか、課題定義について	前の授業で配布されるワークシートを埋めてみる。 授業で学んだことを復習（課題が定義できていないグループは第9回目の授業までに済ませること）	1	
第8回	起業家講演	前の回で提示する起業家について調べてみる スタディクエスションシートの完成	1	
第9回	グループディスカッション（アイデア創出と絞り込み）	前回の授業で定義づけした課題の解決策を考えてみる。 授業で学んだことを復習（アイデアの絞り込みができていないグループは次の授業までに済ませること）	1	
第10回	ビジネスモデルと収支計画	各グループで考えたビジネスアイデアに対し何が売上になるのか、どのような経費が必要かを考えてみる。 各グループのビジネスモデルと収支計画を整理する。	1	
第11回	プロトタイプ作成	グループ発表に向け、発表の構成を考えてみる。 グループ発表に向けた準備	1	2
第12回	グループ発表会①	グループ発表に向けた準備 自身のグループが発表対象だった場合は良かった部分、改善点を振り返る。自身のグループ発表がなかった場合は、他のグループの良かった部分、改善点を整理する。	1	2
第13回	グループ発表会②	グループ発表に向けた準備 自身のグループが発表対象だった場合は良かった部分、改善点を振り返る。自身のグループ発表がなかった場合は、他のグループの良かった部分、改善点を整理する。	1	2
第14回	グループワークと発表の振り返り、及び全体のまとめ	これまでの授業で学んだビジネスに必要な要素を振り返り、自身のグループ発表で良かったところ、改善点を整理する。 振り返った項目を整理する。	1	1

25	日本経済論	LM-A-103	選択 2単位 1年後期
Japanese Economy			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 金井 辰郎			
授業の達成目標			
第二次世界大戦敗戦後の焼け野原から今日の経済大国まで発展した日本経済の成長の理由と、バブル崩壊以後の低成長経済から抜け出せずにいる日本経済の現状を理解し、次の時代においてとるべき日本経済の戦略を展望する。			
ミニマムリクワイアメント			
1 第二次世界大戦により壊滅的な被害を受けたものの、冷戦構造のなかでアメリカから資金・軍事・技術面での援助を引き出すことに成功したことで、日本経済は短期間で回復することができたことを理解すること。 2 1990年代以降の低成長化と少子化は、日本の社会保障・財政の逼迫と地方の停滞をもたらしており、その克服が今後の日本にとっての大きな課題であることを理解すること。			
授業の概要			
授業の前半は戦前・戦中から戦後の日本経済史を扱い、中盤以降は現代日本の抱える種々の問題をフォーカスする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義ノートを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テスト(40点)＋試験(60%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストおよび試験については、webclassでフィードバックを行う。			
備考			

25	日本経済論	LM-A-103	選択 2単位 1年後期
Japanese Economy			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	日本経済史：戦前・戦中の日本経済	戦前・戦中の日本経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第2回	日本経済史：占領～高度成長前期	占領～高度成長期の日本経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第3回	日本経済史：高度成長前期	高度成長前期の日本経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。。	2
第4回	日本経済史：高度成長後期	高度成長後期の日本経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第5回	日本経済史：安定成長の時代	安定成長の時代の日本経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第6回	日本経済史：バブルと平成不況以後	バブルと平成不況以後の日本経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第7回	中間のまとめと試験	学習した内容を復習する。 試験内容についてノートに整理する。	2
第8回	現代日本経済：社会保障・少子高齢化問題	日本の社会保障・少子高齢化問題について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第9回	現代日本経済：財政	日本の財政について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第10回	現代日本経済：労働問題	日本の労働問題について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第11回	現代日本経済：農業問題	日本の農業問題について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第12回	現代日本経済：金融制度・政策	日本の金融制度・政策について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第13回	現代日本経済：日本経済と地方創生	日本における地方創生の現状及び今後について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2
第14回	まとめと試験	前回までに学習した内容を理解し、復習する。 試験内容についてノートに整理し、種々の論点について自分の意見を言えるようにする。	2

26	民法	LM-B-106	選択 2単位 1年後期
Civil Law			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 - 未定			
授業の達成目標			
本講義の授業の達成目標は次の通りである。 (1) 民法に関する基本的な法律用語を理解し使用できるようになる。 (2) 法的思考に基づき、民法の各制度を説明することができる。 (3) 「人」が「契約」をして物や金銭を得たり失ったりする基本的な流れを説明することができる。 (4) 金銭トラブルや家庭不和などが生じた際に、どのような対応をするのが法的に望ましいかについて説明することができる。 (5) 民法が絡む社会問題について、法的な思考に基づき自分なりの意見を表明することができる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標のうち次の目標となる。 (1) 民法に関する基本的な法律用語を理解し使用できるようになる。 (2) 法的思考に基づき、民法の各制度を説明することができる。			
授業の概要			
民法は、一般市民の財産関係や家族関係に関するルールを定める法である。本講義ではこの民法分野のうち、基本ルールにあたる主要な制度をいくつかとりあげて学ぶ。具体的には、「人」が「契約」をして物や金銭を得たり失ったりする基本的な流れとともに、金銭トラブルや家庭不和が生じた際に、どのような対応をするのが法的に望ましいかを学ぶことになる。自分自身だけでなく、周囲の人が法的なためごとで不幸にならないよう、是非この講義で得た知識を暮らして生かして欲しい。 なるべく身近な話題をとりあげるようにし、クリッカーにより参加者の理解度や意見を確認しながら、平易にかつ楽しく学べるようにしたい。			
実務経験を活かした教育について			
該当なし			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
使用しない。毎回、教員が作成した詳細なレジュメを配布する。			
参考書等			
必要に応じて講義時に紹介する。 なお条文を参照したいときには、目的に応じて六法を購入してもよいが、デジタル庁が提供する法令データベース「e-GOV法令検索」(https://laws.e-gov.go.jp/)に掲載されているものを見とるを便利である。			
成績評価方法・基準			
講義中の課題13% (クリッカーによる、1点×13回＝13点)、復習用小テスト39% (3点×13回＝39点)、ふりかえりテスト48% (48点×1回＝48点)、合計100点のうち60点以上の得点を評価基準とする。 講義中の課題はクリッカー、復習用小テストはLMSのテスト機能を用いる予定である。振り返りテストは対面で実施する。 講義中の課題では、達成目標(1)(2)(5)を評価する。評価基準：法律用語や制度理解の正確さ(50%)、適切な法的思考力(50%)。 復習用小テストでは、達成目標(1)(2)を評価する。評価基準：法律用語や制度理解の正確さ(100%)。 ふりかえりテストにおいては、達成目標(3)(4)(5)を評価する。評価基準：法制度の理解と説明の正確さ(80%)、適切な法的思考力。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講義中の課題については、講義時に正答を示し解説を行う。 その他の課題の結果については、LMS上でフィードバックをする。			
備考			

26	民法	LM-B-106	選択 2単位 1年後期
Civil Law			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	1 「人生」と民法 2 民法の基本原則 3 「人」とは	法とは何か、法の種類など、中学・高校において学習した知識を確認しておく。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、民法の基本原則や「人」という法律用語について、理解できたかどうかを確認する。お話し復習用課題に取り組む。	2
第2回	4 「物」とは 5 法的に問題となる「行為」とは 6 「契約」の成立と効力 7 契約をやめる方法	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「クーリング・オフ」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、「物」「行為」「契約」という法律用語や契約をやめる方法について、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第3回	9 契約の取消し・解除とあとしまつ 10 未成年と契約 11 成年後見制度	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「取消し」「解除」「成年後見」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、契約をやめた後のあとしまつと未成年者や精神障害者を契約トラブルから保護するしくみについて、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第4回	12 代理制度・基本 13 代理に関するトラブル	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「代理」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、他人の代わりに取引するしくみやトラブル解決方法について、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第5回	14 財産権としての物権と債権 15 財産権を保護するしくみ	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「物権」「債権」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、財産に関する権利にどのようなものがあるか、それを保護するしくみについて理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第6回	16 物権の取得 17 不動産物権変動 18 動産物権変動	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「不動産物権変動」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、「これは自分のものだ」という主張のぶつかり合いの法的解決方法について、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第7回	19 他人の物を借りる方法 20 賃貸借 21 使用貸借	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「賃貸借」「使用貸借」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、他人の物の借り方と借主の立場で主張できることについて、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第8回	22 金銭債権の仕組み 23 金銭の消費貸借 24 借金に関する法規制	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「消費貸借」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、借金の膨らむしくみやお金の貸借方について、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第9回	25 借金の消し方いろいろ 26 契約を守らない場合のペナルティ 27 債務不履行	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「債務不履行」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、借金の消し方や契約を守らないときにどのような不利益を課されるかについて、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第10回	28 担保制度 29 保証・連帯保証 30 抵当権	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「保証」「連帯保証」「抵当権」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、借金の支払いをより確実にするためのしくみについて、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第11回	31 不法行為 32 不法行為に関する特別ルール	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「不法行為」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、事故や事件で他人に損害を与えてしまった場合の責任の取り方について、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第12回	33 時効とは何か 34 取得時効 35 消滅時効	講義開始前に提示されるレジュメを読み、「取得時効」「消滅時効」など、講義で用いられることばを調べておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、長い時間が過ぎたことを理由に他人の物を得られたり借金を払わずに済んだりするしくみについて、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第13回	36 婚姻 37 離婚 38 親子	講義開始前に提示されるレジュメを読み、結婚や離婚の仕方など自分の知識を確認しておくこと。	2
		レジュメにある講義のまとめ部分の空欄を埋め、結婚し子を持ち離婚するまでの法的しくみについて、理解できたかどうかを確認する。復習用小テストに取り組む。	2
第14回	39 親権 40 ふりかえりテスト	これまで講義で使ったレジュメを読み、復習用小テストや講義中の課題の正答を確認しておくこと。	2
		テストの正誤を確認し、誤った理解を修正する。	2

27	マーケティング論	LM-B-201	必修 2単位 2 年前期
	Marketing		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	    
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2 年全組 佐藤 飛鳥			
授業の達成目標			
本講義ではビジネスの現場で必要とされるマーケティングの考え方を身につけることを目標とする。マーケティングの概要、マーケティングの要素といったマーケティングの基礎を体系的・系統的に理解する。その上で、講義で紹介する概念やフレームワークを実務に即してビジネス・シーンに応用して課題を発見し、解決する力をつける。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) マーケティングの基礎となるSTP (市場調査)、4P (製品政策・価格政策・チャネル政策・プロモーション政策)、ニーズオリエンテッドの考え方を理解できる (2) マーケティングの基礎となる3C分析、SWOT分析を使いこなせる (3) マーケティングの考え方や分析手法を組み合わせて学科のマーケティング戦略を提案できる (4) マーケティング戦略を分析し、改良点を提案できる			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)～(3)とする。			
授業の概要			
今日、マーケティングは、ビジネス活動を行う企業はもちろんのこと、自治体や NPO においても欠くことの出来ない存在となっている。経営関連の科目の中で唯一、市場・消費者を分析対象としているのが「マーケティング論」である。誰もが消費者という立場で毎日、をいくらかで買うか」という意志決定を行っているため、当事者として製品やサービスを考えることが出来るだろう。一方、企業や組織場や社会に受け入れられ存続していくためにマーケティング戦略を用いている。企業や組織がどんな工夫 (＝マーケティング) をしているかを学習する。			
実務経験を活かした教育について			
文部科学省知的クラスター創成事業において石川県の予防型社会創造産業形成に携わった経験を授業に活かし、地域マーケティングの考え方を教示して還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
テキストは使用しない。参考書は講義中に紹介する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎講義の最後に指示するホームワークによる講義内容の理解度と、マーケティングの考え方にに基づき戦略提案ができているかをみる) 評価を合計し 70%、期末レポート (同上) 30%の配分で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
ホームワークは次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。ただし、期末レポートは期末テストに代えて実施するものであり、期末レポート未提出者は単位が与えられないため注意すること。			
備考			

27	マーケティング論	LM-B-201	必修 2単位 2 年前期
	Marketing		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	マーケティングとは：マーケティング・コンセプト、マーケティング・ミックス (4P)	マーケティング・ミックス (4P) の考え方をまとめる。	2
第 2 回	マーケティングのSTP：セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング	講義内容のノートをもとめ直し、企業の実例を探してその4Pをまとめる。 実際の企業の STP 事例をまとめる。	2
第 3 回	マーケティングと消費者：顧客満足と消費者行動、代表的な消費者心理	講義内容のノートをもとめ直し、企業の実例を探してSTPをまとめる。 顧客として離反 (商品やサービスの購入先を変更) した経験をノートに書き出す。	2
第 4 回	マーケティングと市場志向型戦略：ミッション、3C分析、SWOT 分析	講義内容のノートをもとめ直し、消費者心理の理論のうち、経験したことのある内容を書き出す。 マーケティング理論・フレームワークとしての「ミッション」、「3C分析」、「SWOT 分析」を調べ、理解を深める。 MC 学科の3C 分析と SWOT 分析を行う。	2
第 5 回	戦略的マーケティング：リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャー	企業の業界内のポジションである、「リーダー」、「チャレンジャー」、「フォロワー」、「ニッチャー」を調べ、理解を深める。 実際の企業1つに注目し、業界内のポジション別戦略をまとめる。	2
第 6 回	マーケティング・リサーチ：1次データ、質問法、観察法、実験法	質問法、観察法、実験法など、マーケティングでも用いられる調査法を調べる。 講義で学習した調査法を用いて、一次データとなるマーケティング・リサーチ計画を立てる。	2
第 7 回	顧客価値の創造 ①製品：プロダクト・ミックス、プロダクト・ライフサイクル	マーケティング理論としての「プロダクト・ミックス」、「プロダクト・ライフサイクル」を調べ、理解を深める。 ヒット商品を1つ取り上げ、その中核ベネフィットがなにか (顧客がその商品に求めているコア機能) を考える。	2
第 8 回	顧客価値の創造 ②ブランド：ブランド・エクイティ、ブランド戦略	自分自身の回りにある商品の「商品名」を20個書き出す。 ヒット商品を1つ取り上げ、そのブランドの構成要素をまとめる。	2
第 9 回	顧客価値の創造 ③サービス：無形性、品質の変動性、不可分性、消滅性、需要の変動性	「サービス」の特徴である、無形性、品質の変動性、不可分性、消滅性、需要の変動性を調べ、理解を深める。 「サービス」を1つ取り上げ、無形性、品質の変動性、不可分性、消滅性、需要の変動性について具体的に特徴をまとめる。	2
第 10 回	顧客価値の伝達 ①流通：チャネル設計、チャネル管理	身の回りの商品を5つ取り上げ、製造元から自分自身が入手するまでの流通経路を書き出す。(ex. 製造企業→コンビニ本部→コンビニ店舗→顧客) チャネルのメリット・デメリットをまとめる。	2
第 11 回	顧客価値の伝達 ②営業：4P と日本の営業、日常の中でマーケティングを考え営業力を高める	自分自身が人的販売 (営業や接客担当者、販売員など) から受けたことのあるコミュニケーション内容を10書き出す。 自分自身が体験した、購入する気がなかったのに話している間に購入することになったケース (営業力の強い企業) の手法を思い起こし、ノートにまとめる。	2
第 12 回	顧客価値の説得 ①価格：損益分岐点、需要の価格弾力性	「損益分岐点」、「需要の価格弾力性」を調べ、理解を深める。 手元にある商品を1つ選び、まず消費者心理を考慮した価格設定を検討し、その後、経営上の損益分岐点を考慮して実現可能な価格かどうかを検討し、最終価格を決める。	2
第 13 回	顧客価値の説得 ②広告：主要広告媒体、リーチ・カバレッジ・フリクエンシー、セールス・プロモーション	マーケティング用語としての「主要広告媒体」、「リーチ」、「カバレッジ」、「フリクエンシー」を調べ、理解を深める。 自分自身が体験したセールス・プロモーションをノートにまとめる。	2
第 14 回	顧客価値の説得 ③コミュニケーション：媒体、反応プロセスモデル (AIDMA、AISAS)、統合型マーケティング・コミュニケーション まとめ、期末レポートの執筆にあたって	反応プロセスモデル (AIDMA、AISAS) を調べ、理解を深める。 第1～14 回のノートに目を通し分からないところを無くし、総まとめとして自分自身の考えをレポートに記述する。	2

28	セミナーⅢ	LM-E-202	必修 1単位 2 年前期
Management Desing Seminar			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
○	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 川島 和浩 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 小祝 慶紀 黎 敏利			
授業の達成目標			
1. 本学科での学習に必要なアカデミックスキルを身につける 2. 就職活動に関する基礎力を身につける 3. 本学科が推奨する資格 (MOS : Word 365 Associate/Expert) 取得に向けた学習を通じて ICT ビジネススキルを身につける 4. 本学科が推奨する資格 (MOS : Excel 365 Associate/Expert) 取得に向けた学習を通じて ICT ビジネススキルを身につける			
ミニマムリクワイアメント			
1. 就職活動準備のためSPIの基本項目を理解し正答できる。 2. Microsoft 365 アプリケーション「Microsoft Word 365 Associate/Expertレベル」の基本/応用操作ができる。 3. Microsoft 365 アプリケーション「Microsoft Excel 365 Associate/Expertレベル」の基本/応用操作ができる。 4. 卒業研究分野の絞り込みのため、経営デザイン学科各教員の研究専門分野について情報収集を行う。 上記のうち「1・2・3」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
セミナーⅡに引き続き、大学での学習、生活一般についての概説を行い、さまざまな課題を通して、経営デザイン学科で学ぶために必要な学習スキル・知識・能力・態度を身につける。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
別途掲示する。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
評価 1. 小テスト 2. 試験 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題・試験に関するフィードバックは個人面談もしくはWebClassで情報開示する。			
備考			

28	セミナーⅢ	LM-E-202	必修 1単位 2 年前期
Management Desing Seminar			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	外部講師講演 1	WebClassから配布する資料を通読する。 課題に取り組み、期日までにWebClassから提出する。	0.5
第 2 回	セミナー毎面談 (単位修得状況・履修登録確認)	一年生時の学習状況・成績について振り返る。 個別面談の内容をノートに整理する。	0.5
第 3 回	資格取得支援講座C-5	教科書の「MOS (Excel 365 Associate)」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第 4 回	資格取得支援講座C-6	教科書の「MOS (Excel 365 Associate)」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第 5 回	資格取得支援講座C-7	教科書の「MOS (Excel 365 Associate)」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第 6 回	資格取得支援講座C-8	教科書の「MOS (Excel 365 Associate)」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第 7 回	SPI講座 5	SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶこと、 講義内容をノートに整理すること	0.5
第 8 回	SPI講座 6	SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶこと、 講義内容をノートに整理すること	0.5
第 9 回	資格取得支援講座D-1	教科書の「MOS (Word もしくは Excel 365 expert)」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第 10 回	資格取得支援講座D-2	教科書の「MOS (Word もしくは Excel 365 expert)」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第 11 回	資格取得支援講座D-3	教科書の「MOS (Word もしくは Excel 365 expert)」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第 12 回	資格取得支援講座D-4	教科書の「MOS (Word もしくは Excel 365 expert)」を予習する。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第 13 回	外部講師講演 2	WebClassから配布する資料を通読する。 課題に取り組み、期日までにWebClassから提出する。	0.5
第 14 回	セミナー毎学期末面談	2年生前期の目標を達成できたかどうかを自己評価し、記入できるようにまとめておくこと セミナー教員との面談結果をノートに整理する。	0.5

29	財務会計論	LM-C-201	選択 2単位 2 年前期
	Financial Accounting		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2 年全組 － 未定			
授業の達成目標			
会計学の学問領域のうち「財務会計」の分野に関する基本的な論点の習得を目標とします。本講義では、財務会計の中心となっている会計基準の背景にある考え方や具体的な会計処理方法を理解し、財務諸表分析のための理論的基礎を身につけることにより、企業行動の実態を把握できるようになることを目指します。また、会計基準に関する国際的な動向を注視することにより、財務報告制度の意義、役割および将来の方向性について、自らの考えを表し説明できるようになることを目指します。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 財務情報の意義や役割等を説明することができる。 (2) 日本の会計制度を中心として、会計基準の基礎にある考え方や具体的な会計処理方法を理解し、財務諸表分析のための理論的基礎を身につける。 (3) 国際的な会計基準とのコンバージェンスにおける論点を説明することができる。 (4) 国外の会計基準設定機関である IASB および FASB 等の見解および動向を踏まえて、財務報告制度の役割と将来の方向性について説明できるようになる。 本講義におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) と (2) とする。			
授業の概要			
会計は「事業 (ビジネス) の言語」 (language of business) として捉えることができます。わたしたちが言語によってコミュニケーションを行うのと同様に、組織の財務諸表を読み解き、その経済活動を把握するためには会計の知識が必要です。また、財務諸表の数値を戦略やファイナンス、法律などが深く結びついています。本講義では、財務諸表を作成するためのルール (会計基準) とその基礎にあっての学びを通して、多角的な問題意識をもてるようになることを目的とします。本講義を受講することにより、簿記で学んだ仕訳の知識を結びつけることができます。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
財務会計入門 (第 7 版) 田中建二 中央経済社 2025			
参考書等			
財務会計講義 (25 版) 桜井久勝 中央経済社 2024			
成績評価方法・基準			
中間試験 (30%)、期末試験 (30%)、小テスト・レポート (40%) で総合的に評価する。なお、授業の到達目標である会計基準の基礎にある考え方を理解するという到達度を、講義後に提出する講義内容の要約 (レポート) または講義中に実施する小テストで測り、評価に従って評価します。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に提出された講義内容要約に関する解説等のフィードバックを行う。 質問等のフィードバックは、内容に応じて、講義内もしくは直接に行う。			
備考			
本講義では、基本的に講義用テキストに沿って講義を行います。が、理解を深めるために具体的な仕訳や計算などの問題も解くことがあるため、電卓を用意すること。			

29		財務会計論	LM-C-201	選択 2単位 2 年前期
Financial Accounting				
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	オリエンテーション、財務会計の基礎 講義の達成目標、講義内容の概要、成績評価の方法について説明する。会計の役割・種類・目的を整理し、会計基準の国際的統合化の方向性を踏まえて、会計制度および会計基準の意義について確認する。	シラバスに目を通すとともに、教科書（第1章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第2回	財務諸表の仕組み 貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、およびキャッシュ・フロー計算書などの財務諸表について整理する。損益計算書の各段階ごとの利益計算とその開示の国際的動向についても確認する。	教科書（第2章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第3回	棚卸資産の会計 棚卸資産の取得原価、評価方法および期末評価等について確認する。近年公表された暗号資産の会計処理方法についても確認する。	教科書（第3章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第4回	有形固定資産の会計 有形固定資産の取得原価、減価償却の意義・効果、および無形固定資産および繰延資産の会計	教科書（第4章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第5回	無形固定資産、研究開発費およびソフトウェア制作費等の会計処理方法について確認する。諸外国における無形資産に関する会計基準との相違についても確認する。	教科書（第5章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第6回	金融資産の会計 有価証券の会計処理方法を中心に確認する。派生金融商品（デリバティブ）取引や現金預金の範囲等についても確認する。	教科書（第6章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第7回	負債の会計 負債の範囲・区分、引当金の意義・分類等について確認する。また、資産除去債務の意義や会計処理等について確認する。	教科書（第7章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第8回	純資産の会計、中間試験 純資産の部の構成、資本と利益の区分、払込資本および留保利益の部、剰余金の配当、自己株式について確認する。中間試験を実施する。	教科書（第8章）をよく読んでおくこと。中間試験の内容について再整理しておく。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第9回	収益と費用の会計 収益・費用の認識・測定基準、実現概念について確認する	教科書（第9章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第10回	税効果会計 会計上の利益と税務上の課税所得の関係について整理し、それを調整するための会計処理方法について確認する。また、繰延税金資産の回収可能性の確認方法について確認する。	教科書（第10章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第11回	外貨換算会計 ドルなどの外貨建の取引から生じた項目や海外の子会社などで作成された外貨で表示された財務諸表項目の換算方法や、換算により生じた差額の会計処理方法について確認する。	教科書（第11章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第12回	企業結合会計 企業の買収や合併をめぐる基本的な考え方と会計処理方法について確認する。また、のれんの会計処理に関する論点について、国際的な会計基準の考え方を踏まえて確認する。	教科書（第12章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第13回	連結財務諸表、財務諸表の分析 企業集団全体の経営成績や財政状態を表示する連結財務諸表について、連結会計の意義、連結範囲を決定する基準および連結財務諸表の基本的な作成手続きについて確認する。また、財務諸表の利用の仕方や財務諸表の限界についても確認する。	教科書（第13章）をよく読んでおくこと。	2	
		講義の内容をよく復習し、参考書の該当部分を参考に講義内容を要約して、期限までに提出すること。	2	
第14回	期末試験	第1回～13回までの講義の論点をまとめ、期末試験に備える。	2	
		期末試験の内容を再検討して整理する。	2	

30	データ分析	LM-B-202	選択 2単位 2 年前期
	Analysis of Data		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 黎 敏利			
授業の達成目標			
統計学の基本的考え方を修得するとともに、現実の情報処理問題に正しく適用できることを重視する。Excel の関数やデータ分析を利用して、現実の問題を解決できる力を身につける。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 基礎知識の理解：データ分析の基本的な概念や用語（例：平均、中央値、分散、標準偏差、回帰分析、相関係数など）を理解する。 (2) データの種類（定量データ、定性データ）やスケール（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）を区別できる。 (3) EXCEL の基本的な創作を習得し、簡単なデータセットを扱うことができる。 (4) 講義で扱った基本的な分析手法（例：記述統計、相関分析、単回帰分析）を実際のデータに適用できる。分析結果を正確に解釈し、適切な結論を導き出せる。			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、(1) ～ (3) とする。			
授業の概要			
データの集計や分布の捉え方について理解し、推測統計学の最も基本的な応用である母平均の検定や推定、群間の差の検定を始め、相関や回帰分析等に関して広く学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
河口洋行 (2021) 『文系のための統計学入門 データサイエンスの基礎』日本評論社。 他の文献についても授業の中で適宜情報提供を行う。			
成績評価方法・基準			
授業中の課題に対する取り組みの度合い (30%)、小テスト (30%)、期末試験 (40%) で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示した課題や小テストについては、WebClass および授業のなかでフィードバックする。			
備考			

30	データ分析	LM-B-202	選択 2単位 2 年前期
	Analysis of Data		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	統計学の基礎知識の体系	統計学とは何か自分で考える。	2
第 2 回	代表値と散布度	代表値と散布度について授業資料を読み理解する。	2
第 3 回	確率論と期待値	代表値と散布度について授業中に実施した作業を復習する。	2
第 4 回	正規分布	確率論と期待値について授業資料を読み理解する。	2
第 5 回	母集団と標本	確率論と期待値について授業中に実施した作業を復習する。	2
第 6 回	標本変動と信頼区間	正規分布とは何かについて授業資料を読み理解する。	2
第 7 回	背理法と帰無仮説	正規分布について授業中に実施した作業を復習する。	2
第 8 回	母平均の検定	母集団と標本とは何かについて授業資料を読み理解する。	2
第 9 回	二つの母平均の検定	母集団と標本について授業中に実施した作業を復習する。	2
第 10 回	散布図と相関係数	二つの母平均の検定について授業資料を読み理解する。	2
第 11 回	単回帰分析	二つの母平均の検定について授業中に実施した作業を復習する。	2
第 12 回	重回帰分析	散布図と相関係数について授業資料を読み理解する。	2
第 13 回	尺度とクロス集計表	散布図と相関係数について授業中に実施した作業を復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	尺度とクロス集計表について授業資料を読み理解する。	2
		尺度和クロス集計表について授業中に実施した作業を復習する。	2
		テキストやこれまでの授業ノートを基に復習して試験に備える。	2
		試験問題について解けなかった問題はしっかり確認しておくこと。	2

31	ICTビジネススキルⅢ		LM-D-201	選択 2単位 2 年前期
	ICT Business Skills III			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	  	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)			
クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目		
		実務経験のある教員担当		
		アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
2 年全組 亀井 あかね				
授業の達成目標				
コンピュータ、情報システムの基本的な仕組み・機能、情報システムの計画・導入・運用の基本的な事項を学ぶことにより、社会においてコンピュータ、情報システムを活用するための基礎力を身につける。 ※本講義は「ITパスポート資格試験シラバス（最新版）」に準拠している。				
1. ITパスポート試験シラバスにおけるストラテジ系項目の過去問題の取り組みで平均85点以上取得する 2. ITパスポート試験シラバスにおけるマネジメント系項目の過去問題の取り組みで平均85点以上取得する				
ミニマムリクワイアメント				
1. ITパスポート試験シラバスにおけるストラテジ系項目で出題される専門用語について説明できる 2. ITパスポート試験シラバスにおけるマネジメント系項目出題される専門用語について説明できる 3. ITパスポート試験シラバスにおけるストラテジ系項目の過去問題の取り組みで平均60点以上取得する 4. ITパスポート試験シラバスにおけるマネジメント系項目の過去問題の取り組みで平均60点以上取得する 5. ITパスポート試験シラバスにおけるストラテジ系項目の過去問題の取り組みで平均85点以上取得する 6. ITパスポート試験シラバスにおけるマネジメント系項目の過去問題の取り組みで平均85点以上取得する				
上記のうち「1・2・3・4」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。				
授業の概要				
コンピュータや情報システムが社会においてどのように活用されているかを概観した後に、その基本的な構造を学ぶ。組織において情報システムを計画・導入・運用するうえでの基本的な事項についても学ぶ。講義形式で行う。プログラミングは行わない。在学中のITパスポート資格修得を目指す。なおストラテジ系項目は「データベースと経営」および「情報システム学」で扱う。				
実務経験を活かした教育について				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
【電子教科書】いちばんやさしいITパスポート絶対合格の教科書+出る順問題集（令和7年度/2025）、高橋京介著、SB Creative。 ※「アノテーション（電子教科書への書き込み）」を主資料として講義を進める。 ※本学の大学生協で電子教科書（コード）を購入することを推奨する。 ※本学大学生協以外で電子教科書を購入する場合、電子教科書システムへのコード紐付けに時間を要するため、不利益が生じる場合がある。				
参考書等				
適宜紹介する。				
成績評価方法・基準				
1. 小テスト 2. 試験 「1・2」を総合的に評価する。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
小テストは次回授業で解説もしくはWebClassに模範解答をアップロードする。期末試験に関しては「情報処理推進機構」が「公式HP上で公開している「ITパスポート試験過去問題（問題冊子・解答例）」を各自確認すること。				

31	ICTビジネススキルⅢ		LM-D-201	選択 2単位 2 年前期
	ICT Business Skills III			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	オリエンテーション・電子教科書ID登録・電子教科書使用方法	授業開始前に電子教科書を購入し、初回に必ず電子教科書コードを持参する。 教科書を通読し、電子教科書の機能について確認する。	2	
第2回	「企業活動」	「企業活動」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第3回	「法務」	「法務」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第4回	「経営戦略マネジメント」	「経営戦略マネジメント」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第5回	「技術戦略マネジメント」	「技術戦略マネジメント」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第6回	前半の振り返り	第1～5回の学習内容に関する教科書該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第7回	まとめと中間試験	第1～6回の学習内容に関する教科書該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を精読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第8回	「システム戦略」	「システム戦略」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第9回	「開発技術」	「開発技術」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第10回	「プロジェクトマネジメント」	「プロジェクトマネジメント」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第11回	「サービスマネジメント」と「システム監査」	「サービスマネジメント」と「システム監査」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第12回	後半の振り返り	第8～11回の学習内容に関する教科書該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第13回	まとめと期末試験	試験範囲に指定された教科書該当箇所を復習する。 教科書を精読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2	
第14回	DX化を推進する国内企業動向、ITパスポート試験、各種テストに関するフィードバック	ITパスポートシラバス項目をに関する教科書該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を精読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。 ITパスポート試験受験に向けて、教科書項目の復習、過去問題への取り組みを行う。	2	

32	経営管理論	LM-B-203	選択 2単位 2 年前期
Management Policy			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2 年全組 阿部 敏哉			
授業の達成目標			
組織を運営するマネジメントの役割とその重要性、さらに、組織の形態、経営理念等の問題などを正しく理解できるようになること。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 組織の概念を理解する。 (2) 組織の成り立ちを理解する。 (3) 組織が存続するために必要な条件を理解する。 上記 (1) から (3) を理解すること。			
授業の概要			
本講義では、企業の存続と発展の鍵を握るマネジメントの役割に焦点を当てる。このことを学ぶに当たり、テイラーに始まり、バーナード、サイモン等を経て今日に至る一連の学説を取り上げ、経営管理の捉え方を考察する。さらに、経営者が組織を発展させるために不可欠である変化する環境への適応の問題や、人々から貢献を得るための仕組みとしてのリーダーシップやオーソリティ等の問題についても取り上げ、経営管理の主要部分について理解することを目指す。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員はメカバンクでの勤務経験を活用し、企業を捉える場合のポイントや組織のマネジメントについて、学生が自分たちの生活に応用できるような知識を教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。			
参考書等			
適宜指示する。			
成績評価方法・基準			
期末試験の結果により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は課さない。			
備考			

32	経営管理論	LM-B-203	選択 2単位 2 年前期
Management Policy			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	経営管理論の基本的考え方	経営管理を学ぶ意義について考える。	2
第 2 回	古典的管理理論	経営管理の学問的存在意義についてノートを整理する。	2
第 3 回	近代的管理理論	管理の歴史について考える。	2
第 4 回	人間と協働	代表的な古典的理論についてノートを整理する。	2
第 5 回	組織の成立と存続	管理の意義について考える。	2
第 6 回	複合公式組織	代表的な近代理論についてノートを整理する。	2
第 7 回	組織と管理	複合公式組織の成り立ちについて考える。	2
第 8 回	組織づくりと専門化	公式組織と非公式組織の関わりについてノートを整理する。	2
第 9 回	組織づくりとオーソリティ	管理について考える。	2
第 10 回	存続のための意思決定	経営管理の基本的考え方についてノートを整理する。	2
第 11 回	動機付けのための誘因	組織の意思決定について考える。	2
第 12 回	管理過程	機会主義的意思決定についてノートを整理する。	2
第 13 回	管理責任	誘因について考える。	2
第 14 回	まとめと試験	誘因の方法についてノートを整理する。	2
		組織の存続について考える。	2
		組織の四重経済についてノートを整理する。	2
		組織の道徳と責任について考える。	2
		組織における道徳と責任の考え方についてノートを整理する。	2
		講義についてノートをまとめ直す。	2
		理解が不十分だった点を見直す。	2

33	会社法	LM-B-204	選択 2単位 2 年前期
	Company Law		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 - 未定			
授業の達成目標			
本講義の達成目標は次の通りである。 (1) 企業をめぐる法規整の特色を踏まえて、会社法の意義と特色を説明することができる。 (2) 株式会社とはどのような会社であるか、持分会社との違いを示しつつ端的に説明できる。 (3) 株式会社における所有と経営の分離を踏まえながら、株式会社の経営体制と経営監視体制を説明することができる。 (4) 株式会社の設立に関する会社法制度が理解できる。 (5) 株式会社を特徴付ける株式制度の原則論 (株式の自由譲渡性) と例外的な特種の株式について各々の効用を概説することができる。 (6) 株式会社の多様な資金調達手段について機能的な使い分けの選択肢を説明することができる。 また、本講義は教職科目であり、教職科目として、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指すために株式会社の特徴と機関など、ビジネスに関する法規について体系的・系統的に理解するようにする。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標のうち次の通りである。 (1) 企業をめぐる法規整の特色を踏まえて、会社法の意義と特色を説明することができる。 (2) 株式会社とはどのような会社であるか、持分会社との違いを示しつつ端的に説明できる。 (3) 株式会社に於ける所有と経営の分離を踏まえながら、株式会社の経営体制と経営監視体制を説明することができる。とする。			
授業の概要			
迅速かつ大量で計画性、反復性のある商取引を行う場合には、複数の人が懐からお金を出し合って、まとまった事業資金を確保し、これを元手に大量取引を行った方が個人で細々と取引するよりも利益率が高くなる可能性が大きい。こうしたことを念頭に考え出された組織が、株式会社です。株式会社は、構成員 (株主) に分配する利益を得ることを目的とした (= 営利の) 社団です。しかも、その株式会社名義で対外的な商取引が行えるよう、会社という組織を法的に法律として地位が与えられています (法人格付与)。この授業では、企業活動を行う株式会社の法的構造についての基礎的な概念を説明していきます。そのために、まず企業とは何か、個人企業と共同企業とはどこがどう違うか、組合企業と会社企業とはどう区別されるか、会社の中で持分会社 (合名会社・合資会社・合同会社) と株式会社は組織及び運営に関してどのように異なるか、等々を順次、解説したうえで、株式会社の組織・機関構成の概略を確認し、そこに向けて株式会社はどのように実体を整え設立されていくか、を解き明かします。ついで、株式会社の最大の特徴の 1 つともいえる株式制度について概観し、株式の発行による会社資金の調達と、社債の発行による資金調達とを順次対比的に解説していきます。なお、後述の授業計画をみると、難しそうな用語が並んでいてやる気が失いそうですが、骨子を理解したら内容的には、そんなに難しいことではありませんから、ぜひ将来のために受講してみてください。			
実務経験を活かした教育について			
該当なし			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
菊地雄介ほか著『レクチャー会社法【第3版】 (αブックス) 』 (2022年、法律文化社)			
参考書等			
授業中に適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
第3回、第7回、第9回、第11回および第13回の各回の授業の後半に20分程度の小テストを行う (テスト方式はLMS上で行う予定)。そして、その合計点で成績を評価する。なお、この小テストが行われる回の授業に欠席した履修者については、後日、記述式のレポート課題指定した提出期限までに提出した場合に、その評価を当該欠席回の小テストの点数とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストのフィードバックについては、小テスト実施回の次の授業時に小テスト解説を含めて行う。			
備考			
出席の取り方、履修放棄とみなす欠席回数、その他単位修得のためのルールについては、第1回の講義の冒頭で書面で告知します。			

33	会社法	LM-B-204	選択 2単位 2 年前期
	Company Law		
授業計画 (各回の学習内容等)			
学習内容 (授業方法)		学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	個人企業と共同企業 (組合と会社の異同)	企業と何かが、その概念を調べておく	2
	会社の営利性・社団性・法人性	法律行為の一つである契約とは何かを踏まえて、組合と社団 (会社) との違いを押さえておく。	2
第 2 回	持分会社の基本的特徴と合名会社・合資会社・合同会社の異同	利潤の追求 (要するにお金儲け) をするために必要なことは何かを考えておく。 営利と社団の概念を押さえた上で、社団たる共同企業が行う取引の際、その社団に法人格が与えられていることのメリットについて理解する。	2
	株式会社の基本的特徴	合名会社・合資会社および合同会社とは何かについて、分ける範囲で調べておく。 3種類の持分会社それぞれの違いを踏まえて、合名会社・合資会社および合同会社における社員の義務と責任について、無限責任社員と有限責任社員のそれぞれの義務と責任について理解する。	2
第 3 回	株式会社の基本的特徴	株式会社とは何かについて、分ける範囲で調べておく。	2
	株式会社の諸類型、株式会社の機関構成	所有と経営の分離の意義を押さえた上で、株式会社形態で企業取引を行うことのメリットを持分会社との対比で理解する。 法人格とは何かを復習した上で、株式会社の運営のために必要となる「株主」と「取締役」のそれぞれについて、分ける範囲で調べておく。	2
第 4 回	株主総会の意義・権限と招集手続	株式会社の構成員である株主が保有する株式の意義を (株式の譲渡が自由な公開会社と、譲渡制限をかける非公開会社があることを含めて) 押さえた上で、株式会社に必置の機関である株主総会と取締役のそれぞれの意義と作用について株式会社の種類ごとに理解する。	2
	株式会社の経営体制・経営監視体制の概要	株主総会で決議される事項には、どのようなものがあるか、また株主総会の手続の流れについて、分ける範囲で調べておく。 株主総会では、取締役が選任されること、定時株主総会では決算報告等の承認決議がなされること、その他株主総会で決議されるべき事項には何かがあるのかを、株式会社の諸類型ごとに理解する。	2
第 5 回	取締役の法的地位・義務・責任	取締役会、監査役、会計監査人、会計参考、指名委員会等設置会社監査等委員会設置会社について、分ける範囲で調べておく。 取締役会、監査役、会計監査人および会計参考の各機関は、どのような会社の類型において設置されるのか、また指名委員会等設置会社および監査等委員会設置会社の制度が置かれた経緯について理解する。	2
	取締役責任とその追及 (株主代表訴訟)、取締役の対第三者責任	取締役が会社から責任を追及された具体的ケースについて、過去のニュースから調べておく。 会社は、営利の社団法人である以上、取締役に対する委任の本旨は、会社に利益をもたらすように経営することであるのに、それに反して会社に損害を被らせる業務執行を行った取締役は、会社からその損害を賠償するよう請求される場合があるが、その要件は何か、またその責任が免除されるとすれば、それはどのような場合かを理解する。さらに、会社の取引の相手方が会社に対してではなく取締役に直接に責任を追及する場合は、どのような場合かを理解する。	2
第 6 回	株式制度の基本的特徴、株式の内容と種類	株式…、あまりにもよく耳にする言葉であるが、実際のところ、株式とは何か、調べたことがあるだろうか。調べた人もそうでない人も、株式の意味を整理しておいてほしい。 株式会社の当初の事業資金は、出資によって賄われる。そして、株式会社においては、この出資の額を一口何円と予め単位化しておく。この出資単位のことを株式という。そして、この株式の意義は、単に出資単位にとどまらず、普通株式の場合、1株式につき株主総会で1議決権を与え、会社の剰余金の配当についても株式数に応じてこれを行う、という株式の法的性質を理解し、かつ種類株式にはどのようなものがあるのかについて整理する。	2
	株式会社の資金調達手段、新株発行の3方式	株式会社が資金調達を必要とするのは、いかなる場面においてか、またその方法は何かを自分なりに考えておく。 株式会社の資金調達手段の特徴について整理しておく。	2
第 7 回	株式発行の手続、株式の有利発行・不公正発行	株式発行は、資金調達の手段以外にも利用されることがある。それはどのような場合か、報道された過去の実際の事例について調べておく。 株式発行による資金調達のメリットとデメリットを整理し、あわせて自己株式の取得規制の意義を理解する。	2
	新株予約権、社債、株式と社債の接近現象	新株予約権とは、どのようなものが、自分なりに調べておく。 新株予約権の制度の意義と機能、社債との関係、社債の償還とは何かについて整理・理解する。	2

33	会社法	LM-B-204	選択 2単位 2 年前期
	Company Law		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 14 回	株式会社の設立	これまでの株式会社法制の学修を踏まえて、株式会社を設立するためには、どのような手続が必要か、自分なりに調べておく。	2
		株式会社の設立に際して必要となる定款の作成（何を記載せねばならないか）と設立時役員の選出手続、出資の履行と設立関与者の責任について、実際に自分が株式会社を設立する（学生ベンチャーを立ち上げる）意気込みで、これらを整理・理解する。	2

34	地域提案論	LM-B-205	選択 2単位 2 年前期
	Regional Proposition		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2 学年全組 佐藤 勝幸			
授業の達成目標			
地域創生の現状を知り、地域社会を積極的に改善するための基礎知識を得る。そのために、地域創生と社会動向の関わりを学ぶとともに、仙台・宮城・東北地方の地域や社会における課題に直接関わっている実践者の取り組み内容や役割から、地域創生の重要性、経営知識の活用方法等を学ぶ。			
ミニマムリクワイアメント			
達成目標 (1) 地域社会が置かれている諸問題を理解することができる。 (2) 地域社会が抱えている共通の課題を抽出できる。 (3) 実践されている取組を学び、課題解決に向けた手法・進め方等を理解できる。 (4) 課題解決に向けた地域創生の事業手法を理解し、取組み手法を説明できる。 ミニマムリクワイアメント 本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) ～ (3) とする。			
授業の概要			
地域創生の現状を知り、地域社会を積極的に改善するための基礎知識や経営学で学ぶ様々な知識や手法の活用方法を学ぶ。そのために、地方社会が置かれている社会動向を学ぶとともに、実践者として地域社会で地域創生の事業に取り組む企業人を招き、地域創生に対する想いや具体的な手法、実践過程等から地域創生の理解を深める。			
実務経験を活かした教育について			
経営コンサルタント (中小企業診断士) 及びまちづくりコンサルタント (技術士) として地方自治体や民間企業が実際に取り組むまちづくり事業の支援経験を活かして、様々な主体が関わる地域創生の実践的な知識習得を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使用しない。必要に応じて適宜ハンドアウトを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
数回実施するレポート 65%、課題レポート 35%、評価合計 60 点以上で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。			
備考			

34

地域提案論

Regional Proposition

LM-B-205

選択 2単位 2 年前期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	地域創生とは何か	該当シラバスを読み、「創生」の意味を予習。 地域創生についての復習	2
第2回	人口減少社会における地域創生	人口減少、一極集中等の地域創生が必要となってきた、地域社会の課題について理解する。 人口減少による社会課題を振り返る。	2
第3回	地域創生と地方自治体	地方公共団体等の公表資料等から、人口減少により起きている地方公共団体の課題について理解を深める。 地方公共団体が抱える問題を振り返る。	2
第4回	地域創生と地域経済	国の公表資料等から、人口減により起きている商業や農業などの産業の課題について理解を深める。 身近な事業やアルバイトなどを通して産業の課題を振り返る。	2
第5回	地域創生の事業特性	地域創生を特徴づける事業上の構造について学習する。 地域創生の事業構造について再度理解を深める。	2
第6回	地域創生について事例で学ぶ①	地域創生を特徴づける事業上の構造について学習する。 事業者のHPから地域創生の事業内容を再度確認する。	2
第7回	地域創生について事例で学ぶ②	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する 事業者のHPから地域創生の事業内容を再度確認する。	2
第8回	地域創生について事例で学ぶ③	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する 事業者のHPから地域創生の事業内容を再度確認する。	2
第9回	地域創生について事例で学ぶ④	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する 事業者のHPから地域創生の事業内容を再度確認する。	2
第10回	地域創生について事例で学ぶ⑤	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する 事業者のHPから地域創生の事業内容を再度確認する。	2
第11回	地域創生の事業を考える①	地域の活性化を支援するための具体的な取り組みを考えていくための仕組みについて学習する。 地域創生の事業の仕組みについて振り返る。	2
第12回	地域創生の事業を考える②	地域創生の取り組みを発想するための具体的な手法、社会データ等の地域特性の把握方法について学習する。 地域創生事業の考え方について、理解を深める。	2
第13回	地域創生の事業を考える③	様々な主体が連携して地域創生に取り組むため事業の要素となる価値の組み立て方について学習する。 価値連鎖の仕組みについて、再度理解を深める。	2
第14回	地域創生と事業構想（事業を計画する）	事業を構想する演習を行い、地域創生の仕組みを学ぶ 価値連鎖の仕組みを振り返る。	2

35	マクロ経済学 Macroeconomics	LM-A-201	選択 2単位 2 年前期
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 金井 辰郎			
授業の達成目標			
財市場・貨幣市場・労働市場の同時均衡の仕組みを理解でき、財政政策や金融政策の影響を論ずることが出来るようにする。学部レベルのマクロ経済学の全体像をつかむ。			
ミニマムリクワイアメント			
1 45度線分析、IS=LM分析、AD=AS分析について説明できること。 2 新古典派成長論、ハロッド・ドーマー理論の違いが説明できること。 3 開放経済が説明できること。			
授業の概要			
「経済学入門」で履修した内容の続編として、マクロ経済学の初級部分の概説を行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義ノートを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テスト (40%) + 試験 (60%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストおよび試験については、webclassによりフィードバックを行う。			
備考			

35	マクロ経済学 Macroeconomics	LM-A-201	選択 2単位 2 年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	乗数過程	乗数過程について、調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 2 回	利子率を変数にした投資関数	利子率を変数にした投資関数を調査・研究する。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 3 回	IS曲線	IS曲線について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 4 回	貨幣需要と貨幣供給について	貨幣需要と貨幣供給について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 5 回	LM曲線	LM曲線について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 6 回	与件の変化と政策の効果	与件の変化と政策の効果について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 7 回	中間のまとめと試験	それまでに学習した内容を復習する。 試験内容についてノートなどに整理する。	2
第 8 回	AD曲線	AD曲線について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 9 回	古典派の第 1 公準・第 2 公準	古典派の第 1 公準・第 2 公準について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 10 回	ケインズ派の労働理論	ケインズ派の労働理論について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 11 回	AS曲線	AS曲線について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 12 回	経済成長理論	経済成長理論について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 13 回	開放経済	開放経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2
第 14 回	まとめと試験	これまでに学習した内容を復習する。 試験内容についてノートなどに整理する。	2

36	公共経済学	LM-A-202	選択 2単位 2 年前期
Public Economics			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年生 全組 小祝 慶紀			
授業の達成目標			
本科目の授業達成目標は次通りです。 ① 公共経済学を学ぶ上で必須となる「公共財」「市場の失敗」などの基礎的用語を理解する。 ② 公共財の性質について理解する。 ③ 公共財と私的財、メリット財とクラブ財について理解する。 ④ フリーライダーとな何かについて理解する。 ⑤ 公共財の最適配分について理解する。 さらに本科目は教職科目であり、(1) 経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解するようにすることが必要である。そのため講義では市場と経済 について、市場の役割と課題を理解できることが目標となる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標は次の通りです。 ① 公共経済学を学ぶ上で必須となる「公共財」「市場の失敗」などの基礎的用語を理解する。 ② 公共財の性質について理解する。 ③ 公共財と私的財、メリット財とクラブ財について理解する。			
授業の概要			
公共経済学は、政府の経済活動をミクロ経済学的な経済学的な観点から分析する分野です。そのため、本講義は、まず、ミクロ経済学および厚生経済学の基礎的理論を学びます (数学的な知識は必要としません)。その後、私たちの住む社会で起きている様々な課題を概観します。特に、本講義は「都市問題」と「環境問題」について経済学的手法も紹介しながら、それまでに学んだ知識を援用しつつ、よりよい政策について考えていきます。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業の事務部局において業務に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
私たちと公共経済 寺井公子、肥前洋一 有斐閣ストウディア 2015			
参考書等			
参考書は、適宜授業で紹介する。講義レジュメを毎回WebClassへ掲載するので、必ずダウンロードしておくこと。授業内課題、中間レポート等については、授業時に提示する。			
成績評価方法・基準			
授業内課題30%、中間レポート20%とまとめの試験50%を基本とし、その他小テストなどの合計得点で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業内課題など授業で提示したレポート等については、次回の授業で全体に対してレポートでの重点事項等の解説を行い、フィードバックする。			
備考			

36	公共経済学	LM-A-202	選択 2単位 2 年前期
Public Economics			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	公共経済学とは何か (講義に関する全体的な紹介なども含む)	公共経済学について事前に調べる。	2
第 2 回	市場経済における社会的な利害関係について	市場経済について事前に調べる。	2
第 3 回	市場の失敗とは	市場に失敗について調べる。	2
第 4 回	公共財の最適供給メカニズム	公共財について調べる。	2
第 5 回	外部性の考え方	様々な外部性について調べる。	2
第 6 回	外部不経済と公共政策	環境問題について調べる。	2
第 7 回	不完全競争と政府の役割	独占の弊害について調べる。	2
第 8 回	民主的政治とは	民主主義について調べる。	2
第 9 回	政府の失敗とはなにか	官僚制について調べる。	2
第 10 回	租税の効果	税金の種類について調べる。	2
第 11 回	課税と再分配政策	再分配について調べる。	2
第 12 回	望ましい税制とはなにか	セカンドベストという考え方について調べる。	2
第 13 回	年金制度と財政問題	日本の年金制度について調べる。	2
第 14 回	まとめと試験	これまでの授業の内容を配布したレジュメやノートで見直す。	2
		自信の不得意な項目を復習する。	2

37	経済学史	LM-A-203	選択 2単位 2年後期
	History of Economics		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 金井 辰郎			
授業の達成目標			
経済学の形成過程について、重商主義期より現代にいたるまでの代表的経済学（者）を題材として、各理論の特徴を理解する。			
ミニマムリクワイアメント			
1 重商主義の経済思想について説明できること。 2 古典派の経済思想について説明できること。 3 社会主義の経済思想について説明できること。 4 新古典派の経済思想について説明できること。 5 現代経済学について、経済学の発展史と対比しながら説明できること。			
授業の概要			
経済学の形成過程を、思想史および理論史として論ずる。できるだけ、原典に基づきながら、各理論の特徴を描き出す。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義プリントを配布する。			
参考書等			
『経済学の歴史：市場経済を読み解く』 中村達也・八木紀一郎・新村聡・井上義朗 有斐閣アルマ 2001			
成績評価方法・基準			
小テスト40%＋期末試験60%。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストおよび試験はwebclassにおいてフィードバックする。			
備考			

37	経済学史	LM-A-203	選択 2単位 2年後期	
	History of Economics			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	経済学史学習の意義・古典派以前の経済思想	経済学史学習の意義・古典派以前の経済思想について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
第2回	市場経済の発展と経済学の成立	授業で説明した、経済学史学習の意義・古典派以前の経済思想について、ノートに整理する。	2	
第3回	産業革命以後の古典派経済学の展開	市場経済の発展と経済学の成立について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
第4回	市場経済の道徳的批判から理論的批判へ・市場経済批判の原理的展開	授業で説明した、市場経済の発展と経済学の成立について、ノートに整理する。	2	
第5回	帝国主義と社会主義	産業革命以後の古典派経済学の展開について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
第6回	新古典派経済学とは何か	授業で説明した、産業革命以後の古典派経済学の展開について、ノートに整理する。	2	
第7回	大陸の新古典派経済学	市場経済の道徳的批判から理論的批判へ・市場経済批判の原理的展開について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
第8回	経験的市場経済論の展開	授業で説明した、市場経済の道徳的批判から理論的批判へ・市場経済批判の原理的展開について、ノートに整理する。	2	
第9回	新古典派市場経済像の総括	帝国主義と社会主義について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
第10回	貨幣的経済論	授業で説明した、帝国主義と社会主義について、ノートに整理する。	2	
第11回	市場理論の革新	新古典派経済学とは何かについて、参考文献の該当箇所を読む。	2	
第12回	市場の理論から市場経済の理論へ	授業で説明した、新古典派経済学とは何かについて、ノートに整理する。	2	
第13回	現代経済学における市場経済像	大陸の新古典派経済学について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
第14回	まとめと試験	授業で説明した、大陸の新古典派経済学について、ノートに整理する。	2	
		経験的市場経済論の展開について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
		授業で説明した、経験的市場経済論の展開について、ノートに整理する。	2	
		新古典派市場経済像の総括について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
		授業で説明した、新古典派市場経済像の総括について、ノートに整理する。	2	
		貨幣的経済論について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
		授業で説明した、貨幣的経済論について、ノートに整理する。	2	
		市場理論の革新について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
		授業で説明した、市場理論の革新について、ノートに整理する。	2	
		市場の理論から市場経済の理論へについて、参考文献の該当箇所を読む。	2	
		授業で説明した、市場の理論から市場経済の理論へについて、ノートに整理する。	2	
		現代経済学における市場経済像について、参考文献の該当箇所を読む。	2	
		授業で説明した、現代経済学における市場経済像について、ノートに整理する。	2	
		まとめと試験	2	
		試験の復習とこれまでの学習で得た知識の整理を行う。	2	

38	セミナーⅣ	LM-E-204	必修 1単位 2 年後期
	Management and Desing Seminar IV		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
○	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 川島 和浩 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 小祝 慶紀 黎 敏利			
授業の達成目標			
1. 本学科での学習に必要なアカデミックスキルを身につける 2. 就職活動に関する基礎力を身につける 3. 本学科が推奨する資格取得に向けた学習を通じてビジネススキルを身につける 4. 卒業研究分野の絞り込みのため、経営デザイン学科各教員の研究専門分野について情報収集を行い、研究分野を選定する。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 経営デザイン学科の各教員の研究を理解する。 (2) 卒業研究の前段階としてWord、Excel、PowerPointなどを活用できるようになる。 (3) 就職採用試験で実施される学力試験 (SPI, CAB, GAB等) に慣れておく。			
ミニマムリクワイアメントは上記 (1)～(3) である。			
授業の概要			
セミナーⅡⅢに引き続き、大学での学習、生活一般についての概説を行い、さまざまな課題を通して、経営デザイン学科で学ぶために必要な学習スキル・知識・能力・態度を身につける。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
別途掲示する。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
1. 小テスト 2. 試験 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
個人面談もしくはWebClassで情報開示する。			
備考			

38	セミナーⅣ	LM-E-204	必修 1単位 2 年後期
Management and Desing Seminar IV			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	外部講師講演：未定	WebClassで配布する資料を通読する。	0.5
第 2 回	セミナー毎個別面談 (履修登録確認)	課題に取り組み、期日までにWebClassから課題を提出する。	0.5
第 3 回	研究室紹介 1～6	前期の学習状況や成績について振り返る。	0.5
第 4 回	研究室紹介 7～12	面談の内容をノートにまとめる。	0.5
第 5 回	研究室配属選考説明会	WebClassから配信される資料を確認する。	0.5
第 6 回	資格取得支援講座 E-1	WebClassから配信される資料を確認する。	0.5
第 7 回	資格取得支援講座 E-2	講義内容のノートを取り、各研究室の特色について理解する。	0.5
第 8 回	資格取得支援講座 E-3	WebClassから配信される資料を確認する。	0.5
第 9 回	資格取得支援講座 E-4	講義内容のノートを取り、各研究室の特色について理解する。	0.5
第 10 回	SPI講座 7	WebClassから配信される資料を確認する。	0.5
第 11 回	SPI講座 8	研究室配属希望調書を期日までに提出する。	0.5
第 12 回	SPI講座 9	教科書の「該当ページ」を予習する。	0.5
第 13 回	SPI講座 10	講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第 14 回	セミナー毎学期末面談	教科書の「該当ページ」を予習する。	0.5
		講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
		SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶ。	0.5
		講義内容をノートに整理する。	0.5
		SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶ。	0.5
		講義内容をノートに整理する。	0.5
		SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶ。	0.5
		講義内容をノートに整理する。	0.5
		2年生後期の目標を達成できたかどうかを自己評価し、記入できるようにまとめておくこと	0.5
		面談で指摘された部分を修正すること	0.5

39	経営組織論	LM-B-206	選択 2単位 2年後期
	Business Organization		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年全組 阿部 敏哉			
授業の達成目標			
様々な組織の構造と機能を正しく理解し、それを自らが所属している組織に応用できるようになること。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 現代の組織が直面している問題を理解する。 (2) 組織の構造と機能を正しく理解する。 (3) 組織が存続するために行っている行動を理解する。 上記(1)から(3)を理解すること。			
授業の概要			
本講義では、企業、学校、病院、NPO等様々な組織を取り上げ、それについて考察していく。企業をはじめとする様々な組織は、営利の追求や理念の達成等の目標に向かって日々活動している。しかしそれらは社会と関わりながら活動している以上、人間性や社会性、公益性を無視して繁栄することはできない。こうした問題意識のもと、組織の構造と機能を正しく理解し、将来社会人として自らが組織で担べき役割を学ぶことを目指す。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員はメガバンクでの勤務経験を活用し、組織の仕組みやマネジメントについて、学生が自分たちの生活に応用できるような知識を教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。			
参考書等			
適宜指示する。			
成績評価方法・基準			
期末試験の結果により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は課さない。			
備考			

39	経営組織論	LM-B-206	選択 2単位 2年後期
	Business Organization		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	組織の基本的考え方	組織の概念を見直す。	2
		公式組織の概念についてノートを整理する。	2
第2回	組織構造	組織構造について見直す。	2
		組織の発展過程についてノートを整理する。	2
第3回	非営利組織	非営利組織について考える。	2
		非営利組織のマネジメントについてノートを整理する。	2
第4回	古典的な作業組織	作業組織の変遷について考える。	2
		作業組織の古典的理論についてノートを整理する。	2
第5回	近代的な作業組織	作業組織の変遷について考える。	2
		近・現代の作業組織についてノートを整理する。	2
第6回	誘因の方法	誘因について見直す。	2
		誘因の方法の種類と特徴についてノートを整理する。	2
第7回	説得の方法	説得の方法について考える。	2
		説得の方法の種類と特徴についてノートを整理する。	2
第8回	リーダーシップ理論	リーダーシップについて考える。	2
		代表的なリーダーシップ理論についてノートを整理する。	2
第9回	モチベーションとリーダーシップ	リーダーシップについて考える。	2
		モチベーションとリーダーシップの関係についてノートを整理する	2
第10回	組織文化	組織文化について考える。	2
		組織文化の種類とその特徴についてノートを整理する。	2
第11回	組織と戦略の古典的な捉え方	組織と戦略について考える。	2
		組織と戦略の古典的な捉え方についてノートを整理する。	2
第12回	組織と戦略の近代的な捉え方	組織と戦略について考える。	2
		組織と戦略の近代的な捉え方についてノートを整理する。	2
第13回	組織学習と組織変革	組織変革について考える。	2
		組織学習・組織変革の重要性とプロセスについてノートを整理する	2
第14回	まとめと試験	講義についてノートをまとめ直す。	2
		理解が不十分だった点を見直す。	2

40	原価計算論	LM-C-202	選択 2単位 2 年後期
	Cost Accounting		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2 年全組 － 未定			
授業の達成目標			
製造業を営む企業が用いる工業簿記・原価計算のしくみを理解し、商品・製品・サービスのコストの計算方法を習得することができます。本講義では、原価計算の手続きの背後にある理論的基礎を理解することを目指すと同時に、工業簿記・原価計算について、日本商工会議所簿記検定 2 級合格レベル相当の知識を習得することを目指します。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に自分の言葉で説明することができる。 (2) 原価計算の基本的な計算技法の基礎にある理論を理解し、原価計算に関する基本的な計算問題または理論問題を解くことができる。 (3) 原価計算の計算および理論を用いて、企業の経営課題や会計制度のしくみを説明することができる。 (4) 日本商工会議所簿記検定試験 2 級合格レベルの知識を習得する。 本講義におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) と (2) とする。			
授業の概要			
原価計算は、商品・製品・サービスにかかった単位当たりのコストを計算するための技法です。企業の内部活動を貨幣的にとらえようとする原価計算の企業実務は、範囲も広く、多様で、しばしば複雑にみえることがあります。しかし、原価計算の構成要素に関する基本的な計算技法をひとつひとつ理解すれば、柔軟な思考が可能になり、それを組み合わせる応用力を身につけることができます。本講義で取り上げる内容は、工業簿記・原価計算の初段階のものですが、日本商工会議所検定試験 2 級を目指すこともできるよう、原価計算の手続きの背後にある理論的な意味を理解できるようになることを目指します。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
『工業簿記・原価計算の基礎』 上笠進編著 税務経理協会 2017			
参考書等			
検定簿記ワークブック2級／工業簿記 岡本清・廣本敏郎編著 中央経済社 2024			
成績評価方法・基準			
中間試験 (30%)、期末試験 (30%)、小テスト・レポート (40%) で総合的に評価する。なお、授業の到達目標である原価計算のしくみ等を理解するという到達度を、講義中に実施する小テストで測り、評価基準に従って評価します。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に小テスト解説等のフィードバックを行う。 質問等のフィードバックは、内容に応じて、講義内もしくは直接に行う。			
備考			
原価計算論は会計学や簿記論の応用分野であるため、会計学および簿記論を履修済みであることが望ましい。電卓を用意すること。			

40 原価計算論		LM-C-202	選択 2単位 2 年後期
Cost Accounting			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	オリエンテーション、原価計算の意義と目的 本講義の概要、授業の進め方および成績評価の方法を説明する。原価計算の意義、目的、原価の一般概念等について解説する。	シラバスに目を通すとともに、教科書第 1 章の部分を読み、原価計算の意義について考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 2 回	材料費の計算 材料費の意義、その内訳および計算方法について、そのブ	教科書第 2 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 3 回	労務費の計算 直接労務費と間接労務費の区別を説明する。その後、直接	教科書第 3 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 4 回	経費の計算 経費の定義、分類、経費消費高の仕訳と勘定記入について	教科書第 4 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 5 回	製造間接費の計算 製造間接費の意義およびその配賦について解説する。また	教科書第 5 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 6 回	部門別原価計算 部門別原価計算の意義およびその計算プロセスについて解	教科書第 6 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 7 回	個別原価計算 個別原価計算の意義およびその計算プロセスについて解説する。また、個別原価計算における仕損の計算と処理につ	教科書第 7 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 8 回	総合原価計算①、中間試験 総合原価計算のうち、単純総合原価計算を中心に解説する	教科書第 8 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。中間試験の内容について再整理しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 9 回	総合原価計算② 総合原価計算のうち、工程別総合原価計算、組別総合原価	教科書第 9 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 10 回	工場経営における決算と財務諸表、本社・工場会計 工業簿記における決算と財務諸表等の計算書類について解説する。また、本社・工場間取引の仕訳について解説する	教科書第 10 章、第 11 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 11 回	標準原価計算① 標準原価計算の意義と手続きの基礎について解説する。	教科書第 12 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 12 回	標準原価計算② 標準原価計算における差異分析について解説する。	教科書第 13 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 13 回	直接原価計算 直接原価計算の意義およびその計算プロセスについて解説する。また、短期利益計画の具体的な方法としてCVP分析を解説する。	教科書第 14 章、第 15 章の部分を読み、新しいキーワードの概念について確認し、考察しておく。 教科書等を確認する。教科書や参考書の練習問題について解答を行う。	2
第 14 回	期末試験	第 1 回～13 回までの講義の論点をまとめ、練習問題を反復練習し、期末試験に備える。 期末試験の内容を再検討して整理する。 簿記検定試験にチャレンジする。	2

41	財政学	LM-A-204	選択 2単位 2年後期
	Public Finance		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 - 未定			
授業の達成目標			
1. 歳入と歳出の構造を理解する 2. 財政の機能について理解する 3. 財政赤字と累積の要因について理解する 4. 租税原則について理解する 5. 租税理論について理解する 6. 公債負担論について理解する			
ミニマムリクワイアメント			
1. 歳入と歳出の構造を理解する 2. 財政の機能について理解する 3. 財政赤字と累積の要因について理解する 4. 租税原則について理解する 5. 租税理論について理解する 6. 公債負担論について理解する			
上記のうち「1・2・3・4・5・6」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
財政とは、政府の経済活動に伴う資金の出入である。政府は、国民から徴収した税金や、公債という「借金」からも資金を調達する。当該資金を用いて、社会保障、公共投資、等の政策が行われている。財政学は、政府の経済活動を対象とした経済学の分野である。本講義では、日本の財政の状況や財政の役割について説明した上で、租税・公債（歳入）に関する経済理論について解説する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
別途掲示する。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
1. 小テスト 2. 試験 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題・試験に関するフィードバックはWebClassで情報開示する。			
備考			

41	財政学	LM-A-204	選択 2単位 2年後期
	Public Finance		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・財政と何らか	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第2回	歳入と歳出の構造	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第3回	財政赤字の累積とその要因	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第4回	財政健全化とその経済的影響	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第5回	市場の失敗	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第6回	財政の機能	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第7回	財政収支・基礎的財政収支	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第8回	財政の持続可能性	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第9回	公債負担論・公債の中立命題	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第10回	租税理論：租税原則	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第11回	租税理論：消費税・所得税	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第12回	租税理論：死荷重損失・課税の中立性	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第13回	まとめと試験	教科書の該当箇所を精読し、試験範囲項目を確認する。	2
第14回	重要項目のフィードバック	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2

42	事業計画論	LM-B-207	選択 2単位 2年後期
	Business Planning		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 佐々木 大 佐々木 大			
授業の達成目標			
本授業は必ずしも起業希望者を対象にしたものではない。起業家が創業時に必要とされる「事業計画書」作成に実際に取り組んでみることで、就職希望者にも実社会で役立つ「事業計画」のノウハウの習得を目標とする。			
ミナミクワイアメント			
(1) 事業計画書がなぜ必要なのかを理解する 成功する起業家と失敗する起業家は何が違うのか? 事例を交えながら事業計画書の重要性の理解を深める。			
(2) 事業計画書策定に必要な各要素を理解する グループごとに、実際に事業計画書を作成するプロセスを通じ、事業計画書策定に必要な各要素を体感しながら理解を深める。			
(3) 事業計画書のクオリティアップ・成長につなげるための客観評価を理解する 実際に構築した事業計画書に対し、お互いにフィードバック (ビジネス評価) を行なうことで第三者からの客観評価の重要性を理解する。			
授業の概要			
ビジネス構築にはなぜ「事業計画」が必要なのか? 学生諸君が起業を志望するか否かは問わず、グループワークで実際に模擬ビジネスを構築し「事業計画書」を作成するプロセスを通じて、就職希望者にも役立つプランニングスキルを習得する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は自らの起業経験、長年に渡る起業家育成・支援への取り組み、小・中・高・大学生ら若年層に対しての起業家教育指導の経験も豊富。「独立行政法人中小企業基盤整備機構 中小企業アドバイザー」「JBIA認定シニアインキュベーションマネージャー」の役割も担っている。その実績を活かし、本授業では大学生に対して、就職希望者にとっても実社会で役立つ「事業計画」の立て方を指導する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
本授業はテキストは使用しない。授業内で使用するワークシートを適宜配布する。			
参考書等			
本授業では参考書は特に必要とはしない。			
成績評価方法・基準			
授業内で指示する課題 (20%)、プレゼンテーション発表 (40%)、期末試験 (40%) で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
基本として授業内でフィードバックを行う。			
備考			

42	事業計画論	LM-B-207	選択 2単位 2年後期
	Business Planning		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	事業計画書 (ビジネスプラン) とは何か? なぜ事業計画が必要なのか?	成功するビジネス、失敗するビジネスは何が違うのかを書き出してみる。 授業で学んだことを復習	1
第2回	事業計画書に必要なエッセンス (Why・Who・What)	前回の授業にて、予習内容を指示する。 授業で学んだことを復習	1
第3回	事業計画書に必要なエッセンス (事業の背景と課題定義)	自身の周りで社会課題としてあげられそうな項目、なぜそれが起きているのかを書き出してみる。 授業で学んだことを復習 (課題が定義できていないグループは第4回目の授業までに済ませること)	1
第4回	事業計画書に必要なエッセンス (解決策策定①)	グループで定義した課題の解決策を可能な限り考えてみる。 授業で学んだことを復習	1
第5回	事業計画書に必要なエッセンス (解決策策定②)	もっとよい解決策がないか再考してみる。 授業で学んだことを復習	1
第6回	事業計画書に必要なエッセンス (ビジネスモデルの策定)	ビジネスプランとビジネスモデルは何が違うのかを調べてみる。 授業で学んだことを復習	1
第7回	事業計画書に必要なエッセンス (顧客および顧客ニーズと市場規模)	その事業は誰を対象とするのか? なぜその層なのかを考えてみる。 授業で学んだことを復習	1
第8回	事業計画書に必要なエッセンス (事業収支計画①)	その事業で売上になりそうなもの、経費としてかかりそうなものを書き出してみる。 授業で学んだことを復習	1
第9回	事業計画書に必要なエッセンス (事業収支計画②)	前回の授業で策定した収支計画をじっくりと見直してみる。 授業で学んだことを復習	1
第10回	事業計画書に必要なエッセンス (マーケティングプラン)	その事業を世間に知ってもらえるためのPR手段を書き出してみる。 授業で学んだことを復習	1
第11回	事業計画書に必要なエッセンス (競争優位性)	その事業を行なうにあたり自身の何が差別化になるのかを考えてみる。 発表資料作成	2
第12回	グループ発表会①	グループ発表に向けた準備 自身のグループが発表対象だった場合は良かった部分、改善点を振り返る。自身のグループ発表がなかった場合は、他のグループの良かった部分、改善点を整理する。	2
第13回	グループ発表会②	自身のグループが発表対象だった場合は良かった部分、改善点を振り返る。自身のグループ発表がなかった場合は、他のグループの良かった部分、改善点を整理する。 グループ発表に向けた準備	2
第14回	グループ発表会③	自身のグループが発表対象だった場合は良かった部分、改善点を振り返る。自身のグループ発表がなかった場合は、他のグループの良かった部分、改善点を整理する。	1

43	国際経済論	LM-A-205	選択 2単位 2年後期
International Economy			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 － 未定			
授業の達成目標			
授業概要に記した重要項目の基本を理解し、現実の国際経済に関する問題を自ら考える力を養うことにある。			
1. 世界諸国の歴史や政治、経済、文化・価値観、信条、等について概説できる。 2. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を根拠として、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。 3. 経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身にける。			
ミニマムリクワイアメント			
1. 世界諸国の歴史や政治、経済、文化・価値観、信条、等について概説できる。 2. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を根拠として、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。 3. 経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身にける。			
上記「1・2・3」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
国際経済の発展過程、戦後の世界経済発展の歴史、国際分業の基礎理論としての絶対優位論と比較優位論、近代貿易理論、新貿易理論についての講義を行う。また、グローバル経済の進展および国際経済問題を理解するための体系的知識を涵養する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
別掲掲示する。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
1. 小テスト 2. 試験 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
WebClassに情報開示する。			
備考			

43	国際経済論	LM-A-205	選択 2単位 2年後期
International Economy			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・教材の扱い方	経済学における国際経済論の位置づけについて確認する。	2
第2回	グローバル経済の成り立ち	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第3回	国際貿易の基本理論	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第4回	古典派の貿易理論：絶対優位論・比較優位論	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第5回	新古典派の貿易理論：H-O理論	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第6回	近代的貿易理論：レオンチェフの逆説・リンダー理論	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第7回	海外直接投資と多国籍企業：国際的な生産要素の移動	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第8回	新貿易理論：国際貿易の成長・産業内貿易	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第9回	産業内貿易と規模の経済性：独占的競争の国際貿易モデル	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第10回	産業内貿易と製品差別化：水平的産業内貿易・垂直的産業内貿易	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第11回	国際貿易と企業	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第12回	東アジアの生産ネットワーク：GVCs(Global Value Chains)の特徴	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第13回	まとめと試験	教科書の該当箇所を精読し、試験範囲を確認する。	2
第14回	重要項目に関するフィードバック	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2

44	環境経済学	LM-A-206	選択 2単位 2年後期
Environmental Economics			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けて担当する)		地域志向科目	
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2 年全組 小祝 慶紀			
授業の達成目標			
本講義の達成目標は次通りである。 ① 環境経済学の基礎的用語「市場の失敗」「外部性」「汚染者負担原則」といった内容を理解する。 ② 基礎的用語を理解したうえで、環境問題と経済成長との関係を明治期から現代までの歴史から理解する。 ③ 消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰という余剰の仕組みと市場メカニズムを理解する。 ④ 市場メカニズムと外部不経済との関係を理解する。 ⑤ 外部不経済を市場メカニズムによって解決するための政策的理論を理解する。 さらに本講義は教職科目でもあり、経済・環境問題のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解することも重要であり、そのためグローバル化に伴う企業の社会的責任を理解する。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標のうち次の通りである。 ① 環境経済学の基礎的用語「市場の失敗」「外部性」「汚染者負担原則」といった内容を理解する。 ② 基礎的用語を理解したうえで、環境問題と経済成長との関係を明治期から現代までの歴史から理解する。 ③ 消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰という余剰の仕組みと市場メカニズムを理解する。			
授業の概要			
現代の環境問題は複雑で、我々が環境汚染の被害者にも加害者にもなりうる可能性がある。このような環境問題への対処として、これまでは法規制によってその対策が行われてきた。しかし、それだけでは我々の社会経済を持続可能な社会へと変化させていくことは難しい。そこで、本講義は、まず、環境問題とは何かについて、歴史的背景を知る。次に、これまで環境問題へ対応してきた政策について、経済学からの視点に立脚した政策の理論と具体的な政策について講義する。これらを踏まえ、持続可能な社会の構築のため、環境経済学の果たす役割について考えていく。なお、環境経済学の知見を広げるため、ゲストスピーカーによる講義を1回計画しています。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業の事務部局において業務に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
グラフィック 環境経済学 浅子和美、落合勝昭、落合由紀子 新世紀社 2018			
参考書等			
参考書は、適宜授業で紹介する。 講義レジュメを毎回WebClassへ掲載するので、必ずダウンロードしておくこと。			
成績評価方法・基準			
授業内課題30%、中間レポート20%とまとめの試験50%を基本とし、その他小テストなどの合計得点で総合的に評価する。 中間レポート等については、授業時に提示する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業内課題など授業で提示したレポート等については、次の授業で全体に対してレポートでの重点事項等の解説を行い、フィードバックする。			
備考			

44	環境経済学	LM-A-206	選択 2単位 2年後期
Environmental Economics			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	環境経済学への招待 (イントロダクション)	教科書の次の単元を事前に読んでおく。	2
第2回	環境問題とは何か (歴史的背景から)	教科書全般を概観する。	2
第3回	経済学と環境経済学 (1) 市場の役割	環境問題の種類や歴史を事前に調べる。	2
第4回	経済学と環境経済学 (2) 環境経済学の目的と課題	授業の最後に指定した箇所を復習する。環境問題の歴史をまとめる。	2
第5回	経済学と環境経済学 (3) 外部効果	市場メカニズムについて事前に調べる。	2
第6回	環境問題への対処 (1) 直接規制	市場の役割についてまとめる。特に「市場の失敗」とその要因の一つである外部不経済についてまとめる。	2
第7回	環境問題への対処 (2) 経済的手法	環境問題への対処 (1) 環境経済学の目的と課題	2
第8回	ゲストスピーカーによる環境政策の事例紹介	授業の最後に指定した箇所を復習する。環境経済学の今日的課題をまとめる。	2
第9回	環境問題への対処 (3) 社会的共通資本とは何か	市場の失敗について事前に調べる。	2
第10回	環境を評価する	環境問題への対処 (2) 経済的手法	2
第11回	ごみ問題を考える	環境を評価することとは何かについて事前に調べる。	2
第12回	エネルギーと環境・資源	授業の最後に指定した箇所を復習する。これまでの環境規制の効果をまとめる。	2
第13回	地球環境問題と持続可能性	経済的インセンティブについて事前に調べる。	2
第14回	まとめと試験	環境対策お手法を開発している企業の方を招いて講義を行う。当該企業について事前に調べる。企業の環境政策についてまとめる。	2

45	ビジネス英語	LM-X-201	選択 2単位 2 年後期
Business English			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 佐藤 夏子			
授業の達成目標			
英語ビジネス文書 (手紙、電子メール) の基本、社交関係のビジネス英語文書 (面会の申し入れ、ホテルの予約、慶弔など)、雇用関係のビジネス英語文書 (履歴書、応募の手紙など) 商慣習に関するビジネス英語文書 (引き合い、オファー、クレームの調整) が作成できるようになる。また、その内容に関する対面によるビジネスの会話ができるようになる。また電話での会話に習熟する。			
ミニマムリクワイアメント			
1) 英語のビジネス文書 (手紙、電子メール) の基本を身につける。 2) 社交関係のビジネス英語文書 (面会の申し入れ、ホテルの予約、慶弔など) が作成できるようになる。 3) 雇用関係のビジネス英語文書 (履歴書、応募の手紙など) が作成できるようになる。 4) 商慣習に関するビジネス英語文書 (引き合い、オファー、クレームの調整) が作成できるようになる。 5) 社交関係、雇用関係、商慣習に関するビジネスの英語会話 (電話を含む) ができるようになる。 以上の達成目標に従い、1) 2) 3) をミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
ビジネス通信 (手紙、FAX、電子メール) の基本を学び、社交関係、雇用関係、取引関係のビジネス文書を実際に作成する。また同様の内容に関する会話の練習をする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は初回授業までに指示する。			
参考書等			
売上1000億円超! 海外営業のプロが教える 世界基準のビジネス英語表現 関一宏 アルク 2020 改訂版 日商ビジネス英語検定 2・3 級公式模擬問題集 日本商工会議所 日本能率協会マネジメントセンタ? 2014 改訂版 日商ビジネス英語検定 2 級公式テキスト 日本商工会議所 日本能率協会マネジメントセンタ? 2014 ネス英語検定 3 級公式テキスト 日本商工会議所 日本能率協会マネジメントセンタ? 2014 英文ビジネス eメールの教科書ー書き方の基本から応用表現まで 柴田真一 NHK出版 2019 ビジネス英語表現大辞典6000 + イジュン アルク 2018			
成績評価方法・基準			
定期試験 (70%)、課題への取り組み (30%) で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題へのフィードバックはML および授業内に行う。			
備考			

45	ビジネス英語	LM-X-201	選択 2単位 2 年後期
Business English			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	オリエンテーション ビジネス英語検定について	ビジネス英語検定のウェブサイトアクセスし、ビジネス英語検定の概要について理解する。 ビジネス英語検定の例題を解いてみる。	2
第 2 回	ビジネス通信の基本: 英文ビジネスレターの構成要素とフォーム	英文ビジネスレターの構成要素とフォームの特徴について考える。 英文ビジネスレターの構成要素とフォームに関する練習問題に取り組む。	2
第 3 回	ビジネス通信の基本: 電子メール	英語の電子メールと日本語の電子メールの違いについて考える。 復習: 課題の文章を電子メールで送ってみる。	2
第 4 回	電話による応対	電話で用いる英語と通常の英会話の違いについて考える。 電話で用いる英語表現を何度も音読して覚える。	2
第 5 回	面会の申し入れとその対応	面会のアポイントを取るために留意すべき点について考える。 面会を申し入れるレターを作成する。	2
第 6 回	履歴書の構成と書き方	日本語で履歴書を作成し、英文履歴書の例を見て、日本語の履歴書との違いについて考える。 復習: 英文履歴書を作成する。	2
第 7 回	就職応募の手紙と面接	就職の面接の際に留意すべき点について考える。 復習: 履歴書と共に送付する就職応募の手紙を作成する。	2
第 8 回	ホテルの予約	ホテルの予約について留意すべき点について考える。 ホテルを予約するメールを作成する。	2
第 9 回	社交関係の英語: 慶弔	日本語による慶弔の通信文の例について考える。 英語で慶弔の通信文を作成する。	2
第 10 回	引き合い	ビジネスにおいて問い合わせが必要な場合はどのような場合が考える 復習: 引き合いのビジネスレターを作成する。	2
第 11 回	クレームとその対応	クレームをする際に留意すべきことについて考える。 クレームに対応するビジネスレターを作成する。	2
第 12 回	ビジネス英語検定 3 級 模擬問題第 1 回	ビジネス英語検定 3 級 模擬試験問題 を自分の力で解いてみる 模擬試験問題 (1) の間違った箇所に再度取り組む。	2
第 13 回	TOEICに見られるビジネスイングリッシュ	TOEICの練習問題を自分の方で解いてみる。 TOEIC練習問題の間違った箇所にも再度取り組む。	2
第 14 回	課題の総括とまとめテスト	これまでの学習内容をふりかえり、まとめテストの準備をする。 まとめテストのためにこれまでの学習内容を総復習する。	2

46	映像・イメージ学	LM-X-202	選択 2単位 2年後期
	Film Study and Theory of image		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 猿渡 学			
授業の達成目標			
映像表現に関わる、映像・音響・照明などについて学習し、それを実践することを主とする。表現するための技術の重要性を学び、製作のワークフローを踏まえることの重要性を理解することを目的とし、クオリティを追求した作品の制作を達成目標とする。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 所与の課題を解決するための方法(調査やアンケートなど)を理解する。 (2) 所与の課題の本質を理解するためのさまざまなアプローチ(分析)を理解する。 (3) 所与の課題に対しての最適解を導くことができる。 (4) 映像や音響に関する知識を実践に活用することができる。 (5) アイデアなどをグループワークを通して表象することができる。 上記の中で(1)(2)(3)を基礎として、(4)あるいは(5)を達成することをミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
まず過去の映画作品や、学生による自主制作映画を素材に、撮影や編集のポイントについて解説する。次に、解説の中から得た知見を、実践の中でどのように活かして作品を制作するか、そのプロセスを体験する。座学と実践のハイブリッド形式の講義である。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
成績評価方法・基準			
講義の過程において、3回のレポートを課す。それぞれ10点満点で評価を行う。(A) 最終作品の評価は講義開始時に示すルーブリックによって評価し、70点満点で評価を行う。(B) AとBを総合して最終評価とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについてはLMSなどを用いてフィードバックを行う。 最終過大評価については、評価のポイントなどを最終回のプレゼンテーションにおいてフォードバックする。			
備考			

46	映像・イメージ学	LM-X-202	選択 2単位 2年後期	
	Film Study and Theory of image			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	映像と音響の特質について技術的視点から解説する。	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 講義内容をまとめながら、スマートフォンなどを使って撮影並びに収録を実践する。	2	
第2回	映像編集（1）：映像編集者についてのドキュメンタリー映画を視聴しながら、「編集」の意義について考える	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 講義中に示されたドキュメンタリー映画の中から関心のある分野について追跡調査を行う。	2	
第3回	映像編集（2）：学生作品の視聴をもとに、編集のポイントについて解説する。	指定の映像を視聴しポイントをまとめておく	2	
第4回	ワークショップ（1）：ドラマを作るための技法を学習する	指定された映像作品の編集上の問題点とその解決方法をまとめてレポートする。 WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 ワークショップのレスポンスをレポートとしてまとめる	2	
第5回	ワークショップ（2）：ドラマを作るための役割やワークフローを学習する	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 ワークショップ（1）の成果をレポートとしてまとめる	2	
第6回	ワークショップ（3）：ドラマを作るための企画書などを作成する。	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 ワークショップ（2）で指定された課題をグループワークによって行い、レポートとしてまとめる。	2	
第7回	撮影技法ワークショップ（1）レベル・アングル	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 指定された映像を撮影し、次回の編集作業に向けてデータ化しておく。	2	
第8回	撮影技法ワークショップ（2）フレーミング	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 指定された映像を撮影し、次回の編集作業に向けてデータ化しておく。	2	
第9回	撮影技法ワークショップ（3）カメラワーク	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 指定された映像を撮影し、次回の編集作業に向けてデータ化しておく。	2	
第10回	テーマに沿った編集（1）：ポストプロダクション（映像編集）	撮影技法ワークショップで撮影・収録した映像をどのように編集するか、構成案を作成しておく。 撮影や収録における問題点を解決する。	2	
第11回	テーマに沿った編集（2）：ポストプロダクション（色彩調整についての実践）	映像の部分の編集を終わらせておくことを課題とし、色彩調整によりどのような作品にするかを検討する。 アプリケーションをもちいて編集作業をおこない、素材などの過不足を確認し、対応する。	2	
第12回	テーマに沿った編集（3）：ポストプロダクション（音響関連の編集作業）	音響編集についてアプリケーションについて、その使用方法を調べておく。 編集中の映像やサウンドについて、修正や演出などを加える。	2	
第13回	作品としてまとめる	所与の課題に対して、最適解となっているかどうかを確認する。	2	
第14回	作品発表：プレゼンテーション	作品としてまとまっているかどうか、表象としての映像あるいはサウンドとなっているかを確認する。 事前に作品を視聴し、見解をまとめる。 プレゼンテーションに対して、主体的・積極的な意見をレポートとしてまとめる。	2	

47	セミナーⅤ	LM-E-302	必修 1単位 3 年前期
	Seminar V		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
○	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 川島 和浩 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 小祝 慶紀 黎 敏利			
授業の達成目標			
1. 卒業研究領域に関わる専門知識を深める。 2. 問いを立てる力、分析する力、考える力、判断する力、創造する力、発表する力を養う。 3. 自己の行動に対するマネジメントならびに文献・データ等の整理、等に取り組み、社会人として必要な基本スキルを身につける。			
ミニマムリクワイアメント			
1. 卒業研究領域に関わる専門知識について情報(既存研究・統計資料)を収集・整理する。 2. 研究テーマについて考えをまとめる。 3. 各研究室指定フォーマットに則り「研究構想書」の執筆を開始する。			
上記のうち「1・2」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
所属する研究室の目標、研究領域に親しむ。 専門書の文献精読、関連統計データを収集・検討し、研究テーマ発表や議論を行い、卒業研究取り組む為に必要な知力を高める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
研究室ごとに指示がある。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
1. 研究室毎の課題 2. 卒業研究構想書(初稿・修正版) 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各研究室の定める方法により必要なフィードバックを行う。			
備考			

47	セミナーⅤ	LM-E-302	必修 1単位 3 年前期
Seminar V			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス	関心のある研究領域に関する資料を検索し、リストを作成する。	0.5
第 2 回	研究室毎 個別面談(履修登録確認、等)	研究テーマ(仮)に関する資料を入手し、通読する。	0.5
第 3 回	卒業研究構想 1: 資料検索・収集・レジュメ(概要)作成	進級要件に留意し、当該セメスターの履修登録を行う。 各研究指導教員が定める課題に取り組む。 指導を受けた事項について、ノートに整理し、記録を管理する。	0.5
第 4 回	卒業研究構想 2: 資料検索・収集・レジュメ(概要)作成	関心のある研究領域に関する資料を検索し、リストを作成する。	0.5
第 5 回	卒業研究構想 3: 資料検索・収集・レジュメ(概要)作成	研究テーマ(仮)に関する資料を入手し、通読する。	0.5
第 6 回	卒業研究構想 4: 資料検索・収集・レジュメ(概要)作成	関心のある研究領域に関する資料を検索し、リストを作成する。	0.5
第 7 回	卒業研究構想 5: 研究テーマの選定	研究テーマ(仮)に関する資料を入手し、通読する。	0.5
第 8 回	卒業研究構想 6: 文献精読(概要・レビュー) 1	資料(文献)を精読し、レジュメを作成する。	0.5
第 9 回	卒業研究構想 7: 文献精読(概要・レビュー) 2	指導を受けた箇所についてレジュメを修正する。	0.5
第 10 回	卒業研究構想 8: 文献精読(概要・レビュー) 3	資料(文献)を精読し、レジュメを作成する。	0.5
第 11 回	卒業研究構想 9: 卒業研究構想書作成 1	指導を受けた箇所についてレジュメを修正する。	0.5
第 12 回	卒業研究構想 10: 卒業研究構想書作成 2	各研究室指定フォーマットに則り「卒業研究構想書」を作成する。	0.5
第 13 回	MR(ミニマムリクワイアメント)定着度確認試験	指導を受けた箇所について卒業研究構想書を修正する。	0.5
第 14 回	期末面談	各研究室指定フォーマットに則り「卒業研究構想書」を加筆・修正する。 指導を受けた箇所について卒業研究構想書を修正する。	0.5
		2年次までに受講したMR対象科目について復習する。	0.5
		試験結果を確認し、自身のMR定着度に応じて対象項目の復習に取り組む。 当該試験「不合格」の場合は、再試験を受験する。	0.5
		卒業要件に関する他院医習得状況の再確認を行う。 卒業研究構想書について、指導された箇所の加筆・修正に取り組む。	0.5
		卒業研究構想書を振り返り、「卒業研修I」で取り組む研究に関する準備をする。	0.5

48	経営戦略論	LM-B-301	選択 2単位 3 年前期
Business Strategy			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 黎 敏利			
授業の達成目標			
経営戦略の理論を理解し、実際のビジネス・マネジメントに活用することができる。 ① 経営戦略の理論について、自ら説明することができるようになる。 ② 経営戦略論を理解し、実際の経営実務に活用することができるようになる。			
ミニマムリクワイアメント			
経営戦略に関連する主要な概念 (例: 競争優位、成長戦略、事業ポートフォリオ、SWOT 分析など) を理解している。 講義で学んだ理論やフレームワーク (例: ポーターの 5 フォース分析、VRIO フレームワーク、ブルーオーシャン戦略など) を正しく説明できる。 実際の企業や業界のケーススタディを通じて、戦略的課題を特定し、適切な解決策を提案できる。 分析結果や戦略提案を簡潔にまとめ、論理的な構成のレポートを作成でき、戦略提案を口頭で効果的にプレゼンテーションできる。			
授業の概要			
今後、企業間の競争の激化が予想されるなかで、企業にとってはこれまで以上に経営戦略を意識し、事業計画を策定する必要が高まるであろう。そこで、この授業では、① 経営戦略の基本的なフレームワーク、戦略の役割など経営戦略論の基礎的知識の習得と、② 理論と実践を結合し、特定の戦略要素に焦点を絞って細分化されている戦略の理論を、戦略の策定プロセスに沿って体系的に学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
井上善海・大杉奉代・森宗一 (2022) 『経営戦略入門』中央経済社。 他の文献についても授業の中で適宜情報提供を行う。			
成績評価方法・基準			
授業参加態度 (30%)、課題レポート (30%)、期末試験 (40%) で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示した課題レポートについては、WebClass および次の授業のなかでフィードバックする。			
備考			

48	経営戦略論	LM-B-301	選択 2単位 3 年前期
Business Strategy			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	経営戦略論とは何か	経営戦略の定義や役割について考える。 授業ノートを基に経営戦略の定義や変遷、階層についてまとめる。	2
第 2 回	経営戦略の基本: ミッションとドメイン	企業の経営目的について考える。 授業ノートを基にミッションの役割等についてまとめる。	2
第 3 回	経営戦略の基本: 環境・資源分析	市場環境の分析手法について学ぶ。 身近な企業について、それを取り巻く市場環境を SWOT 手法で分析してみる。	2
第 4 回	成長戦略: 成長ベクトルと多角化	企業の成長戦略について学ぶ。 身近な企業を観察し、その企業がどのような製品・市場マトリックスで成長してきたか分析する。	2
第 5 回	成長戦略: 製品ポートフォリオ・マネジメント	身近な企業を 1 社取り上げ、その経営資源の特性について調べる。 企業の経営活動と経営資源の配分の関係についてノートを整理する。	2
第 6 回	成長戦略: 成長戦略の展開	海外展開を行なっている身近な企業を 1 社取り上げ、その理由について考える。 グローバル戦略とオープン・イノベーション戦略の目的と背景についてノートを整理する。	2
第 7 回	ワークショップ - 組織が先か、戦略が先か	組織と戦略の関係について考える。 「組織と戦略はどちらが先か」について身近な企業例を取り上げ、その理由をまとめる。	2
第 8 回	競争戦略: 業界の構造分析	業界構造分析のフレームワークについて学ぶ。 具体的な企業を例に、その企業の五つの競争要因を調べてみよう。	2
第 9 回	競争戦略: 競争の基本戦略とバリューチェーン	具体的な業界を取り上げ、その企業のバリューチェーンについて考えてみよう。 具体的な業界を取り上げ、その業界の各企業の競争優位がどのようなになっているかを考えてみよう。	2
第 10 回	ワークショップ - 戦略の選択と集中	戦略の選択と集中のメリット・デメリットについて考える。 日本企業が行った戦略と集中の戦略事例を調べてみよう。	2
第 11 回	競争地位と戦略定石	競争地位の考え方と展開について学ぶ。 具体的な業界を 1 社取り上げ、その業界の各企業の競争地位がどのようなになっているかを考えてみよう。	2
第 12 回	競争戦略: 競争戦略の展開	タイムベース戦略について学ぶ。 ブルーオーシャン戦略をとる企業事例を調べてみよう。	2
第 13 回	経営戦略の実行と評価	創発的戦略に関するメリットについて考える。 BSC を活用している企業を調べてみよう。	2
第 14 回	まとめと試験	これまでの授業ノートを基に復習して試験に備える。 試験問題について解けなかった問題はしっかり確認しておくこと。	2

49	商品開発論	LM-B-302	選択 2単位 3 年前期
	Theory of Product planning and development		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	  
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 佐藤 飛鳥			
授業の達成目標			
顧客にとって価値ある商品やサービスを創造し、それを核にビジネスにつなげる「実践的な商品企画・商品開発の方法論」を学ぶ。商品企画の本質とその方法論について理解し、企業が技術力や担当者のセンス、思いつきやひらめきに依存せず、顧客のニーズを満たせる商品企画法と商品開発法を習得する。環境分析・市場調査による市場環境の変化を取り込み、課題発見・解決能力を養いながら商品開発の流れを体得する。最終的には商品企画書を作成し、その発表を通して顧客のニーズを満たしつつ、機能、デザイン、コスト等の面を考慮して実現可能な商品企画を立案できるようにする。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) ニーズオリエンテッドな商品企画・開発の重要性を理解する (2) 顧客セグメント・ペルソナ・カスタマージャーニーによりニーズを把握できる (3) ニーズオリエンテッドな商品コンセプトをまとめることができる (4) 分析方法を用いてコンセプトの実現可能性を高めることができる (5) 顧客の顕在・潜在ニーズを満たし、魅力的な商品を提案することができる 本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1)～(3) とする。			
授業の概要			
(1) ペルソナのカスタマージャーニーからニーズオリエンテッドな商品を想定する、(2) インタビュー、アンケート、マーケットリサーチやデータ解析により顧客の顕在・潜在ニーズを発掘してコンセプトを決定する (3) アイデア発想法でユニークで魅力的なコンセプトにめる (4) 各種分析法を用いて最も顧客が購入したい商品コンセプトに仕上げる。この 4 つのプロセスをシステムティックに実行する方法論を学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
成績評価方法・基準			
講義中の発言、ワークの内容 (20 点) 講義中に指示するホームワークの内容 (20 点) 期末提出物 (新商品企画案) 60 点			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
ワークやホームワークを実施した回りの冒頭に実際の内容を紹介しながらコメントする			
備考			

49	商品開発論		LM-B-302	選択 2単位 3 年前期
	Theory of Product planning and development			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第 1 回	マーケティングと商品企画・商品開発	マーケティング論のノートを見返して復習しておく。特にマーケティングとはなにか、STP分析、SWOT分析を確実に理解しておく モノやサービスが溢れている今日のマーケットで新商品を企画・開発することの難しさについて考える	2	2
第 2 回	「ニーズオリエンテッド」の重要性	消費者のニーズをもとにした商品企画・開発の重要性を理解する	2	2
第 3 回	不便や不満、こうだったらいいのにな、を生活の中から探す	インサイトをキーワードに、消費者自身も気付いていない深層ニーズを、機能、デザイン、新規性、使用感、広告、衝動など多様な側面から考えてみる 生活中に不便や不満を感じたこと、これがこうだったらいいのになとおもったことを合計で10個書き留めておく どのような工夫をすれば不便や不満などが解消できるか、予習で考えた10個の既存製品の改良ポイントを考えてみる(該当する既存商品がない場合には新商品案を考えてみる)	2	2
第 4 回	顧客分析によるニーズ把握：顧客セグメント・ペルソナ・カスタマージャーニー	ヒット商品を1つ自由に選び、顧客セグメント・ペルソナ・カスタマージャーニーを書き出してみる 講義中に指示する商品をケースワークとして顧客セグメント・ペルソナ・カスタマージャーニーを書き出してみる	2	2
第 5 回	顧客の顕在・潜在ニーズ発掘：インタビュー、アンケート、マーケットリサーチやデータ解析	身近な5名に話しかけ、既存商品で物足りない、不満、使いにくい、今欲しいものなど、商品改良や新商品開発に活かせる意見を集めてみる(講義でインタビュー方法をレクチャーするので、まず方法を知らずに話を聞いてみたときと知ったあとの回答の違いを比較するため、思ったとおりに話を聞いてみるだけでよい) インタビューの手法を用いて身近な5名に既存商品で物足りない、不満、使いにくい、今欲しいものなど、商品改良や新商品開発に活かせる意見を集めてみる	2	2
第 6 回	商品コンセプトの決定：ニーズオリエンテッドな商品コンセプトをまとめる	インタビュー等の手法を用いて集めたニーズを満たす商品コンセプトをラフスケッチし、機能、特徴、差別化を図った点、価格などを書き込む 講義中のフィードバックを元にブラッシュアップする	2	2
第 7 回	アイデア発想法でユニークで魅力的なコンセプトに高める①革新型の商品アイデアを発想する：アナロジー発想	アイデア発想法を調べ、まとめる 講義で学んだアイデア発想法を用いてコンセプトを魅力的にする	2	2
第 8 回	アイデア発想法でユニークで魅力的なコンセプトに高める②改良型の商品アイデアを発想する：チェックリスト	第7回で予告したアイデア発想法を調べ、まとめる 講義で学んだアイデア発想法を用いてコンセプトを魅力的にする	2	2
第 9 回	アイデア発想法でユニークで魅力的なコンセプトに高める③応用型の商品アイデアを発想する：シーズ発想法	第8回で予告したアイデア発想法を調べ、まとめる 講義で学んだアイデア発想法を用いてコンセプトを魅力的にする	2	2
第 10 回	コンセプトの実現方法を高める	必要な4大経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報)を洗い出す 4大経営資源の効果的な活かし方とステークホルダー、協力者、資金調達についてまとめる	2	2
第 11 回	商品企画・開発案のプレゼンテーション準備①商品企画・開発案のポイントを魅力的に伝える	差別化を図った点、消費者にとってのメリットを中心に洗い出す 魅力が伝わるスライドが作成できているか、トーク内容が訴求できる内容になっているかを検討する	2	2
第 12 回	商品企画・開発案のプレゼンテーション準備②商品企画・開発案の実現可能性、収益性を確実に伝える	製造から消費者の手元に渡るまでのすべてのコスト計算と利益を現実的に計算する 原材料の調達、製造のための工場・設備・機器、デザイン、パッケージ、流通など細かい点についても考慮する	2	2
第 13 回	商品企画・開発案のプレゼンテーション：提案された側が製造やサービスを開始したくなる、または消費者が購	プレゼンを完成させておく プレゼン後のフィードバックを元にブラッシュアップする	2	2
第 14 回	まとめ・振り返りとレポート執筆について	期末テスト代替となるレポートテーマを第13回に発表する。執筆内容について検討を始める レポート執筆と提出	2	2

50	管理会計論	LM-C-301	選択 2単位 3 年前期
	Management Accounting		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 川島 和浩			
授業の達成目標			
管理会計論では、企業の経営者、部門管理者、工場長などが意思決定するために用いる企業内部の会計情報が、当該企業の意思決定と業績評価にどのように役立っているかを理解することができます。管理会計は、経営管理に役立つ資料を企業内部の経営者に提供することを目的としており、意思決定会計と業績管理会計に大別されます。前者の意思決定会計では、ある投資プロジェクトに対して経営者が意思決定するための会計情報の提供を目的としています。後者の業績管理会計では、生産活動や販売活動などの業績を評価・コントロールするための会計情報の提供を目的としています。このように、管理会計論での学びは、個別企業の経営計画の遂行において、予算と実績の予算差異分析において、情報の適時性を重視した経営管理に役立っていることを理解することができます。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 管理会計と財務会計の機能の違いが理解できる。 (2) 管理会計における意思決定会計と業績管理会計の違いが理解できる。 (3) CVP分析、差額原価収益分析や現在割引価値法の計算方法が理解できる。 (4) BSC (バランスト・スコアカード) の構造と因果関係が理解できる。 本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) と (2) とする。			
授業の概要			
授業ではまず、管理会計と財務会計の役割の違いを明らかにします。そのうえで、意思決定会計と業績評価会計に大別される管理会計の機能を説明し、企業の組織形態にもとづく責任センターと業績評価指標を整理します。経営活動において適時的な情報を提供するためには総原価を変動費と固定費に分解したうえで、変動損益計算書の作成や短期利益計画の策定方法を踏まえて、損益分岐点分析 (CVP分析) の手法を解説します。次いで、差額原価収益分析や設備投資の意思決定、予算管理について説明します。また、非営利組織においても活用が進展しているBSC (バランスト・スコアカード) と非財務指標の広がりについて説明します。セグメント別損益計算書を用いた利益管理手法や製造業およびサービス業において展開されたいる新しい管理会計手法について取り上げます。 テキストの章末に掲載されているExerciseやレポート課題を解答して理解を深めてください。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
プラクティカル管理会計 園田智昭 中央経済社 2017			
参考書等			
必要に応じて指示します。			
成績評価方法・基準			
授業レポート (30%)、課題レポート (10%)、中間試験 (20%)、期末試験 (40%) で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示したレポート・課題については、WebClass および次の授業のなかでフィードバックする。			
備考			

50	管理会計論		LM-C-301	選択 2単位 3 年前期
	Management Accounting			
授業計画 (各回の学習内容等)				
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第1回	オリエンテーションと、管理会計の役割	管理会計と財務会計の違いについて調べてみる。	2	
		管理会計の新しいテーマについて確認してみる。	2	
第2回	企業の組織形態と業績評価指標	責任センターと業績評価指標について調べてみる。	2	
		企業の組織形態について確認してみる。	2	
第3回	原価の分類	「原価計算基準」による原価の分類について調べてみる。	2	
		変動費と固定費の分類について確認してみる。	2	
第4回	CVP分析	損益分岐点分析の計算公式について調べてみる。	2	
		利益図表の作成方法について確認してみる。	2	
第5回	差額原価収益分析	目製か購入かの意思決定について調べてみる。	2	
		機会原価について確認してみる。	2	
第6回	設備投資の意思決定	複利計算と割引計算について調べてみる。	2	
		正味現在価値法について確認してみる。	2	
第7回	管理会計論の理解を確認するために中間試験を実施する。	CVP分析、差額原価収益分析、正味現在価値法について調べてみる。	2	
		中間試験に出題した問題について再確認をする。	2	
第8回	予算管理	予算による管理プロセスについて調べてみる。	2	
		予算スラックについて確認してみる。	2	
第9回	BSCと非財務的指標	BSC(バランスト・スコアカード)の構造と因果関係について調べてみる。	2	
		非財務的指標について確認してみる。	2	
第10回	セグメント会計	セグメント別損益計算書について調べてみる。	2	
		ミニ・プロフィットセンターについて確認してみる。	2	
第11回	製造原価の管理会計	原価企画における目標原価について調べてみる。	2	
		TOCとスループット会計について確認してみる。	2	
第12回	販売費及び一般管理費の管理会計	シェアードサービスについて調べてみる。	2	
		アウトソーシングについて確認してみる。	2	
第13回	貸借対照表項目の管理会計	安全性分析に関する経営指標について調べてみる。	2	
		資金管理について確認してみる。	2	
第14回	管理会計論の振り返りの授業を行い、理解を確認するために期末試験を実施する	授業ノート等により授業内容の理解を深めて期末試験に備える。	2	
		期末試験に出題した問題について理解が不十分な点について確認をしてみる。	2	

51	知的財産論	LM-B-303	選択 2単位 3 年前期
Intellectual Property Right			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		○ 教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 松枝 浩一郎			
授業の達成目標			
わが国の産業基盤である知的財産に関する法律や知識を深く理解して、経営戦略・事業戦略と知的財産戦略をしっかりと紐付けて事に当たることが肝要と考えられています。そのために、本授業授業の達成目標はつぎのとおりである。 ① 知的財産とは何かについて理解すること。 ② 知的財産の創造・保護・活用の管理ができる知識を有すること、を達成目標に掲げています。 ③ 知的財産に関する理解や知識を身に付け、これからの実務 (技術開発力、デザイン力、経営管理力 etc.) に活かし、産業技術力や経営デザインの強化を担える人材。 また、本科目は教職科目のため、上記とともに、法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養うことを目標とする。そのため、知的財産の種類や知的財産の重要性を理解する。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目のミニマムリクワイアメントは達成目標のうち次の通りである。 ① 知的財産とは何かについて理解すること。 ② 知的財産の創造・保護・活用の管理ができる知識を有すること理解することがである。			
授業の概要			
知的財産に関する各種の法律論を理解するための講義を実施し、その後、主な法律については、事例研究として判例等を取り上げて、法律の解釈の仕方も含めて学ぶと共に、企業における知的財産への関わりについても随時触れて行きます。特に、特許法に重点を置き、特許権の取得、活用について学び、国が進める科学技術イノベーション政策を支える知的財産 (特に特許) に関する知識をより深く理解して身に付けて行きます。また、企業が知的財産を活用して経営をどのようにデザインするのかを知的財産の役割との関係で紐解きます。実務経験のある講師により実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義資料を毎回配布 (又はアップロード) する			
参考書等			
参考文献: 2023 年度知的財産権制度入門テキスト (特許庁の以下の URL より無料でダウンロード可能) https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2023_nyumon.html			
成績評価方法・基準			
講義で説明した知的財産権に関する課題についてのレポート提出により評価する。レポートの内容を点数評価し、60 点以上で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
希望者からの問い合わせに対して個別に開示する。			
備考			

51	知的財産論	LM-B-303	選択 2単位 3 年前期
Intellectual Property Right			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス (知的財産権の概要)	第 1 回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第 2 回	特許法① (発明の定義、特許要件)	第 1 回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2
第 3 回	特許法② (特許を受ける権利)	第 2 回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第 4 回	特許法③ (職務発明)	第 2 回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2
第 5 回	特許法④ (特許権の効力ー侵害)	第 3 回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第 6 回	特許法⑤ (特許権の効力ーライセンス)	第 3 回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2
第 7 回	特許法⑥ (標準化)	第 4 回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第 8 回	特許法⑦ (ソフトウェア関連発明、外国出願、実用新案法)	第 4 回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2
第 9 回	特許法 (まとめ)	第 5 回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第 10 回	意匠法	第 5 回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2
第 11 回	商標法① (商標の定義、登録要件)	第 10 回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第 12 回	商標法② (商標権の効力、活用)	第 10 回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2
第 13 回	著作権法	第 11 回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第 14 回	不正競争防止法、種苗法他	第 11 回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2
		第 12 回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
		第 12 回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2
		第 13 回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
		第 13 回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2
		第 14 回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
		第 14 回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2

52	地域経済学	LM-A-301	選択 2単位 3 年前期
	Regional Economics		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目		
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 亀井 あかね			
授業の達成目標			
1. 地域経済学の基礎知識の習得 2. 地域が抱える問題に対し、都市経営や観光という観点から考察できるようになる 3. 得られた知識を実社会で応用できる力を養う			
ミニマムリクワイアメント			
1. 地域経済学の基礎知識の習得 2. 地域が抱える問題に対し、都市経営や観光という観点から考察できるようになる 3. 得られた知識を実社会で応用できる力を養う			
上記のうち「1・2」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
地域経済学の基礎理論及び分析方法について講義する。また、地域内・地域間の経済構造の理解を深める。特に、地域の発展、人口と集積、地域と観光資源との関わりについて取り上げる。都市も含めた一般的な地域と、ローカルとしての地域の問題点を理解し、地域の今後の発展に資する政策について考察する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
別途掲示する。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
1. 小テスト 2. 試験 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題・試験に関するフィードバックはWebClassで情報開示する。			
備考			
地域経済学は多様な経済学の分野の中でも応用分野である。よって、経済学の予備的知識が必須となる。日常的に、関連文献や新聞記事などをよく読み、予備知識（数学や統計学を含む）を習得しておくこと。 講義内で理解が不十分だった箇所や、より掘り下げたい内容について各自で調べること。			

52	地域経済学	LM-A-301	選択 2単位 3 年前期
	Regional Economics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス・地域経済学の基礎	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
第 2 回	日本の地域・都市	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第 3 回	日本の地域産業構造	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
第 4 回	人口移動	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第 5 回	産業連関分析：事例解説	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
第 6 回	産業連関分析：演習	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
第 7 回	都市化	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第 8 回	政策分析	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
第 9 回	観光と経済学：都市アメニティ	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第 10 回	観光と経済学：観光資源	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
第 11 回	観光と経済学：観光公害	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
第 12 回	交通政策	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
第 13 回	都市経営	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
第 14 回	まとめと試験	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
		教科書の該当箇所を精読し、試験に出題された項目を確認する。	2

53	ビジネス英会話		LM-X-301	選択 2単位 3 年前期
	Business English Conversation			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	 	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
○	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目		
		実務経験のある教員担当		
		アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
2年全組 佐藤 夏子				
授業の達成目標				
グローバル社会で共生するために必要とされる英語コミュニケーションの基本的能力を習得する。特に、リスニング、スピーキングといったオーラル・コミュニケーションスキルに重点をおき、主なコミュニケーション場面でのやりとりができるようになる。PRO GOS英語スピーキングテストにおいてB1レベル取得を目指す。				
ミナムリクワイメント				
目標 1) 社員としての自己紹介ができる 2) 電話での会話ができメッセージを残すことができる 3) 海外出張に伴うやりとりができる 4) 会議を運営できる 5) PROGOS英語スピーキングテストでCEFRレベルA1 Highを取得する。 以上の達成目標に従い、1) 2) 5) をミナムリクワイメントとする。				
授業の概要				
ビジネスの場面におけるコミュニケーションの練習を行う。基本表現の学習と表現を使った会話の練習を行う。さらに、プレゼンテーションをしたり、オリジナルの会話を作成して発表を行う。				
実務経験を活かした教育について				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
開講時に指示する。				
参考書等				
成績評価方法・基準				
会話試験と筆記試験で総合的に評価する。提出課題は Webclass および授業内にフィードバックを行う。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
提出された課題、試験の結果についてはコメントを行う。必要な場合、全体的コメントを行う。				
備考				

53	ビジネス英会話		LM-X-301	選択 2単位 3 年前期
	Business English Conversation			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第 1 回	ガイダンス 科目の達成目標、概要、テキスト、評価方法等について説明。	英語で会社員としての自己紹介文を考える。	2	
第 2 回	取引相手との会議で自己紹介をする	初めて同僚に自己紹介する英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2	
第 3 回	取引相手を同僚に紹介する	取引相手に自己紹介する英文を読み、わからない単語について調べておく。	2	
第 4 回	電話で仕事相手と会話をする	取引相手に自己紹介する英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2	
第 5 回	電話で取引相手にメッセージを残す	取引相手を同僚に紹介する英文を読み、わからない単語について調べておく。	2	
第 6 回	海外出張のために空港でチェックインする	典型的なオフィスの電話の会話英文を読み、わからない単語について調べておく。	2	
第 7 回	海外出張のための入国審査や税関での対応	オフィスでの電話の会話の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2	
第 8 回	海外出張のためのホテルのチェックインやトラベル対応	取引相手が不在の際にメッセージを残す英文を読み、わからない単語について調べておく。	2	
第 9 回	英語で会議を運営する	取引相手が不在の際の電話メッセージの英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2	
第 10 回	取引相手にアポイントメントを取る	海外出張や海外旅行の空港でチェックインの際に使用する表現を含む英文を読み海外、わからない単語について調べておく。	2	
第 11 回	取引相手と雑談をする	海外に行く際のチェックインに関する英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2	
第 12 回	自分の会社についてプレゼンテーション準備	海外出張のための入国審査や税関での対応に関する英文を読み、わからない単語について調べておく。	2	
第 13 回	自分の会社についてプレゼンテーションする	海外出張のための入国審査や税関での対応に関する英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2	
第 14 回	まとめと試験	海外出張のためのホテルのチェックインやトラベル対応に関する英文を読み、わからない単語を調べる。	2	
		海外出張のためのホテルのチェックインやトラベル対応に関する英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2	
		会議の運営に関する英文を読み、わからない単語について調べておく。	2	
		会議の運営に関する英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2	
		取引相手にアポイントメントを取る英文を読み、わからない単語について調べておく。	2	
		取引相手にアポイントメントを取る英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2	
		取引相手とする雑談に関する英文を読み、わからない単語について調べておく。	2	
		取引相手とする雑談に関する英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2	
		自分が就職したい企業について考えてみる。	2	
		自分が就職したい企業の紹介の英文を作成する。	2	
		自分が就職したい企業についてプレゼンするための準備をする。	2	
		授業動画で自分の発表とクラスメイトのプレゼンテーションを聞いて、改善点について考える。	2	
		会話テストの練習をし、筆記試験の対策として教科書とノートを読み直す。	2	
		会話試験、筆記試験でできなかった点をノートに書きだす。	2	

54	映像制作		LM-X-302	選択 4単位 3 年前期
	The Practice of Film Making			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)		
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けて担当する)		地域志向科目		
		実務経験のある教員担当		
		アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
3 年全組 猿渡 学				
授業の達成目標				
映像表現に関わる、映像・音響・照明などについて学習し、それを実践することを主とする。表現するための技術の重要性を学び、製作のワークフローを踏まえることの重要性を理解することを目的とし、クオリティを追求した作品の制作を達成目標とする。				
ミニマムリクワイアメント				
(1) 所与の課題を解決するための方法 (調査やアンケートなど) を理解する。 (2) 所与の課題の本質を理解するためのさまざまなアプローチ (分析) を理解する。 (3) 所与の課題に対しての最適解を導くことができる。 (4) 映像や音響に関する知識を実践に活用することができる。 (5) アイデアなどをグループワークを通して表象することができる。 上記の中で (1) (2) (3) を基礎として、(4) あるいは (5) を達成することをミニマムリクワイアメントとする。				
授業の概要				
「イメージメディア論」「映像・イメージ学」で行った講義概要を踏まえて、より実践的な短編映画制作を主軸とし、Log撮影やカラー調整など、本格的な作品にするための実践的技術と作品制作のためのワークフローの円滑な振興のためのプロジェクトとして進行させ				
実務経験を活かした教育について				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
参考書等				
成績評価方法・基準				
3 分間と 10 分間の、それぞれのショートムービーを、事前に示すルーブリックによって評価を行う。 3 分ショートムービー：40 点、10 分ショートムービー 60 点				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
各講義ごとの最後に口頭もしくは LMS を通してフィードバックを行う。				
備考				

54	映像制作		LM-X-302	選択 4単位 3 年前期
	The Practice of Film Making			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）		目安時間(時)
第 1 回	短編映画の制作プロジェクト：3分のショートムービーの制作	「イメージメディア論」「映像・イメージ学」で行った講義概要を事前に学習する。すでに履修している場合はそこで制作した作品を準備する。 作品制作のためのプリプロダクションを考案し、撮影までのスケジュールなどを計画する。		3
第 2 回	撮影技法ワークショップ（1）カメラワーク	WebClassに提示された資料を事前にチェックし講義の準備をおこなう。 基本的なカメラワークを用いて、指定された映像を撮影する。		3
第 3 回	撮影技法ワークショップ（2）Log撮影	さまざまな映像フォーマットについて、それぞれの特徴や取り扱い方について事前に調査する。 Log撮影の基本を理解し、指定された映像を撮影する。		3
第 4 回	撮影技法ワークショップ（3）実践的撮影技術	指定された映像を事前に撮影する 指定された映像を編集する。		3
第 5 回	撮影技法ワークショップ（4）Log映像の編集	Log撮影された映像の編集における留意点などを事前に調査検討をおこなう。 指定された映像を編集し、色彩調整によりどのように変化するかをまとめておく。		3
第 6 回	3分のショートムービー制作ワークショップ（1）プリプロダクション	テーマに沿った台本を制作しておく。 台本の修正点を検討し、制作体制を整備する。		3
第 7 回	3分のショートムービー制作ワークショップ（2）プロダクション（本編撮影）	台本を制作するに際して、効率的に撮影するためのプリプロダクションを完成させておく。 撮影の問題点などを検討し、対策を講じる。		3
第 8 回	3分のショートムービー制作ワークショップ（3）プロダクション（追加撮影）	前回の撮影において検討された問題点を解決しつつ撮影を継続する。 ラフに編集し、追加撮影の必要性について検討を行う。必要がある場合はさらにスケジュールなどを組み直す。		3
第 9 回	アナモフィックレンズによる映像制作（1）撮影技術に関するワークショップ	アナモフィックレンズを用いた特殊な撮影方法を事前に調査検討をおこなう。 アナモフィックレンズを用いた場合の留意点などをまとめ、スタッフ間で共有する。		3
第 10 回	アナモフィックレンズによる映像制作（2）Log撮影による特徴について	Logフォーマットによる、アナモフィックレンズ撮影を事前に確認しておく。 使用する機材についての確認（ミニテスト）をおこなうので、その準備を行なっておくこと。		3
第 11 回	アナモフィックレンズによる映像制作（3）色彩設計	色彩設計による演出の方針を立案しておく。 色彩編集に際に留意すべきことをまとめる。その上で実践し、次回に備えておくこと。		3
第 12 回	アナモフィックレンズによる映像制作（4）音響設計	音響設計による演出の方針を立案しておく。 音響編集に際に留意すべきことをまとめる。その上で実践し、次回に備えておくこと。		3
第 13 回	試写の実施	試写の実施に向けてデータの整理を行う。 試写によって指摘された箇所について、再編集に向けての方針を立案し、実践しておくこと。		3
第 14 回	作品発表：プレゼンテーション	事前に作品を視聴し、見解をまとめる。 プレゼンテーションに対して、主体的・積極的な意見をレポートとしてまとめる。		3

55	セミナーⅥ	LM-E-305	必修 1単位 3年後期
	Seminar IV		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
○	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 川島 和浩 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 小祝 慶紀 黎 敏利			
授業の達成目標			
卒業研究テーマを決定し、研究構想書(最終稿)を完成する。 自己の研究領域における専門知識や技能の基本を総合的に修得する。 4年次開講「卒業研修I・卒業研修II」において、一つのテーマ課題を探究し、研究論文を完成させる為に必要な知力を高める。			
ミニマムリクワイアメント			
1. 研究テーマ選定および研究目的の明確化 2. 研究で用いる各種概念の操作的定義 3. 参考文献の適切な引用 4. 各研究室(専門分野毎)指定フォーマットに則った「卒業研究構想書」の提出 5. 研究室毎の研究手法に関する専門知識 上記のうち「1・2・3・4」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
各研究室の特徴を活かした学習活動を行う。関連文献の精読、実験、実習、ディスカッションなどを通じて、自らが取り組む卒業研究のテーマを明確にし、それについてのプレゼンテーションを行う。また、研究の遂行に必要な、研究の現状把握、課題の抽出、社会のニーズに基づいた問題の解決の方法など体得する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
研究室毎に指導教員からの指示がある。			
参考書等			
研究室毎に指導教員からの指示がある。			
成績評価方法・基準			
1. 卒業研究構想発表(プレゼンテーション・Microsoft PowerPoint資料作成) 2. 卒業研究構想書(最終稿) 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
研究室内で必要なフィードバックを実施する。			
備考			

55	セミナーⅥ	LM-E-305	必修 1単位 3年後期
	Seminar IV		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・研究室毎 個別面談(履修登録確認、等)	前期までの学習を振り返り、学年末に向けての研究目標を描く。	0.5
第2回	研究構想の再考 1: 研究テーマの検討	ガイダンスでの指示を踏まえ、その達成のために研究室でどのように学ぶかを考える。 前期の研究活動で学習した内容をまとめ、研究テーマの変更、具体化について検討する。	0.5
第3回	研究構想の再考 2: 研究テーマの検討	さらに文献資料を収集し、内容を整理し検討を続ける。	0.5
第4回	研究構想の再考 3: 研究テーマの検討	前期の研究活動で学習した内容をまとめ、研究テーマの変更、具体化について検討する。	0.5
第5回	研究構想 1: 文献購読(概要・レビュー)	さらに文献資料を収集し、内容を整理し検討を続ける。	0.5
第6回	研究構想 2: 文献購読(概要・レビュー)	購読内容についてレジュメ(概要・レビュー)を作成する。	0.5
第7回	研究構想 3: 文献購読(概要・レビュー)	指導を受けた箇所についてレジュメの加筆・修正を行う。	0.5
第8回	研究構想 4: 文献購読(概要・レビュー)	購読内容についてレジュメ(概要・レビュー)を作成する。	0.5
第9回	研究構想 5: 文献購読(概要・レビュー)	指導を受けた箇所についてレジュメの加筆・修正を行う。	0.5
第10回	研究構想 6: 文献購読(概要・レビュー)	購読内容についてレジュメ(概要・レビュー)を作成する。	0.5
第11回	研究構想書リライト 1: セミナーⅤで提出した卒業研究構想書のリライト	指導を受けた箇所についてレジュメの加筆・修正を行う。	0.5
第12回	研究構想書リライト 2: セミナーⅤで提出した卒業研究構想書のリライト	セミナーⅥで取り上げた購読文献の内容を卒業研究構想書に追記する。 添削指導を受けた箇所をリライト・追記する。	0.5
第13回	研究室毎 卒業研究構想発表	卒業研究でとりあげたいことを詳細に記す。プレゼンテーションの準備を始める。 添削指導を受けた箇所をリライト・追記する。	0.5
第14回	期末面談	発表練習に取り組む。 研究構想発表のフィードバックを参考にして、今後の研究の進め方を考える。	0.5
		当該年度後期履修科目(修得見込み)単位数と前期までの修得単位数を合算して、進級要件を満たすかについて確認する。既に「不適・不可」が確定している科目について、研究指導教員に報告する。	0.5
		進級後の卒業研究計画(含日程)を調整・確認し、研究指導教員に報告する。	0.5

56	データベースと経営		LM-D-301	選択 2単位 3 年後期
	Database and Management			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)		
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)			
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目		
		実務経験のある教員担当		
		アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
3 年全組 本田 秀行				
授業の達成目標				
現代社会では、データベースは組織活動の実践の上でも、また、管理のためにも不可欠である。本科目では、そのためのデータベースの基礎を学ぶ。				
ミニマムリクワイアメント				
(1) データベースの基本概念を理解し、ERモデルや正規化を説明できる (2) SQLの基本的な操作 (SELECT、INSERT、UPDATE、DELETE) が実行できる (3) ビジネスでのデータベース活用例を理解し、その利点とリスクを説明できる				
授業の概要				
この授業では、データベースの基本的な仕組みや構造を学び、設計やSQLを用いた操作方法を習得する。また、データベースのビジネス活用事例を通じて、顧客管理 (CRM) や在庫管理など具体的な応用例を理解するとともに、リスク管理や情報セキュリティの重要性についても考察する。さらに、最新技術の動向や未来の展望についても取り上げ、データベースの実践的な利用方法とその可能性を探る。 ※「ITパスポート資格試験シラバス (最新)」のストラテジ系項目について取り扱う。				
実務経験を活かした教育について				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
参考資料に関しては適宜指示する				
参考書等				
成績評価方法・基準				
授業中に行う小テスト、課題 (30%)、中間テスト(30%)、レポート評価 (40%)。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
小テスト、課題については次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。				
備考				

56	データベースと経営		LM-D-301	選択 2単位 3 年後期
	Database and Management			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	データベースの基本的な定義と役割	データの定義と活用例について調査	2	
		身近なデータベースの例を考える	2	
第2回	データベースの基本構造とモデル	リレーショナルデータベース（RDB）について調べる	2	
		身の回りのデータをRDBで整理してみる	2	
第3回	SQLの基礎	SQLの基本構文（SELECT、INSERT）を調べる	2	
		小テストの内容を復習し、理解を深めておく	2	
第4回	データベース設計	正規化の基本を学ぶ（第1～第3正規形）	2	
		自分でテーブルを設計し、正規化してみる	2	
第5回	トランザクションとセキュリティ	トランザクションについて調査	2	
		セキュリティリスクの実例を調べ、対策を考える	2	
第6回	ビジネスにおけるデータベース活用	CRMやERPの基本概念を学ぶ	2	
		具体的な活用例を調べてみる	2	
第7回	クラウドデータベースとデータウェアハウス	クラウドデータベースの利点を調べる	2	
		利用したいクラウドサービスを考える	2	
第8回	ビッグデータとNoSQL	ビッグデータの特徴とNoSQLの概要を調べる	2	
		NoSQLを使うべき場面を考察する	2	
第9回	ビジネス分析とデータビジュアライゼーション	BIツールについて調べる	2	
		自分のデータで簡単な可視化を試してみる	2	
第10回	中間テストと解説	これまでの内容を復習	2	
		解説内容を復習する	2	
第11回	事例研究：データベース活用の成功例	成功企業のデータベース活用事例を調査	2	
		成功事例を自分なりに分析してみる	2	
第12回	データベース活用のリスクと注意点	データ漏洩や不正アクセスの事例を調べる	2	
		リスク軽減策を考えてみる	2	
第13回	データベースの未来：技術とビジネスの進化	データベース技術の最新トレンドを調べる	2	
		将来性がある技術を1つ選び、ビジネスでの活用を提案	2	
第14回	まとめと総括	講義全体を振り返り、自分が最も興味を持ったトピックをまとめる	2	
		今後学びたいテーマやスキルについて考えてみる	2	

57	経営分析論	LM-C-302	選択 2単位 3年後期
	Business Analysis		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 川島 和浩			
授業の達成目標			
経営分析論では、会計情報利用者の視点から、企業が作成・公表した有価証券報告書（貸借対照表や損益計算書など）を読み解く方法を理解することができます。財務諸表を用いた経営分析では、安全性分析・収益性分析・効率性分析・生産性分析・成長性分析などが行われます。そこでは、財務数値の比率分析が中心に行われ、経営指標が算定されます。経営分析では、この経営指標が医学に置き換えると画像診断に相当することから、単純に経営指標の計算公式を理解するだけでは企業の本当の実態は理解できません。企業の経営実態が財務諸表にどのように反映されているかを理解することで、経営分析の結果を深く読み込むことができます。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 経営分析の手法が理解できる。 (2) 安全性分析と収益性分析の経営指標が算定できる。 (3) 効率性分析、生産性分析、成長性分析の経営指標が算定できる。 (4) 非財務情報を含めた総合的な企業評価ができる。 本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) と (2) とする。			
授業の概要			
会計情報利用者の立場から、企業が作成・公表した有価証券報告書（貸借対照表や損益計算書など）について、安全性・収益性・効率性・生産性・成長性に関する比率分析の方法を解説します。例えば、安全性分析では流動比率や固定長期適合率、自己資本比率などがあります。効率性分析では資本利益率にもとづき、ROAやROEに係る経営指標を算定します。また、現代企業においては、資金繰りの管理が非常に重要であることから、キャッシュフロー計算書を用いた経営指標の分析を行います。授業においては、学生の理解度を確認するためのワークシート（授業レポート）の作業を行いながら、経営指標の算定方法に関する解説を行います。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
新版 経営分析の基本 林聰 日本実業出版社 2023			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業レポート (30%)、課題レポート (10%)、中間試験 (20%)、期末試験 (40%) で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示したレポート・課題については、WebClass および次の授業のなかでフィードバックする。			
備考			

57	経営分析論	LM-C-302	選択 2単位 3年後期
	Business Analysis		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	オリエンテーションと、財務諸表の読み方の説明	企業が作成・公表する有価証券報告書について調べてみる。	2
第 2 回	貸借対照表 (B/S) の分析1	貸借対照表や損益計算書の時系列の財務数値を比較して確認してみる。	2
第 3 回	貸借対照表 (B/S) の分析2	貸借対照表における資金の調達源泉と運用形態、構造について調べてみる。 資産と負債の流動・固定項目の分類方法について確認してみる。	2
第 4 回	損益計算書 (P/L) の分析1	安全性分析と効率性分析について調べてみる。 ROAやROEの分解公式について確認してみる。	2
第 5 回	個別企業の事例研究1：ワークシートの解答作業	損益計算書の発生源泉別の区分計算と利益項目について調べてみる。 ワークシートの解答作業結果とその解説を踏まえて理解を深める。	2
第 6 回	損益計算書 (P/L) の分析2	収益性分析について調べてみる。 総原価の変動費と固定費の分解と貢献利益の算定について確認してみる。	2
第 7 回	個別企業の事例研究2：ワークシートの解答作業	損益分岐点分析における経営指標の算定方法を調べてみる。 ワークシートの解答作業結果とその解説を踏まえて理解を深める。	2
第 8 回	経営分析論の理解を確認するために中間試験を実施する。	貸借対照表と損益計算書にもとづく安全性分析・収益性分析・効率性分析を調べてみる。 中間試験に出題した問題について再確認をする。	2
第 9 回	キャッシュフロー計算書の分析1	営業活動CF、投資活動CF、財務活動CFの構造について調べてみる。 営業活動CFと投資活動CFの差額であるFCFについて確認してみる。	2
第 10 回	キャッシュフロー計算書の分析2	キャッシュフローの動態分析について調べてみる。 現金循環日数 (CCC) の計算方法について確認してみる。	2
第 11 回	生産性分析	付加価値生産性の経営指標について調べてみる。 労働分配率について確認してみる。	2
第 12 回	株式投資分析	株価の分析指標について調べてみる。 株価収益率 (PER) や株価純資産倍率 (PBR) について確認してみる。	2
第 13 回	個別企業の事例研究3：ワークシートの解答作業	キャッシュフロー計算書分析、生産性分析、株式投資分析の指標について調べてみる。 ワークシートの解答作業結果とその解説を踏まえて理解を深める。	2
第 14 回	経営分析論の振り返りの授業を行い、理解を確認するために期末試験を実施する	授業ノート等により授業内容の理解を深めて期末試験に備える。 期末試験に出題した問題について理解が不十分な点について確認をしてみる。	2

58	イノベーション政策論	LM-A-302	選択 2単位 3年後期
Innovation policy			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 松枝 浩一郎			
授業の達成目標			
国が進めている「イノベーション政策」によって、わが国産業が再び競争力を取り戻すためには、知的財産に関する法律や知識をより深く理解して、経営戦略・事業戦略と知的財産戦略をしっかりと紐付けて事に当たることが肝要と考えられています。そのために、本授業では①知的財産とは何かについて理解すること、②知的財産の創造・保護・活用の管理ができる知識を有すること、③国が進める科学技術イノベーション政策とは何かについて理解すること、を達成目標に掲げています。そして、知的財産に関する理解や知識を身に付け、これからの実務（技術開発力、デザイン力、経営管理力 etc.）に活かし、産業技術力や経営デザインの強化を担える人材になって欲しいと思います。			
ミニマムリクワイアメント			
達成目標の①知的財産とは何かについて理解すること、②知的財産の創造・保護・活用の管理ができる知識を有すること理解することが本科目のミニマムリクワイアメントである。			
授業の概要			
知的財産に関する各種の法律論を理解するための講義を実施し、その後、主な法律については、事例研究として判例等を取り上げて、法律の解釈の仕方も含めて学ぶと共に、企業における知的財産への関わりについても随時触れて行きます。特に、特許法に重点を置き、特許権の取得、活用について学び、国が進める科学技術イノベーション政策を支える知的財産（特に特許）に関する知識をより深く理解して身に付けて行きます。また、企業が知的財産を活用して経営をどのようにデザインするのかを知的財産の役割との関係で紐解きます。実務経験のある講師により実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、知的財産権の取得・活用等の手続きを代理する国家資格である弁理士であり、弁理士として従事した知的財産権業務の実績と経験を活かして授業に還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義資料を毎回配布する。参考書：2023年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁の以下の URL より無料でダウンロード可能）https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2023_nyumon.html			
参考書等			
成績評価方法・基準			
講義で説明した知的財産権に関する課題についてのレポート提出により評価する。レポートの内容を点数評価し、60点以上で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
希望者からの問い合わせに対して個別に開示する。			
備考			

58	イノベーション政策論	LM-A-302	選択 2単位 3年後期
Innovation policy			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	概説（知的財産権の分類とその保護の必要性）	第1回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第2回	特許法①（特許制度の概略、発明の定義）	第2回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第3回	特許法②（特許要件）	第3回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第4回	特許法③（特許を受ける権利、職務発明）	第4回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第5回	特許法④（特許権の効力-特許権侵害）	第5回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第6回	特許法⑤（特許権の利用-ライセンス）	第6回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第7回	特許法⑥（特定領域分野の特許-ソフトウェア関連特許）	第7回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第8回	特許法⑦（実用新案制度、外国の特許制度）	第8回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第9回	特許法⑧（特許法のまとめ）	第9回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第10回	意匠法	第10回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第11回	商標法①（識別力、商標の類比）	第11回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第12回	商標法②（商標権の効力、利用）	第12回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第13回	著作権法	第13回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2
第14回	不正競争防止法、種苗法他	第14回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく	2

59	交渉学	LM-X-303	選択 2単位 3 年後期
Negotiation Studies			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 二瀬 由理			
授業の達成目標			
「交渉」とは当事者がそれぞれの利益を求めて駆け引きを行うもので、相手を言い負かすコミュニケーションであると考えられることが多い。しかし本講義では、そのような勝ち負けのネゴシエーションではなく、良好な関係構築・情報交換・相互理解により、問題解決に導いていくアサーティブ交渉技術を修得する。そのような交渉の知識をもとに、交渉相手と自分の双方を尊重しながら、協力して問題解決していく話し合いが無理なくできるようになることを目指す。さらに身近な日常の場面での交渉から、ビジネスの現場で役立つ交渉まで、あらゆるシチュエーションにおいて、自尊心と相手への敬意を持ち続けられる良好な交渉スタイルを、自らの考えで構築できるようになる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目のミニマムリクワイアメントは、以下の2点である。 (1) 他者と良好な関係構築および情報交換ができる (2) 相手の立場を理解し、自分の考えを言える交渉ができる			
授業の概要			
アサーティブ・ネゴシエーションの根底には、臨床心理学の理論があり、WIN-WINになれる交渉ができる自分になるために、どう自分の感情を扱い、どんなことを表現していくかについて身近な事象を題材にして学んでいく。さらに交渉の理論を理解し、受講者相互の交渉ニングを行う。主にロールプレイとペアワークによる交渉演習を行い、お互いのフィードバックから気づきを深めていく。また、交渉学と応用として、クレーム対応・模擬会議・ディベートを体験し、多様性や異文化の中で生きる上での交渉の価値と可能性に気づくと共のさまざまな場面で交渉(ネゴシエーション)を活かしていく力を身に付ける。			
実務経験を活かした教育について			
コミュニケーション講師・コーチとして、各種企業・行政、教育機関・福祉関連団体等での人材育成、課題解決に向けたプログラム開発と研修講師に従事している実績と経験を授業内容及びワークのリードに活かす。それにより、交渉学で重要となる関係形成に活きる実践的なコミュニケーションセンスの体得を促進する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
「交渉学ノズメ」NPO法人日本交渉協会編 生産性出版 2020(第3刷)			
参考書等			
独自資料を適宜配布し教材とする。			
成績評価方法・基準			
授業で提示した課題 (60%) と最終レポート課題 (40%) を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示した提出課題については次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

59	交渉学	LM-X-303	選択 2単位 3 年後期
Negotiation Studies			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	交渉学とは何か	教科書第1章を読み、基本を理解する。	2
第 2 回	日常生活の中にある交渉場面への気づき	第1回目授業で提示した課題に取り組む。	2
第 3 回	認知バイアスの存在とコミュニケーションへの影響	日常生活での交渉場面に気づき、その具体例をまとめる。	2
第 4 回	アサーティブ・コミュニケーション(ロールプレイ)	学んだことを実生活で活用し、振り返りをする。	2
第 5 回	意図を表現するインテンショナルメッセージ・Noが言える関係性(ペアワーク)	教科書第2章を読み、基本を理解する。	2
第 6 回	ハイコンテキスト・ローコンテキストによる交渉への影響とインテンショナルメッセージトレーニング	学んだことを実生活で観察し、その観察からの気づきをまとめる。	2
第 7 回	インテンショナルメッセージを使った模擬交渉と振り返り(グループワーク)	教科書第4章P.162～187を読み、基本を理解する。	2
第 8 回	交渉学の基礎概念、BATNA等	学んだことを実生活で実践し、振り返りをする。	2
第 9 回	分配型交渉から統合型交渉へ	第4回目授業で提示した課題に取り組む。	2
第 10 回	win-winを割り出す模擬交渉(グループワーク)	教科書第4章P.124～146を読み、基本を理解する。	2
第 11 回	交渉の場のセットアップ～あり方と聴き方(ペアワーク)	教科書第4章P.124～146の内容について、授業内容と共に復習する。	2
第 12 回	交渉学の実践と応用～クレーム対応(ケーススタディ)	教科書第4章P.147～164を読み、基本を理解する。	2
第 13 回	交渉学の実践と応用～コンフリクト・マネジメントと模擬会議	教科書第4章P.147～164の内容について、授業内容と共に復習する。	2
第 14 回	交渉学の実践と応用～多様性・異文化とディベートからの気づき	第9回目授業で提示した課題に取り組む。	2
		学んだことを実生活で活用し、振り返りをする。	2
		第10回目授業で提示した課題に取り組む。	2
		学んだことを実生活で活用し、振り返りをする。	2
		教科書「交渉学の実践と応用1」を読み、基本を理解する。	2
		教科書「交渉学の実践と応用3」を読み、授業での模擬会議の振り返りを行う。	2
		教科書「交渉学の実践と応用2」を読み、基本を理解する。	2
		アサーティブな交渉方法を将来にどう活かすかをまとめる。	2

60	人的資源管理論		LM-B-304	選択 2単位 3 年後期
	Human Resource Management			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)		
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)		
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目			
		実務経験のある教員担当		
	○ アクティブラーニング			
		メディア授業		
クラス・担当教員				
3 年全組 佐藤 飛鳥				
授業の達成目標				
自治体、地域、企業等の組織が有する課題を認識し、その構成員である人がよりよく生きるためには、さまざまな働き方と働く環境を十分に知る必要がある。一方で、経営者はひとりひとりの従業員が能力を最大限に発揮できる職場環境を整え、業績を向上させるマネジメントをしなければならない。企業の持つ経営資源の中で最も大切な「人」を、コストではなく「人的資源」と捉え、モチベーションや能力を高める方法を学習する。これにより、地域を支えるヒト・モノ・カネ・場・情報を最適に配置し、地域の課題を解決して発展につなげることを意図した人的資源管理を行えるようにする。				
ミニマムリクワイアメント				
(1) 労務管理から人的資源管理へと考え方が変わってきた背景を理解できる (2) 従業員の管理手法 (雇用管理、人事考課、賃金管理、労働時間管理、福利厚生など) を理解できる (3) 人的資源としての従業員のモチベーションを高めながら能力を発揮してもらう環境を提案できる (4) 人的資源としての従業員のリテンションマネジメント方法を提案できる				
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) ～ (3) とする。				
授業の概要				
本講義は経営者側の視点から従業員の能力を引き出すマネジメント手法を学習するが、学生諸君は働く者の視点を大切に、現実社会の多様な職場環境、つまり自分自身がこれから置かれる状況と置き換えて社会に出る覚悟をして欲しい。毎回、講義形式で理論を教授した後、受講者を経営者と労働者の立場で 2 グループに分け、ディスカッションを行う。今後どのように自分の人生、キャリアを切り開いていくのかを考え、社会に柔軟に対応できる考え方を身につけること。				
実務経験を活かした教育について				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
『明日を生きる人的資源管理入門』 澤田幹／平澤克彦／守屋貴司 編著 ミネルヴァ書房 2009 『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理』 守屋 貴司／中村艶子／橋場俊展 編著 ミネルヴァ書房 2018 『入門 人的資源管理論』 佐藤飛鳥／浅野和也／橋場俊展 編著 法律文化社 2024				
参考書等				
成績評価方法・基準				
ディスカッションの内容 (理論の理解度、発言者の立場の理解度、主張の整合性と説得力を見る。) 70%、最終レポート (到達目標の達成度を見る。) 30%。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
ディスカッションの内容は各回の最後に評価を行い、ホームワークを LMS 上で指示する。ホームワークへのフィードバックは LMS 上で行う。				
備考				

60	人的資源管理論		LM-B-304	選択 2単位 3 年後期
	Human Resource Management			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第 1 回	戦略的人的資源管理とは	戦略的人的資源管理を調べ、概要を理解する	2	
		PM から SHRM へと企業が考え方を変えた時代背景と SHRM の概念を理解する。	2	
第 2 回	雇用の流動化と若年者の働き方の多様化	新規学卒採用、フリーター、起業をキーワードに調べ、概要を理解する。	2	
		自分自身のキャリアデザインを考える。	2	
第 3 回	ライフデザインと自律的キャリア開発	現在から生涯を閉じるまでの大きなライフイベント(就職、結婚、出産、転職、自宅の購入、介護など)の年表と、職業生活でのライフイベント(就職、昇進、退職)の年表と必要金額を記入する。	2	
		自分自身のエンプロイアビリティを考える。	2	
第 4 回	雇用管理（採用、配置、異動、退職）	採用、配置、異動、退職をキーワードに調べ、概要を理解する。	2	
		コース別採用(総合職・一般職)のどちらを希望するか考える。	2	
第 5 回	人事考課制度（従業員の評価）	人事考課制度（従業員の評価制度）をキーワードに調べ、概要を理解する。	2	
		講義時のディスカッションのチームメンバーで 10 項目からなる職務評価表を作成する。	2	
第 6 回	タレントマネジメント	タレントマネジメントをキーワードに調べ、概要を理解する。	2	
		労働市場や企業からどのような人材が求められているかを考える。	2	
第 7 回	賃金管理	年功賃金、職能給、成果主義賃金をキーワードに調べ、概要を理解する。	2	
		どのような賃金制度が企業業績を上げ、従業員が安心して働き続けられるかを考える。	2	
第 8 回	労働時間管理と安全衛生	労働基準法、三六協定、フレックスタイム、過労死をキーワードに調べ、概要を理解する。	2	
		多様な働き方と労働時間制度の事例を検索してまとめる。働き過ぎの改善に向けた提案をまとめる。	2	
第 9 回	職場環境と福利厚生制度	福利厚生制度、カフェテリアプラン、法定外福利厚生費をキーワードに調べ、概要を理解する。	2	
		就職を希望する業界や企業が用意している福利厚生制度を調べ、自分自身はどのような福利厚生制度を重視するかを考える。	2	
第 10 回	ダイバーシティ・マネジメント	ダイバーシティ・マネジメント、ポジティブ・アクション、ワーク・ライフ・インテグレーションをキーワードに調べ、概要を理解する。	2	
		今後の日本企業において考慮の必要なダイバーシティについて考え、解決策を考える。	2	
第 11 回	非正規雇用	非正規雇用に含まれる就労形態、用語や概念を調べ、問題点を 3 つ考える。	2	
		予習で挙げた問題点の解決策を考える。	2	
第 12 回	労働力不足と外国人労働者	移民労働者と外国人技能実習生、基幹労働力化をキーワードに調べ、概要を理解する。	2	
		人口減少の中での外国人労働について、活用法や問題点、問題点を解消するための方法を考える。	2	
第 13 回	グローバル人材の確保と活用	グローバル人材、リテンションマネジメントをキーワードに調べ、概要を理解する。	2	
		グローバルに活躍する人材のリテンションマネジメント策を提案する。	2	
第 14 回	人的資源管理論の今後の課題と最終レポートについて	自分自身がこれからキャリアデザインを行っていくうえで必要となるキーワードを設定し、内容を理解する。	2	
		全講義のノート、ディスカッションをまとめ、総まとめとして自分自身の考えまとめ、レポートを記述する。	2	

61	意思決定論	LM-A-303	選択 2単位 3年後期
	Decision-Making Theory		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 亀井 あかね			
授業の達成目標			
1. 意思決定の論理構造を図示する 2. 意思決定モデルを構築する 3. 数理最適化の概念やビジネスにおける役割について説明できる 4. 完全情報と不完全情報の価値の関係を説明できる 5. 数理最適化問題を定式化する			
ミニマムリクワイアメント			
1. 意思決定の論理構造を図示する 2. 意思決定モデルを構築する 3. 数理最適化の概念やビジネスにおける役割について説明できる 4. 完全情報と不完全情報の価値の関係を説明できる 5. 数理最適化問題を定式化する			
上記のうち「1・2・3」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
経済学・経営学における決定主体の意思決定理論および意思決定プロセスについて、論理図や平易な数理（高校数学程度）を用いて講義する。また、経営における意思決定の事例を取り上げ、解説する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
佐々木康朗「経営のための意思決定論入門」オーム社			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
1. 小テスト 2. 試験 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
WebClassで情報開示する。			
備考			

61 意思決定論		LM-A-303	選択 2単位 3 年後期
Decision-Making Theory			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・意思決定の要素	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第2回	意思決定と情報・予測・データ分析	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第3回	不確実性下の意思決定	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第4回	狭義の不確実性下の意思決定	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第5回	不確実性下の意思決定と情報の価値	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第6回	戦略的意思決定	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第7回	戦略的意思決定と情報の価値	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第8回	多目的意思決定	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第9回	階層化意思決定法	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第10回	集団意思決定	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第11回	集団的意思決定の戦略的操作	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第12回	数理最適化	教科書の教科書の該当箇所を精読し、講義で取り上げた重要項目を再確認する。	2
第13回	感度分析	教科書の該当箇所を通読し、専門用語についてノートにまとめる。	2
第14回	まとめと試験	教科書を精読し、専門用語についてまとめたノートを確認する。	2
		教科書の該当箇所を精読し、試験に出題された項目を確認する。	2

62	情報システム学	LM-D-302	選択 2単位 3年後期
Information System			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○実務経験のある教員担当	
		○アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4年全組 本田 秀行			
授業の達成目標			
現代社会は情報システムなしでは成り立たない。組織運営の合理化のために情報システムが欠かせないだけでなく、情報システムを活用した様々なビジネスが生まれている。本科目では、組織において情報システムの活用を立案できるための基礎を学ぶ。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 情報システムに関する基本的な構成要素が理解できている (2) 情報システムの基本的技術要素に関する用語が理解できる (3) 情報システム活用の効果について理解できる			
授業の概要			
企業のケースをベースに情報システムの活用方法を学ぶ。情報システムの構成や理論、情報システムの構成要素などを基本的なところから学んでいく。 ※「ITパスポート資格試験シラバス（最新）」のストラテジ系項目について取り扱う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
なし			
参考書等			
参考資料に関しては適宜指示する			
成績評価方法・基準			
授業中に行う小テスト、宿題（20％）グループワーク（80％）授業中に提示する課題等はすべて LMS を用いて実施する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
フィードバックは LMS を通じて行う。			
備考			

62	情報システム学	LM-D-302	選択 2単位 3年後期
Information System			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	オリエンテーションと課題設定	予習：情報システムに関する基本事項についての事前学習 復習：現代社会における情報システムの応用例の調査と授業の復習	2
第2回	基礎理論 - 情報の基本概念	予習：情報表現（ビット・バイト、基数変換）の基本について調べておく 復習：授業の復習	2
第3回	基礎理論 - アルゴリズムとデータ構造	予習：アルゴリズムの基礎（整列、探索）について調べてみる 復習：日常生活で見られるアルゴリズム（例：書類のファイル整理）を調べてみる	2
第4回	コンピュータシステム - ハードウェア基礎	予習：CPU、メモリ、入出力装置の役割を調べる 復習：使用しているスマートフォンやPCのハードウェアスペックを調べる	2
第5回	コンピュータシステム - ソフトウェア基礎	予習：OSとアプリケーションの違いを調べる 復習：日常生活で使用しているアプリケーションソフトの種類とその役割を調べる	2
第6回	技術要素 - データベース基礎	予習：データベースの基本構造（テーブル、フィールド、レコード）について調べる 復習：家庭で管理できるデータ（例：家計簿や蔵書リスト）について調べる	2
第7回	技術要素 - ネットワーク基礎	予習：ネットワーク（LAN、WAN、プロトコル）の基本用語を調べる 復習：自宅や学校で使っているネットワーク機器の役割について調べる	2
第8回	技術要素 - セキュリティ基礎	予習：指標設定の方法に関する事前学習 復習：身近な情報セキュリティの課題（例：パスワード管理）の解決策を考える	2
第9回	技術要素 - 情報デザインとUI/UX	予習：UI/UXの基本（使いやすさと見やすさ）について調べる 復習：日常で利用しているアプリやウェブサイトを1つ選び、使いやす点・改善点を考える	2
第10回	中間テストと解説	予習：それまでの講義の内容のまとめ 復習：試験後の解説の復習	2
第11回	技術要素 - マルチメディア技術と応用	予習：画像や動画の圧縮方法（例：JPEG、MP4）について調べる 復習：講義の内容を復習	2
第12回	技術要素 - DX実現に向けた技術の活用	予習：クラウドサービスやRPAについて調査する 復習：自分が利用してみたいクラウドサービスを1つ選び、その理由と活用方法を考える	2
第13回	ITシステムの評価と選定	予習：ITシステムの評価指標（コスト、信頼性、拡張性）について基本を学ぶ 復習：学んだ評価指標を使って、個人で考える「理想的なITシステム」を1つ挙げて評価する	2
第14回	まとめと今後の展望	予習：講義全体の振り返りとして、各回の学びを要約する 復習：改めてケース企業の課題の改善策を考えてみる	2

卒業研修Ⅰ		LM-E-401	必修 2単位 4 年前期
63 Graduation Works and ThesisⅠ			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
☐ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	  
☐ 複数(1回の授業を2人以上と一緒に担当)		教職科目 (情報)	
☐ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
☐ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 川島 和浩 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 小祝 慶紀 黎 敏利			
授業の達成目標			
セミナーⅥで作成した「卒業研究構想書」をもとに、研究に取り組む。一連の研究活動を通じて専門分野に関する知識を深め、研究の具体的な方法と発表の技術を修得する。 研究論文の執筆に関しては、研究室毎のフォーマットに則り、論理整合制のある記述内容であることが求められる。 また、参考文献の引用箇所については、上記フォーマットで定める正しい表記方法を用いること。表記方法が不適切である場合は、剽窃とみなすことになる為、留意すること。			
ミニマムリクワイアメント			
1. 研究室毎のフォーマットに則り論文項目「研究テーマ・研究背景」について執筆する。 2. 研究室毎のフォーマットに則り論文項目「既存研究のレビュー」について執筆する。 3. 研究室毎のフォーマットに則り論文項目「研究計画(調査計画)」について執筆する。 4. 研究室毎のフォーマットに則り論文項目「仮説構成(理論仮説・実証仮説)」について執筆する。 5. 研究室毎のフォーマットに則り「調査項目、等」について執筆する。			
上記のうち「1・2・3」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
セミナーⅥで作成した「卒業研究構想書」をもとに、設定した「研究目的」を達成するための研究活動を行い、研究論文にまとめる。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
研究指導教員毎に別途掲示する。			
参考書等			
研究指導教員毎に適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
1. 中間報告 2. 研究論文(初稿)※研究室毎のフォーマットに則り、次を評価基準項目とする。「研究テーマ・研究背景・既存研究のレビュー・研究計画(調査計画)・仮説構成(理論仮説・実証仮説)・調査項目、等」			
「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
適宜研究指導教員が解説する。			
備考			

63	卒業研修Ⅰ	LM-E-401	必修 2単位 4 年前期
Graduation Works and ThesisⅠ			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・研究室毎 個別面談(履修登録確認、等)	セミナーⅥまでの課題、研究構想を振り返り、卒業研究構想書の加筆・修正を行う。 卒業研修Ⅰの研究計画日程を立てる。	1
第2回	卒業研究構想書の加筆・修正 1: 研究目的の明確化	「研究で何を明らかにするか」について明確にする。 指導を受けた箇所を加筆・修正する。	1
第3回	卒業研究構想書の加筆修正 2: 研究方法の具体化	「どのような手法を用いて研究目的を達成するのか」について明確にする。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第4回	卒業研究構想書の加筆修正 3: 研究テーマの新規性についての再確認	既存研究と自身の研究テーマを比較して新規性が担保されているか確認する。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第5回	卒業研究 1: 論文執筆(「研究テーマ・研究背景」「既存研究のレビュー」「研究計画(調査計画)」「仮説構成(理論仮説・実証仮説)」等)について、論文(初稿)の執筆を開始する。	指定項目(「研究テーマ・研究背景」「既存研究のレビュー」「研究計画(調査計画)」「仮説構成(理論仮説・実証仮説)」等)について、論文(初稿)の執筆を開始する。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第6回	卒業研究 2: 論文執筆(「研究テーマ・研究背景」「既存研究のレビュー」「研究計画(調査計画)」「仮説構成(理論仮説・実証仮説)」等)について、論文(初稿)の執筆を開始する。	論文(初稿)のリライトに取り組む。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第7回	卒業研究 3: 論文執筆(「研究テーマ・研究背景」「既存研究のレビュー」「研究計画(調査計画)」「仮説構成(理論仮説・実証仮説)」等)について、論文(初稿)の執筆を開始する。	論文(初稿)のリライトに取り組む。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第8回	卒業研究 4: 論文執筆(「研究テーマ・研究背景」「既存研究のレビュー」「研究計画(調査計画)」「仮説構成(理論仮説・実証仮説)」等)について、論文(初稿)の執筆を開始する。	論文(初稿)のリライトに取り組む。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第9回	卒業研究 5: 論文執筆(「研究テーマ・研究背景」「既存研究のレビュー」「研究計画(調査計画)」「仮説構成(理論仮説・実証仮説)」等)について、論文(初稿)の執筆を開始する。	論文(初稿)のリライトに取り組む。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第10回	卒業研究 6: 論文執筆(「研究テーマ・研究背景」「既存研究のレビュー」「研究計画(調査計画)」「仮説構成(理論仮説・実証仮説)」等)について、論文(初稿)の執筆を開始する。	論文(初稿)のリライトに取り組む。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第11回	卒業研究 7: 論文執筆(「研究テーマ・研究背景」「既存研究のレビュー」「研究計画(調査計画)」「仮説構成(理論仮説・実証仮説)」等)について、論文(初稿)の執筆を開始する。	論文(初稿)のリライトに取り組む。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第12回	卒業研究 8: 中間報告	研究(調査、作品制作、等)および論文執筆の進捗について確認し、必要な作業に取り組む。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第13回	卒業研究 9: 中間報告のフィードバック	研究(調査、作品制作、等)および論文執筆の進捗について確認し、必要な作業に取り組む。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1
第14回	期末面談	研究(調査、作品制作、等)および論文執筆の進捗について確認し、必要な作業に取り組む。 指導を受けた箇所を加筆修正する。	1

64	企業倫理	LM-B-401	選択 2単位 4 年前期
	Business Ethics		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4年全組 黎 敏利			
授業の達成目標			
企業倫理の理論と実践を理解し、倫理的な企業システムや事業活動、職場環境の構築に向けた知識と能力を養う。倫理的判断力と実務での応用力を高めることを目指す。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 企業が直面する倫理的課題(例: コンプライアンス、腐敗防止、労働環境、消費者保護、環境問題など)を把握している。 (2) 主要な倫理理論(例: 功利主義、義務論、徳倫理)を理解し、具体的なケースに適用できる。 (3) 倫理的問題が発生した場合の企業の対応(例: 内部通報制度、倫理委員会の設置など)について知識を持っている。			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、(1)～(3)とする。			
授業の概要			
ビジネスと倫理学を基礎に、良い企業システム、事業活動、職場の創造をテーマにケースを用いて学ぶ。現実のビジネス倫理における課題及び解決策も探求する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
高浦康有、藤野真也(2023)『理論とケースで学ぶ企業倫理入門』, 白桃書房。			
参考書等			
他の文献についても授業の中で適宜情報提供を行う。			
成績評価方法・基準			
授業参加態度(50%)、プレゼンテーション(50%)。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中に講評を行い、優秀な回答例や共通の誤りを示して解説する。			
備考			

64	企業倫理	LM-B-401	選択 2単位 4 年前期
	Business Ethics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション	企業倫理とは何かについて考える。 企業倫理とは何かについてメモを参考しながら自分の言葉でまとめる。	2
第2回	ビジネスと倫理学	ビジネスと倫理学の関係について考える。 授業で議論した事例を基に、ビジネスと倫理学の関係をまとめる。	2
第3回	企業倫理の制度化	有名企業の倫理規定を1社調べ、ポイントをメモする。 授業内容を基に、調べた企業の倫理規定の長所・短所を分析する。	2
第4回	コーポレートガバナンス	日本のコーポレートガバナンスコードを一読する。 授業で紹介された事例を基に、良いガバナンスの条件を考える。	2
第5回	ステークホルダー志向の経営	ステークホルダーに関する記事を読み、具体的な事例を探してくる。 企業とステークホルダーの関係で発生した倫理的課題を1つあげ、解決策を考える。	2
第6回	良い企業を評価する投資のしくみ	ESG投資に関連するニュースを調べる。 授業内容を基に、投資家がどのように企業を評価するかを説明する。	2
第7回	戦略と倫理	有名企業の戦略的意思決定で倫理的要素が含まれた例を調べる。 ケーススタディで使用した例を基に、戦略的倫理が業績に与える影響を分析する。	2
第8回	マーケティングと倫理	過去に物議を醸した広告事例の一つ調べてくる。 自分の調べた事例について、代替案を考える。	2
第9回	環境経営	ISO14001やSDGsに関する基礎資料を読む。 自分の関心がある分野で、環境経営がどのように実現されているか調べる。	2
第10回	AIと倫理	AIに関連するニュースを1件調べ、概要をまとめる。 自分の調べたニュースを基に、AIの倫理的課題を考える。	2
第11回	働きがいのある仕事	「働きがいのある会社ランキング」の上位企業を調べる。 ランキング企業の取り組みの共通点を分析し、まとめる。	2
第12回	ダイバーシティ・マネジメント	日本企業でのダイバーシティ推進事例を1件調べる。 授業内で議論した課題について、自分なりの解決策を考える。	2
第13回	組織の倫理風土とリーダーシップ	倫理的リーダーシップの成功事例を調べてくる。 自分が所属している組織において、倫理風土を改善するためのアイデアを考える。	2
第14回	技術者倫理と経営	技術者倫理が問われた事例を調べる。 調べた事例を基に、技術者倫理と経営の関連性を分析する。	2

65	経営実践	LM-B-402	選択 2単位 4 年前期
Applied Management			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
クラス分け (クラス分けで担当する)	○ 地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	○ アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
4 年全組 - 未定			
授業の達成目標			
地域資源 (ヒト・モノ・カネ・情報) を総合し、地域・産業・技術のイノベーション展開を実現するための組織・協働システムとして産官学連携を想定した role-playing (グループワーク) を通し、組織のミッションを遂行する上での個人の役割、組織内での情報共有、外部組織との円滑なコミュニケーション及び取引を体験し、組織内外で起こる諸問題に対応するための適応力を養う。本講義は地域や宮城県をフィールドに学生諸君がさまざまな組織の一員を演じ、これまで学んできた経営関連講義とコミュニケーション関連講義の両方の知識を総動員して「どう動いたら自組織や相手組織にとって望ましい結果につながるか」を実践的に学ぶ。また、ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 産官学連携の意味と必要性を理解できる (2) 与えられたロールの職務、職責、組織外で求められる役割を理解できる (3) 産官学連携の一員として課題を抽出し、解決するための提案ができる (4) 関連する組織同士がビジネス上または連携上Win-Winになる交渉ができる (5) 取引等を記憶し、キャッシュフローを把握できる (6) 財務諸表を作成し、説明できる (7) 財務諸表を読み込んで次年度に改善すべき点を指摘できる			
授業の概要			
営利企業に限らず、あらゆる組織が組織のミッションを達成するために活動を行っている。また、それらの活動においては必ず他組織との関わりが発生し、取引を進めたり連携を図るために普段からの良好な関係構築と適切なコミュニケーション、さらにネットワークの拡大が必要となる。自組織内で自らの役割を果たすだけでなく、他組織との関わりの中でどのようにコミュニケーションを取り、交渉し、関係を築き上げていっていかを学ぶ。その方法として講義で適宜理論を紹介する。学生諸君はそれらを応用する形でグループワークに参加する。各自はこの講義を通して演じる 1 役を選び、それぞれが自組織内の役割に基づき他組織と交渉や連携をすすめるバーチャルな産官学連携を体験する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
別途掲示する。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
講義中に配付するワークシート (主に role-playing に関わるワーク。理論の理解度と応用力を見る。) 30%、Role-playing 時の発表内容 (全員に自分の役割についての発言機会を与える。産官学連携を成功に導くためにどのような努力や工夫をしているかを見る。) 達成目標に関するテーマ。目標到達度を見る。) 30%。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
ワークシート及びロールプレイングの発表内容は次回講義時に全体に対しフィードバックを行う。レポート内容はWebClassを通して各自にコメントする。			
備考			

65	経営実践	LM-B-402	選択 2単位 4 年前期
Applied Management			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	産官学連携とは	「産官学連携」の概念を調べる。	2
第 2 回	事例紹介：文部科学省知的クラスター創成事業金沢地域	宮城県内の産官学連携事例を調べる。	2
第 3 回	組織編成 (Role-playing 配役)	国からの補助金による産官学連携の事例に何があるかを調べる。	2
第 4 回	組織のミッション (組織の目標設定)	講義で配付するワークシートを仕上げる。	2
第 5 回	組織のバロメータ設定 (組織の経営／運営状況と特徴を明らかに)	自動車産業の振興に関わる組織や企業と、それらのために働く職種を調べる。	2
第 6 回	組織の情報公開 (組織のバロメータの発表)	ロールプレイング上、自分自身に配役された役割についての知識を深める。	2
第 7 回	ネットワークづくり (Six Degrees of Separation、名刺交換)	配役された組織のミッションを考える。	2
第 8 回	取引・連携の開始 (Role-playing による)	産官学連携と自組織の存在意義を整理する。	2
第 9 回	ネットワークの拡大とネットワークマップ (Role-playing 及びネットワークマップ作成)	組織の特徴を表すためのバロメータを (自由に強みを持つ項目を設定し、合計100になるように割り振りも) 考える。	2
第 10 回	産官学連携と職務 (産官学連携が自分の role に与える影響について発表)	組織内で話し合い、コア・コンピタンスを明確にして数値設定をする。	2
第 11 回	Win-win交渉 (ZOPA、BATNA、IntegrativeBargaining)	組織内で話し合い、コア・コンピタンスを明確にして数値設定をする。	2
第 12 回	アサーティブな取引・連携の継続 (Role-playing による)	各組織がロールプレイングで発表したバロメータから、他組織の特徴 (強み) を整理する。	2
第 13 回	外的環境変化への適応 (Role-playing による)	知人をたどって著名人まで辿り着くネットワークを書く。	2
第 14 回	産官学連携を遂行する上での留意点、まとめと最終レポート課題について	ロールプレイングで行った名刺交換により、いかにネットワークが広がったかをワークシート上で計算する。	2

卒業研修Ⅱ		LM-E-402	必修 4単位 4 年後期
66 Graduation Works and Thesis II			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
☐ 単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	  	
☐ 複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
☐ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
☐ クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
4 年全組 川島 和浩 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 小祝 慶紀 黎 敏利			
授業の達成目標			
卒業研修Ⅰに引き続き、卒業研究を完成させる。研究活動(調査、作品制作、等)および研究論文執筆の過程で、自己研鑽に努める。			
研究論文の執筆に関しては、研究室毎のフォーマットに則り、論理整合制のある記述内容であることが求められる。 また、参考文献の引用箇所については、上記フォーマットで定める正しい表記方法を用いること。表記方法が不適切である場合は、剽窃とみなすことになる為、留意すること。			
ミニマムリクワイアメント			
1. 研究論文について、研究室毎のフォーマットに則り「研究テーマ・研究背景・既存研究のレビュー・研究計画(調査計画)・仮説構成(理論仮説・実証仮説)・調査項目、等」について、論理的に記述している。 2. 研究論文について、研究室毎の指定フォーマットに則って「1」について、論理的に記述している。 3. 研究論文において、適切な引用表現(出典の明確化、引用箇所の「表現」等、引用文章量、等)で文章を記述している。 4. 文末は「である調」で統一している。 5. 図表のキャプション位置(図：下・表：上)が全て適切である。 6. 学年共通のフォーマットに則り、要旨集原稿を提出する。 7. 新規性および社会的利益に帰する内容であることが、充分認められる卒業研究になっている。			
上記のうち「1・2・3・4・5・6」を本科目のミニマムリクワイアメントとする。			
授業の概要			
客観的根拠(論証あるいは実験)に裏付けられた卒業論文を完成させ、研究成果を学内で発表する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
研究指導教員毎に別途掲示する。			
参考書等			
研究指導教員毎に適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
1. 口頭試問 2. 研究論文(最終稿)および要旨集原稿 「1・2」を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
適宜教員が指導する。			
備考			

66	卒業研修Ⅱ	LM-E-402	必修 4単位 4 年後期
Graduation Works and Thesis II			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・研究室毎 個別面談(履修登録確認、等)	卒業研修Ⅰまでの研究過程を振り返る。 4 年次後期の研究計画を再確認する。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第2回	研究(調査、作品制作、等)・研究論文執筆 1	研究計画に沿って、研究(調査、作品制作、等)および論文執筆に取り組む。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第3回	研究(調査、作品制作、等)・研究論文執筆 2	研究計画に沿って、研究(調査、作品制作、等)および論文執筆に取り組む。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第4回	研究(調査、作品制作、等)・研究論文執筆 3	研究計画に沿って、研究(調査、作品制作、等)および論文執筆に取り組む。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第5回	研究(調査、作品制作、等)・研究論文執筆 4	研究計画に沿って、研究(調査、作品制作、等)および論文執筆に取り組む。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第6回	研究(調査、作品制作、等)・研究論文執筆 5	研究計画に沿って、研究(調査、作品制作、等)および論文執筆に取り組む。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第7回	研究(調査、作品制作、等)・研究論文執筆 6	研究計画に沿って、研究(調査、作品制作、等)および論文執筆に取り組む。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第8回	研究(調査、作品制作、等)・研究論文執筆 7	研究計画に沿って、研究(調査、作品制作、等)および論文執筆に取り組む。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第9回	研究(調査、作品制作、等)・研究論文執筆 8	研究計画に沿って、研究(調査、作品制作、等)および論文執筆に取り組む。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第10回	口頭試問(研究室毎)	研究発表の準備(発表資料の作成・発表練習)に取り組む。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第11回	研究(調査、作品制作、等)・研究論文執筆 9	論文執筆に取り組む。 指導された箇所に関して研究論文の加筆・修正に取り組む。	2
第12回	卒業研究発表(全体) 1	研究室代表者：発表用資料(PowerPoint)を作成し、発表練習に取り組む。 代表者以外：研究論文および要旨集原稿の加筆・修正に取り組む。 研究論文および要旨集原稿の加筆・修正に取り組む。	2
第13回	卒業研究発表(全体) 2	研究室代表者：発表用資料(PowerPoint)を作成し、発表練習に取り組む。 代表者以外：研究論文および要旨集原稿の加筆・修正に取り組む。 研究論文および要旨集原稿の加筆・修正に取り組む。	2
第14回	期末面談	各種提出課題の確認を行い、未提出がある場合は期日までに提出する。 研究論文および要旨集原稿の加筆・修正に取り組む。	2

67	環境関係法	LM-A-001	選択 2単位 未記入
	Environmental Law		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1～4 年全組 小祝 慶紀			
授業の達成目標			
① 環境問題が社会・経済へ影響を及ぼした歴史的背景 (明治期から現代まで) を理解する。 ② 環境法の根幹となる環境基本法についてその概要を理解する。 ③ 典型七公害、地球環境問題に対応する環境法 (大気汚染防止法、地球温暖化対策の推進に関する法律など) の役割を理解する。 ④ これまでの我が国における環境裁判のリーディングケースとは何かを判例を用いて説明できる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の①と②である。			
授業の概要			
本講義は、まず、わが国の公害・環境問題の歴史を概観する。次に、具体的な公害・環境問題へ対応する法制度について、その内容や判例等を交えて解説する。これらの解説を基に、学生自身の問題意識について議論を行う (外部のゲストを交える場合もある)。さらに、今日では法制度を補完する制度として経済的手法等の新しい政策も用いられているため、これらについても学ぶこととする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業の事務部局において業務に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
環境法へのアプローチ [第2版] 黒川 哲志、奥田 進一 (編集) 成文堂 2012			
参考書等			
参考書は、適宜授業で紹介する。 毎回レジュメをWebClassへ掲載するので、必ずダウンロードしておくこと。			
成績評価方法・基準			
授業内課題 (10回) 30% 小テスト (2回) 20% 中間レポート (1回) 20%とまとめの試験30%を基本とし、合計得点で総合的に評価する。			
中間レポート等については、第1回の授業の時に提示する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業内課題など授業で提示したレポート等については、次回の授業で、提出課題に対しての見解や、よくある誤り等についてコメントする。			
備考			

67	環境関係法	LM-A-001	選択 2単位 未記入
	Environmental Law		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	イントロダクション環境法とは何か 授業の概要	シラバス記載内容を事前に確認する。	2
第 2 回	環境問題の歴史	環境学の概要を復習する。	2
第 3 回	環境問題と法制度	明治期の鉱害、戦後の鉱害や1980年代からの地球環境問題について予習する。	2
第 4 回	都市環境と法制度 (景観保全)	公害・環境問題に対応する法制度を知る講義を経て環境法体系についてその課題を考える。	2
第 5 回	自然環境と法制度 (自然公園)	環境問題と法を復習する。	2
第 6 回	公害問題と法制度 (1) (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染)	わが国の自然公園 (国立公園) の成り立ちを知る講義を経て現状についてその課題を考える。	2
第 7 回	公害問題と法制度 (2) (悪臭、騒音、振動、地盤沈下)	自然公園の役割を復習する。	2
第 8 回	化学物質管理のための法制度	典型七公害を知り、そのなかで大気汚染、水質汚濁、土壌汚染についてそれぞれの問題を知る講義を経て現状についてその課題を考える。	2
第 9 回	新しい政策 (経済的手法)	大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の問題を復習する。	2
第 10 回	新しい権利 (環境権)	典型七公害である、悪臭、騒音、振動、地盤沈下について、それぞれの問題を知る現状についてその課題を考える。	2
第 11 回	環境問題解決の手段 (1) 損害賠償、差し止め	悪臭、騒音、振動、地盤沈下の問題を復習する。	2
第 12 回	環境問題解決の手段 (2) 公害紛争処理制度	PRTRの内容を知る。PRTRの問題点について考える。	2
第 13 回	原子力関係法	RTRの問題点について復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	法的規制のほかに、社会の行動ヘインセンティブを与える手法の効果について考える。	2
		社会の行動ヘインセンティブについて復習する。	2
		環境権とは何かを知る講義を経て環境権の役割と課題を考える。	2
		環境権の課題を復習する。	2
		環境問題と裁判について新聞等で調べておく講義を経て、裁判における損害賠償、差し止めの現状と課題を考える。	2
		損害賠償、差し止めの現状と課題を復習する。	2
		実際の公害紛争処理制度について調べる講義を経て、課題を考える	2
		公害紛争処理制度とは何かを復習する。	2
		原子力に関する諸問題を調べる講義を経て、原子力の今後について考える。	2
		原子力に今後を復習する。	2
		これまでの講義を教科書やノートなどをきちんとまとめる。	2
		これまでの学習内容を振り返る。	2

68	NPO論	LM-B-003	選択 2単位 -
Non-Profit Organization			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学年全組 渡邊 一馬			
授業の達成目標			
NPO（非営利活動）の経営者（代表者や事務局長等）の課題意識や理想とする社会像、経営手法にふれることで、以下の項目を達成することを目標とします。 (1) 地域社会の問題を理解する (2) 問題と課題との関係を理解する (3) グループワークを通じてコミュニケーション力を向上させる (4) 事業計画の共同作成を通じて調査力、企画力を向上させる			
ミニマムリクワイアメント			
本科目のミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)～(3)とする。			
授業の概要			
NPO とは、非営利で社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のことです。今回は NPO の中でも事業活動によって地域社会が抱える問題の解決をめざす団体を題材に、彼らの発想力、問題解決能力、事業構想力から、受講生各自の今後のキャリア形成や生き方のヒントをききます。講義&事例紹介と、ゲスト講義、そして、グループワークを組み合わせ、ソーシャリスト各団体に対して、社会問題解決のための事業プランを共同で立案してもらいます。			
実務経験を活かした教育について			
担当者が NPO 活動を支援する「中間支援組織」の代表であるため、全国の NPO 経営者とのネットワークがあるとともに、NPO 活動の立ち上げや立て直しのコンサルティングの実務経験が豊富である事を活かした教育を行う。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は指定しません。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
事業プラン策定を中心としたグループワーク（少人数学習）の評価（60％）と、その他の受講レポート等評価（40％）を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示したレポート等については、次の授業で全体に対してのレポートでの重点事項等の解説を行い、フィードバックする。			
備考			

68	NPO論	LM-B-003	選択 2単位 -
Non-Profit Organization			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション：講義紹介、自己紹介など	予習：あなたが知っている NPO を一つ調べてきてください。	2
第2回	講義：NPO とは何か、NPO と企業との違い	予習：NPO と企業とは何が違うのが調べて下さい。	2
第3回	講義：NPO における経営資源の集め方	予習：NPO が活用している経営資源を調べてきてください。	2
第4回	グループワーク：ゲスト講義の準備	予習：ゲスト予定の団体について調べてきてください。	2
第5回	ゲスト講義①：実際に NPO を経営している方から、取り組んでいるテーマ、経営方法について学ぶ	予習：グループで検討した役割に従って準備を進めます。	2
第6回	ゲスト講義②：実際に NPO を経営している方から、取り組んでいるテーマ、経営方法について学ぶ	復習：ゲスト講義の内容をワークシートにまとめてください。	2
第7回	講義：中間振り返り、ゲスト講義の準備	予習：自身がつくったワークシートを見直します。	2
第8回	ゲスト講義③：実際に NPO を経営している方から、取り組んでいるテーマ、経営方法について学ぶ	予習：グループで検討した役割に従って準備を進めます。	2
第9回	ゲスト講義④：実際に NPO を経営している方から、取り組んでいるテーマ、経営方法について学ぶ	復習：ゲスト講義の内容をワークシートにまとめてください。	2
第10回	グループワーク：社会問題解決テーマの決定と検討	予習：自身がつくったワークシートを見直します。	2
第11回	グループワーク：事業プランの策定 1	予習：担当するテーマについての事業アイデアを考えてきます。	2
第12回	グループワーク：対象団体への質問検討	復習：事業アイデアについて見直してください。	2
第13回	グループワーク：事業プランの策定 2	予習：対象団体への質問内容を準備します。	2
第14回	グループワーク：事業プランの発表全体振り返り	復習：グループで検討した役割に従って準備を進めます。	2
		復習：ワークシートの見直しを行ってください。	2
		予習：発表内容を作成します。	2
		復習：これまでの発表内容等授業全体の復習してください。	2

69	中小企業と地域創生	LM-B-002	選択 2単位 後期
Small and Medium-sized Enterprises and Regional Revitalization			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		○ 地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年～4年全組 黎 敏利			
授業の達成目標			
本講義の受講を通じて下記のことを獲得していくことを目標とします。 講演：世の中、地域、仕事、経営者を知る 意見交換：自分の考えを相手に伝えるように話をする力、相手が伝えたいことを聞く力 レポート：文章の書き方、自分の考えを文文化する力			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 中小企業と地域社会の関係性(地域創生、地元雇用の創出など)を理解している。 (2) 地域密着型の事業展開の重要性を説明できる。 (3) 授業内での議論に積極的に参加し、他者の意見を尊重しながら建設的な意見を述べることができる。			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、(1)と(2)とする。			
授業の概要			
中小企業は、日本の企業数の99.7%、働く人の約10%を占め、日本経済を支える屋台骨です。本講義では、単なる企業紹介や、社内での取り組み事例だけでなく、地域における中小企業の役割、特に人材育成、地域貢献や地域創生と中小企業の役割について講義します。各宮城県に本社所在地を置く中小企業経営者が教壇に立ちます。講義を通して「業界・業種・職種」についても考えてもらいキャリア形成の生き方)を考えていきましょう。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎回講義のレポート：50%、単元(全14講座)終了時のレポート：50% レポートテーマ 「本日の講義を聞いて、今後の人生にどう生かしていきますか」			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示した課題レポートについては、WebClass および次回の授業のなかでフィードバックする。			
備考			
ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になる場合があります。			

69	中小企業と地域創生	LM-B-002	選択 2単位 後期
Small and Medium-sized Enterprises and Regional Revitalization			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション(講義の体験版)	シラバスを読んで概要を把握する。	2
第2回	(左官) 「街」を創り、「暮らし」を守る	授業の目的と内容を振り返り、疑問点を整理する。	2
第3回	(建設・リフォーム) 事業を通して元気な地域をデザインする	企業紹介資料を読む。	2
第4回	(建築) 家づくりから消費型社会を変える ～暮らしを取り戻す～	左官業が地域に与える影響を考察する。	2
第5回	(製造) 信頼の精巧で暮らしの未来を創造す	建設業界の現状を調べる。	2
第6回	(デザイン) お客様の「想い」に寄り添うデザインとブランディング	地域の建設事例を調べ、授業内容を深める。	2
第7回	(リサイクル) 「いのちを活かす」持続可能なまちづくりへ	持続可能な建築の事例を調べる。	2
第8回	(美容) 頑張っている社員が報われる企業を目指して	建築業の取り組みと地域貢献についてまとめる。	2
第9回	(飲食) 食を通じた地域のブランド化	製造業の課題を調べる。	2
第10回	(農業) 夢実る大地を未来につなぐ	講話内容をもとに製造業の地域貢献を考察する。	2
第11回	グループ討論～地元の中小企業と触れ合おう～ 共同求人委員会と共催	デザイン業界の動向を調べる。	2
第12回	(水産) 海と笑顔をつなぐ魚屋を目指して	地域におけるデザインの役割について考察する。	2
第13回	(自動車) 10年ビジョンと地域創	リサイクル業界の取り組みを調べる。	2
第14回	総括講義	リサイクル業と地域循環型社会の関連を考える。	2
		美容業界の経営課題を調べる。	2
		従業員エンゲージメントの向上策についてまとめる。	2
		飲食業界の地域貢献事例を調べる。	2
		地域ブランド化の可能性を考える。	2
		農業の地域連携事例を調べる。	2
		持続可能な農業の取り組みをまとめる。	2
		討論テーマについて準備する。	2
		グループで得た知見を振り返り、まとめる。	2
		水産業の地域貢献事例を調べる。	2
		水産業の未来の可能性について考察する。	2
		自動車業界の動向を調べる。	2
		地域経済と自動車業の関連性を考える。	2
		全体の内容を振り返る準備をする。	2
		授業で学んだことをまとめ、レポートに記載する。	2

70	アニメビジネス論		LM-B-001	選択 2単位 前期
	Animation Bissuiness Studies			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)		
○	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
		○ 実務経験のある教員担当		
		アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
1年全組 猿渡 学 芝 修一 及川 武				
授業の達成目標				
アニメ業界の事業環境に関して、映像投資・エンターテインメントビジネスの展開のケーススタディを学び、新規事業を起案するための、企画力・調査力・分析力を醸成する。実例をもとにした具体的企画を提案することを達成目標とする。				
ミニマムリクワイアメント				
(1) アニメビジネスを含むエンターテインメント全体に対して、経営デザインの視点から分析ができる (2) エンターテインメントビジネスの新たなフェーズを提案できる (3) AIとビジネスの関連の中で、経営デザインの学びとつなげて新たな企画を立案できる (4) ケーススタディをもとに、新規事業を企画できる				
上記(1)を必須として、(2)から(3)のいずれかを実現できることをミニマムリクワイアメントとする。				
授業の概要				
アニメーションにとどまらず、現代のエンターテインメントビジネスの現況を知ることで、次世代の新たなアニメビジネスの可能性を探る。いわば”アニメビジネス2.0”を想定する。実務の経験豊富な講師を招聘し、ケーススタディとディスカッションを繰り返すことで、アニメビジネスだけではなくエンターテインメントビジネスの知見を習得し、自由な企画の立案を構想する。毎回の講義に対してのまとめと質問を課題とし、次の回において、受講者の見解をもとに講義を進める。				
実務経験を活かした教育について				
株式会社アニメイトホールディングスグループの最高顧問である及川武氏、脚本家・プロデューサーとしてエンターテインメントビジネスにおいて実績のある芝修一氏(両名とも本学特任教授)を中心とした講師による、リアルなケーススタディを提供し、学科の学びが実際の社会と密接につながっていることを学生に理解してもらう機会としてこの講義を設定した。				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
参考書等				
成績評価方法・基準				
A: 講義ごとの課題提出(40点) B: 最終課題(60点)とし、総合点として評価をおこなう。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
講義中にフィードバックする(LMSを使用するケースもある)				
備考				

70	アニメビジネス論		LM-B-001	選択 2単位 前期
	Animation Bissuiness Studies			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	アニメ業界概要：アニメ・周辺業界の現状	所与の課題を予習課題としてまとめること。 講義に対してのまとめと質問をLMSを通して提出すること	2	
第2回	アニメ業界の拡大：アニメビジネスの事業変遷	講義で指示された課題をまとめること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第3回	アニメと映像：進化するアニメーション技術	講義で指示された課題をまとめること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第4回	事業環境の変化と新規事業：ケーススタディ（事業環境編）	講義で指示された課題をまとめること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第5回	AIとアニメーション：技術によるエンターテインメント環境の変化	日常生活の中ですでに浸透している”AI技術”を概観しておくこと 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第6回	AI技術の現状と課題	AIとVFX、CGなどのコンピュータ技術との親和性を検討すること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第7回	事業企画の調査分析のケーススタディ	所与の課題を予習課題としてまとめること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第8回	事業企画の調査分析のケーススタディ	所与の課題を予習課題としてまとめること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第9回	企画・調査の実例：最終課題にむけて	所与の課題を予習課題としてまとめること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第10回	エンターテインメントビジネスの製作プロセス：プリプロダクション	所与の課題を予習課題としてまとめること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第11回	作品制作のプロセス：プロダクション	所与の課題を予習課題としてまとめること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第12回	エンターテインメントの特質	所与の課題を予習課題としてまとめること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第13回	エンターテインメントの現状と分析	所与の課題を予習課題としてまとめること。 講義のまとめ内容と、疑問点や質問項目を整理してLMSを通して提出すること	2	
第14回	企画のプレゼンテーション	プレゼンテーションに向けて、スライド資料とレジュメを用意すること 講義で指摘された点を修正・アップデートして、実現の可能性を模索して企画書を作成して提出すること	2	